

# 子育て支援研究センター一年報

第12号 2022



## 宇都宮共和大学の地域社会連携・地域貢献ポリシー

宇都宮共和大学は、須賀学園の教育理念を踏まえ、大学の目的として、「時代の潮流と社会の要請を見極め、常に知識と能力を向上させるとともに大学を地域社会における知的交流の場とし、さらに経済、教育、文化の振興と社会の向上に貢献できる人材を育成することを目的とする」（学則第1条）と定めている。

宇都宮共和大学は、栃木県内に3つのキャンパスと活動拠点を有しており、学園の100年を超える伝統を生かしながら、絶えず「まち」、「ひと」に視点を当て栃木県央を中心とする北関東圏の「地域社会」の経済、教育、文化の向上と発展のために貢献することを目的とする大学である。

この目的を達成するために、本学は、「社会連携・社会貢献に関する方針」を次の通り定める。

### 1. 目的と使命

本学は、地域社会と連携し、時代の要請に応え、将来地元で地域社会の発展に貢献し、活躍できる人材を養成することに努める。

### 2. 産学官の連携

本学は、企業、自治体、各種団体・組織、市民等と積極的に連携し、地域社会の発展に貢献できるように努める。

### 3. 地域活動の拠点

本学は、本学の有する教育・研究資源を積極的に地域社会へ提供し、地域の教育・文化活動の拠点となるよう努める。

### 4. 地域貢献活動への支援

本学は、教職員・学生が、研究・教育の成果を地域社会に発信する活動及び教職員・学生が地域の活動や行政施策の助言者等として参画することを積極的に支援する。教職員は、「宇都宮共和大学コンプライアンス規程」の重要性を認識し、高い倫理観を持って行動する。

(平成29年11月1日制定)

# 子育て支援研究センター年報 第12号 2022

## 目 次

<b>I. 子育て支援研究センター2021年度公開講座報告</b>	1
1. 公開講座の概要	1
2. 第35回公開講座 「子どもの主体性を育み子どもによりそう保育」 一般社団法人家族・保育デザイン研究所 所長 汐見 和恵氏	2
3. 第36回公開講座 「乳幼児の危機管理を考える」 危機管理教育研究所 代表 国崎 信江氏	6
<b>II. 地域の就学前施設との交流を取り入れた保育者養成教育実践報告</b> 地域の就学前施設との交流を取り入れた保育者養成教育プロジェクト	8
<b>III. Tiny (障がいのある子どもと家族の支援) 実践報告〈II〉</b> 土沢 薫	23
<b>IV. 親子遊びの会－子育てネットワークづくりプロジェクト－実践報告</b> 今村 麻子・大島 美知恵	37
<b>V. 自然遊びの会・行事实践報告～親子ふれあいネイチャー事業～</b> 桂木 奈巳	49
<b>VI. 地域産学官連携活動報告</b>	54
1. 大学地域連携活動支援事業報告	54
2. 大学コンソーシアムとちぎ第18回学生&企業研究発表報告	66
3. 宇都宮市環境学習センター事業報告	70
<b>VII. 宇都宮共和大学子ども生活学部 卒業研究</b>	78
1. 2021年度卒業研究一覧	78
2. 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会 第35回学生研究発表報告	79

---

## 資 料

---

<b>I. 2021年度子育て支援研究センター事業報告</b>	87
<b>II. 2021年度専任教員の社会貢献活動 (子ども生活学部)</b>	91
<b>III. 宇都宮共和大学子育て支援研究センター規程</b>	96
<b>IV. 宇都宮共和大学客員研究員に関する要領</b>	98





# I. 子育て支援研究センター2021年度公開講座報告

## I-1. 公開講座の概要

1. 目的：幼稚園教諭・保育士や子どもの教育・保育に関わる仕事に従事している学校教職員・行政職員・一般市民を対象に、その専門的知識や技術を研究し、あわせて大学教員と交流することを目的として、連続講座を開講する。

2. 2021年度テーマ：乳幼児期の保育の質の重要性

3. 場所：宇都宮共和大学・宇都宮短期大学 長坂キャンパス 5号館（第35回）  
オンライン開催（第36回）

### 4. 日程と講座内容

第35回 講演会 6月26日（土） 14：00～15：30	講演「子どもの主体性を育み子どもによりそう保育」 一般社団法人家族・保育デザイン研究所所長 汐見 和恵 氏
第36回 講演会 11月2日（土） 13：30～15：30	講演「乳幼児の危機管理を考える」 一般社団法人危機管理教育研究所代表 国崎 信江 氏

#### <第35回>

講師：汐見 和恵 氏

学習塾経営などいくつかの仕事の後、42歳で大学、大学院へ。専門は家族社会学と社会福祉学。子どもをもった夫婦関係、家族関係や子育て支援・家族支援、保育園・幼稚園の子どもの育ちと保育者の関わりなど、幅広く子育てと家族に関する研究をしている。家族・保育に関する論文や著書を数多く執筆する他、各所での講演会を開催と多岐にわたり活躍中。

#### <第36回>

講師：国崎 信江 氏

横浜市生まれ。女性や生活者の視点で家庭、地域、企業の防災・防犯・事故防止対策を提唱している。講演、執筆、リスクマネジメントコンサルなどの他、内閣府「防災スペシャリスト養成企画検討会」委員、東京都「震災復興検討会議」委員などを務める。危機管理に関するテレビ出演多数。

## I-2. 第35回公開講座

### 講演「子どもの主体性を育み子どもによりそう保育」

一般社団法人家族・保育デザイン研究所 所長  
元フレーベル西が丘みらい園 園長  
汐見 和恵 氏

宇都宮共和大学 子育て支援研究センター公開講座

### 子どもの主体性を育み子どもによりそう保育

2021年6月26日

一般社団法人家族・保育デザイン研究所 所長  
元フレーベル西が丘みらい園 園長 汐見和恵

1

### 今日の講座のねらい

- ・子どもの育ちをどう支えるかー保育の目標
- ・なぜ“主体性を育む保育”というの？
- ・主体性を育むってどうするの？
- ・子どもによりそうこととどうつながるの？
- ・具体的にどうればいいのか？

2

### 保育の指針から

1. 保育の目標  
子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す基礎を培う
2. 養護と教育を一体的に行うとはどういうこと？  
養護とは何をさすのか
3. 幼児教育を行う施設として共有すべき事項の確認  
重要：心情・意欲・態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする  
「学びに向かう力、人間性等」

3

### 幼児教育を行う施設として共有すべき事項 育みたい資質・能力についての3つの柱

- ① 生きていくための「知識・技能」の習得
- ② 多様な状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
- ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか  
学びを人生・仕事・社会に生かせるような  
「学びに向かう力・人間性等」⇒いわゆる非認知能力

4

<育みたい資質・能力が明示された理由>

この間の研究で、人間の能力を大きく

認知的能力  
非認知的能力（社会情動的スキル）

と分けることが提唱されるようになってきました。

どちらも必要で大事ですし、相互作用的に伸びるのですが、後々の人間の社会生活で大きな影響を与えるのは非認知能力だとわかってきたのです。

しかも、それが乳児期からの育ちで身についていく、ということがわかってきました。

5

人としての豊かな育ち・生きる力を育てる保育が求められている

- ・子どもが主体性を発揮し、子ども自身が活動の中で自ら学び自ら育つ
- ・遊びや生活を通して人として豊かに育ち、生きる力が育つ

⇒ 主体的・協働的学びへの方向性をめざす

6

## これまでの保育を振り返ってみよう

先生が「教えることが教育」と考えてしまうと「子どもに指示する」のが普通。  
先生の意図に沿わない場合は、「子どもが先生の思う方向に行動しない、態度をとらない」とみてしまう。 ⇒子どもを否定する見方を とってしまうことに疑問を持たない。

先生が考えるのと異なる方向に行きそうな場合は禁止したり、修正を求める。  
このような教育を受けるとどのような子どもに育つでしょうか。

↓  
大人の指示に従うことができる・大人の意図を組んで行動することができる  
禁止されたことはしないようにする（禁止の指示があるから）

↓  
ここからは「子どもは自ら育つ」「子どもを信じることで子どもが育つ」という確信は得られない！

7

## 保育者主導の保育から子どもの主体性を育む保育へ

- ・先生が主導する保育から子ども発信の遊びへ
- ・子どもの興味関心を大事にする
- ・子どもの興味が発展するような環境設定
- ・その日その日の遊びから子どもの思考が継続していくような遊びの発展へ

➡ 高度な専門性が必要（保育者）

8

## 主体性を育む保育のための協同的学び

<保育者・職員が共有する子どもへの向き合い方>

- ①「自分はこの園で愛されているんだ」と感じる職員の対応
- ② 失敗しても絶対にとがめられないという安心できる環境
- ③ 指示語・命令後・禁止語が聞こえてこない、温かい言葉環境
- ④ 静かな環境
- ⑤ 気持ちの良い環境
- ⑥ 穏やかな環境

9

## 園がめざす保育の共有化

1. 職員全員でどのような保育をめざすのかを具体的に話し合う
2. 職員全員で共有し、実践する
3. まずは、1つのことを全員が共有実践してみる
4. 子どもの力を信じてかかると子どもが変わる
5. 保護者が保育の方向性に共感し、信頼を得る

10

## 共有する具体的内容

- ・保育園は文化創造の場一質のよい文化を創り出す

気持ちのよい環境で暮らす・美しく暮らす  
穏やかに暮らす（環境の大切さ）

- ・人として尊重して対話をする  
0歳児から、その人に話をするときには「〇〇だから何何しようね」と伝える。子どもの訴えを受け止める。無視しない。
- ・子ども同士のトラブルに対しては、審判をするのではなく、「人間関係の作り方を教える」人となる。困った子とみない。

11

- ・必要以上に大きな声で話さない
- ・必ず子どものそばに行ってから話す
- ・急いでどたどた走らない  
落ち着いて行動することでゆったりした気持ちになる⇒子どもが落ち着く⇒ストレスが少ない
- ・子どもを何とかしてやろうとしない（保育士の思うように動かさない）
- ・子どもへの視点一何に関心を持っているのかな？  
何をしたいんだろう？なるほど、今度はどうする？  
状況を観察しよう。  
遊びの展開を予想して環境・素材・おもちゃを整える
- ・まずは子どもと相談する・提案することがあってもよい。

12

## 保護者から 主体性を育む保育への不安と疑問

子ども主体の保育は良いと思うけど、それで小学校へ行ったらちゃんとやっていけるのですか？

自由にする ➡ 状況を考えずに自分勝手にすることではない。  
人間、どんな状況でも自分で状況判断・行動できることが最も重要！  
（豊かにしなやかに力強く生きる力、危機管理能力）

└─ これからの時代が必要とされる力

今までの保育及び学校教育の弊害一言われたことはできるが・・・  
自由な発想、精神的なタフさ、粘り強さ、考えること、相談すること  
人としての豊かさが重要。

13

## 乳児の育ち

- ・大事にしてきたこと  
0歳児から人として尊重して向き合う  
保育者との信頼関係の中で安心して過ごす  
子どものすべての表現を大事にする  
五感を育み豊かな感性を育てる

14

## 幼児の育ち

遊びを通してさまざまに工夫したり、表現をする。友達と相談して知恵を出しあう。

身体を育て、心を育て、頭を育てる  
保育者はその姿に寄り添ってサポートする

15

## <子どもの姿>

- ・看護師による保健指導から、子どもたちなりに感染症への理解ができ、手洗いやうがいを意欲的に行うことができたり、習慣づけることができた。
- ・全身を使って身体を動かしたり、頭でイメージしながら身体をコントロールして遊ぶ姿が見られた。また、挑戦したい気持ちも強い反面で自分のできないを感じたり、考えながら遊ぶことができた。
- ・排泄の自立は子どもの気持ちや個々の発達に寄り添いながら進めたことで、無理なく安心して取り組む姿が見られた。この安心が子どもの自立への意欲になっていた。

16

～子どもの成長から保育者は何を学んだのか～

- ・子どもが主体的・能動的に過ごせるために、保育者はどのように見守っていけば良いのか？

17

## <朝の集い>

- 1 紹介、相談などの発信
2. 活動の見通しをもつ
3. 所属意識をもつ

18

## 子ども自身が選択する環境を

子どもが興味関心を持ったタイミングで  
参加しない選択・自由もある  
いろいろな参加の仕方がある

19

## 参加しない子がいたら

その子を「参加しない」と決してみない！



- ・否定的に捉えるのではなく、その子の気持ちや状況を把握しようとする
- ・参加の有無よりも、その日、その子が何を体験していたのかを振り返る

20

## 子どもの遊びから学んだこと

- ・子どもがやってみようという気持ちが日々の遊びの計画となっていく ➡ 興味関心を大事にする
- ・子どもは、やってみようことだからこそ、自分の「好き」を探求していくことができる。

教えようとしなくていいからこそ、日々の遊びの中で、どうしてもっと面白くなるのか、その時の状況で子ども自身が考えていき、変えていく力があること。相談をして納得したことはしっかりと意識して実行していく姿があることを確信できた。子どもを信じることの大切さを学んだ。

21

## 大事にしたいこととは何か？をその都度確認

保育者が迷わないよう、  
何を大切にしたいか？を振り返る

自発的に生活を進めていく中で、  
子どもが何を体験するのか？

22



### 迷い・悩み・疑問に対して

職員会議におけるエピソード記録の発表によって子どもへの視点を共有し、保育者だけでなくみんながそれぞれの思いで話ができる場（良い所を確認できる）  
子どもを中心に話すことで保育の批判にならず話やすい

- ・全員が意見を出せる関係性が重要
- ・会議や行事の振り返り等でも、必ず全員が話せる場作り

23

### 全員が意見を出せる関係性

||

素直に語り合える場

||

同僚性の構築

24

### 日々の葛藤が成長に繋がる

- ・子どもを軸に話し合うことで、何を大切にしたいのか？を共通に
- ・大人も一人ひとりが主体的に考えること

25

### まとめ～子ども・保護者・職員の視点から

#### 子どもの育ち

- 0歳の時から～だから～だね。という言葉を交わす⇒物事の理を理解する。いつでも安心できる環境（どんな時にも否定されない）で子どもの主体性を大事にして、一人ひとりの育ちに寄り添う。
- ・異年齢の活動を通じて、一人ひとりの育ちだけでなく、友との関わりの中でさらに力を伸ばし、結果的に集団としての質が高くなる。
- ・年長組の子どもが飛躍的に成長する。子どもが子どもの能力を見極めて言葉で伝えたり技術を教えたりする力を身に着ける
- 幼児期に必要な力を獲得する（10の姿＝自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚、言葉による伝えあい、豊かな感性と表現）

26



## I - 3. 第36回公開講座

### 講演「乳幼児の危機管理を考える」

危機管理教育研究所代表 国崎 信江 氏

#### □ 事件・事故を教訓として

2021年7月29日に、保育園の送迎バスに取り残され熱中症で死亡した5歳児の事例は、実は2007年7月にも同様の事故があった。教訓を生かしていないというのが実態。事件・事故後にとるべき行動の一つ目は、事件・事故の翌日にすべての職員での緊急ミーティングを開催、自分たちの園で起こりうるか検証を行うこと。検証は常時行い、全員の職員のレベルを上げていくこと。二つ目は、今回の事件を踏まえてマニュアルに改善する点を書き足し、それを形骸化させないよう、訂正していつも使うようにすること。危機対応には子どもも、職員も、日ごろからイメージ力を培って、最悪を想定し行動する心構えをもつこと。

#### □ 災害に備えておくこと

災害に対して園の立地条件を確認するのに、国土地理院地図を活用するのがよい。この地図では、地形や水脈、土地の高低差などが一目で把握できる。また、国土交通省のハザードマップは常時見ておいてほしい。同様に地域の防災情報サイトとして「キキクル」も活用できる。他に、国土交通省の「川の防災情報」、ここからの気象庁リンクが自分の地域に最適。「防災アプリ」も役立つ。これらはブックマークをしてマニュアルにも書き、活用することを勧める。地震で避難する際の集合場所は屋外一択ではない。耐震構造であれば室内が安全な場合もある。壁や家具、什器等の非構造物も固定すること。実際に災害時には、人数確認よりも、傷を負った子どもの応急処置に追われるため、マニュアルには多様な想定で改訂を施すこと。職員で防災を学ぶ映像資料として、防災科学技術研究所の「e-defence」の活用を。

#### □ 幼児に危機管理能力を育てるために

園内の危ないと思われるところに、目立つ色のステッカーを貼ると、子どもが危険箇所を意識化する。ダンゴムシのポーズは、実は自分が開発したが、2歳くらいから、ダンゴムシはどうして丸まるのかなど、話をしながら安全なポーズを体験し、自分の身を守る力を獲得できるとよい。服に火が付いた時には、転げまわって消すという知恵も身に付けさせたい。ゲーム感覚で、炎の形に切ったフェルトを両面テープで体に貼り付け、転げまわってそれを取るなどの遊びとして取り組むとよい。その他、しゃがんでゴーその後ジグザク走りという鬼ごっこで、逃げる力を育てる。災害時のデマを実感するため、伝言ゲームで、情報が正しく伝わらない経験をするのもよい。

防災のビデオは子どもたちのトラウマにしないために、他の楽しいビデオと同列で、お楽しみの一つとして入れていく。防災の絵本もたくさん出版されているので、絵本棚に置いておくのも有効。

園が避難所になった時のために、ポリ手袋、タオル、石鹸などを備えておく。家庭では、食料

ストックは、食べて新たなものを補充しておくローテーションを。

Q：子どもの手指のアルコール消毒について

A：アルコールが目に入ったり、吸い込んだりする危険を考えると、石鹸での手洗いを習慣づけて細菌やウイルスを洗い流すのがよい。

## Ⅱ. 地域の就学前施設との交流を取り入れた保育者養成教育実践報告

### 地域の就学前施設との交流を取り入れた保育者養成教育プロジェクト

#### 1 はじめに

子ども生活学部の開設以来、学生が子どもを身近に感じながら学ぶことをねがい、地域の就学前施設との交流保育を授業に位置づけ、実践してきた。科目間連携によって＜教材研究―指導計画の立案―実践―反省・評価＞を行い、子ども理解や保育のしくみ、子どもの生活に身近な教材や環境構成、保育者としての基本姿勢など実践を通して学ぶ機会となる本取り組みは、本学の保育者養成教育の特色の1つでもある。一方、大学教員にとっては、授業を通して交流保育をサポートしたり参観したりすることによって、学生の実態や課題をとらえ、自身の授業実践やカリキュラムを振り返る機会になっている。

今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響によって本交流の計画も変更・中止が余儀なくされた。本稿では、今年度実践した交流保育に加え、変更・中止も含めた取り組みについて報告する。

#### 2 令和3年度の交流保育計画

令和3年度の交流保育の計画を表1に示す。

表1 令和3（2021）年度 交流保育計画

年 度 当 初 の 計 画	実 際
<b>認定みどりこども園</b> <b>第1回交流保育</b> 2021. 5. 31 1-2限 年長 2021. 6. 1 1-2限 年中 テーマ：春の自然に親しむ 関連授業：保育内容環境（2年）保育内容総合演習Ⅰ、 保育原理、フィールドワークⅠ、レクリエーション演習Ⅰ（1年） 主 担 当：桂木、市川、月橋、田野邊	<b>計画通り実施</b> 2021. 5. 31（月）年長50名 子ども生活学部2年生48名 2021. 6. 1（火）年中50名 子ども生活学部1年生53名 ※3密回避のため森で活動 ※新型コロナウイルス対策について、大学・園・ 保護者と文書にて共有 ※園の常勤看護師が引率に加わり、健康安全指導
<b>第2回交流保育</b> 2021. 11. 24（水）年中 11. 25（木）年少 11. 26（金）年長 テーマ：秋の自然に親しむ 関連授業：フィールドワークⅠ、保育内容総論、保育内容 総合演習Ⅰ（1年）、フィールドワークⅡ（2年） 主 担 当：市川、桂木、月橋、田野邊	<b>計画通り実施</b> 2021. 11. 24（水）年中55名 2021. 11. 25（木）年少55名 2021. 11. 26（金）年長55名
<b>認定しらゆりこども園</b> <b>第1回交流保育</b> 2021. 6. 8（火）年少2クラス 6. 15（火）年少2クラス テーマ：春の自然に親しむ 関連授業：フィールドワークⅠ、レクリエーション演習 Ⅰ、保育内容総合演習Ⅰ、保育原理（1年） 主 担 当：桂木、市川、田野邊	<b>計画通り実施</b> 2021年6. 8（火）年少2クラス 子ども生活学部1年生53名 2021年6. 15（火）年少2クラス 子ども生活学部1年生53名 ※新型コロナウイルス対策について、大学・園・ 保護者と文書にて共有 ※園の常勤看護師が引率に加わり、健康安全指導

<p><b>第2回交流保育</b>  2021年11月30日 年少2クラス  2021年12月1日 年少2クラス  テ ー マ：秋の自然に親しむ  関連授業：フィールドワークⅠ、保育内容総合演習Ⅰ、  保育内容総論（1年）、人間関係、保育内容、  総合演習Ⅱ（2年）  担 当 者：市川、桂木、田野邊</p>	<p><b>計画通り実施</b>  2021年11月30日 年少2クラス  子ども生活学部1年生53名  2021年12月1日 年少2クラス  子ども生活学部2年生56名</p>
<p>風と緑の認定こども園  <b>第1回交流保育</b>  2021年11月1日（月）年長 87名  テ ー マ：秋の自然に親しむ  関連授業：フィールドワークⅠ、レクリエーション演習  Ⅱ、保育内容総合演習Ⅰ、保育内容総論（1年）  担 当 者：市川、桂木、月橋、田野邊</p>	<p><b>計画通り実施</b>  2021年11月1日（月）年長児3クラス（87名）  子ども生活学部1年生53名  2年生2名  4年生5名</p>
<p>つるた保育園  <b>第1回交流保育</b>  2022年1月19日 1、2限  テ ー マ：いろいろな遊びを楽しもう  関連授業：保育内容総合演習Ⅲ（3年）  担 当 者：桂木、市川、田野邊</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止</p>

### 3 交流保育実践報告 認定みどりこども園

#### 3-1 第1回交流保育・活動の概要

- 1) 日 時 2021年5月31日（月）、6月1日（火）1-2限目
- 2) 場 所 宇都宮共和大学こどもの森
- 3) 参 加 者 認定みどりこども園 年長児（48名）、引率保育教諭5名、看護師1名  
年中児（46名）、引率保育教諭5名、看護師1名  
子ども生活学部2年生57名（「保育内容環境」）  
子ども生活学部1年生52名（「保育内容総合演習Ⅰ」）
- 4) 担当教員 市川、桂木、田野邊
- 5) テ ー マ 春の自然に親しむ
- 6) ね ら い 園児：大学の森で、秋の自然に親しむ  
学生：園児の様子を観察し、子どもの興味や関心、環境とのかかわりについて  
理解する  
教員：活動の様子から学生の実態を把握し、授業内容、方法、カリキュラムを  
振り返る機会とする

## 7) 活動の流れ

時間	子どもの活動	学生の動き	備考
9:10 10:30 11:30	○来校 (10:10園バス発予定) ・排泄(アリーナ)  ○森の探検 ・森を探索し、発見や見立てを楽しんだり、体を動かしたりしながら、森の自然に親しむ  ○帰園	・学生集合、出席確認 活動の留意事項の確認、環境整備  ・遊びの動線に留意し、安全に遊べるよう配慮する。 ・見守りを中心としながら、子どもの活動を観察する。 ( ・立ち入り禁止区域の入り口 ・倒木など安全面の配慮が必要な場 ) ・子どもが話しかけてきた際には応じる。 ・子どもの発見や疑問を受け止めつつ、子どもに返す関わりとなるように留意する。	・身支度確認、手指消毒 ・トイレに踏み台 ・森の入口に消毒設置  ・安全には十分に留意し、体調不良やケガ等は必ず保育者に報告する ・子どもの様子に留意し、適宜水分補給する

### 3-1-1 活動の経過関連科目と日程

#### ① 2年生

年月日	曜日	時限	科目	担当者	内容
2021. 5. 17	月	2	保育内容 環境	桂木	環境整備
2021. 5. 31	月	1-3	保育内容 環境	桂木	保育観察 振り返り

#### ② 1年生

年月日	曜日	時限	科目	担当者	内容
2021. 5. 1	土	1-2	フィールドワーク I	桂木・田野邊	環境整備
2021. 5. 8	土	1-2	保育内容総合演習 I	市川・田野邊	森で遊ぶ
2021. 6. 1	火	1-2	保育内容総合演習 I	市川・田野邊	環境整備 保育観察
2021. 6. 3	木	1	保育原理	市川	振り返り

### 3-1-2 活動の様子



丸太でバランスをとって



葉っぱの模様に気付いて





葉っぱの匂い



ブランコにのって



「誰かいるかな？」



「おたから発見！」

### 3-1-3 学生の気づき、コメントシートの記述より（抜粋）

- ・大人にとっては小さなことでも、子どもにとっては大きな発見、経験である。子ども同士の会話や保育者との会話は、観察する上で重要なことだと感じ、もっと注意して観てみたいと思った。表情に注目するだけでなく、やりとりの過程も重要だと学んだ。また、子どもは素直に自分の心を表に出すことができないこともあった。
- ・男の子＝虫と遊ぶというイメージがあり、女の子でも虫に触れたいといった思いがあるのだなと思いました。
- ・日常的なことでも、子どもにとっては成長につながるものがたくさんある。先生とのかかわりによって学ぶことが多いので、先生の存在はとても大きいと思った。また、先生に気に入られようと、顔を伺う子どももいることがわかった。
- ・今まで困っている子がいたら、すぐに手を貸してしまっていたが、何もしなくても子どもは自分でどうにかする力を持っていて、そのようなすごいところがあることを気づけた。

### 3-2 第2回交流保育・活動の概要

- 1) 日 時 2021年11月24日（水）、25日（木）、26日（金）
- 2) 場 所 宇都宮共和大学こどもの森
- 3) 参加者 認定みどりこども園 年長児（55名）、引率保育教諭5名、看護師1名  
 年中児（55名）、引率保育教諭5名、看護師1名  
 年少児（55名）、引率保育教諭6名、看護師1名  
 子ども生活学部1年生52名（「保育内容総合演習Ⅰ」）
- 4) 担当教員 市川、桂木、田野邊
- 5) テーマ 秋の自然に親しむ
- 6) ねらい 園児：大学の森で、秋の自然に親しむ  
 学生：園児の様子を観察し、子どもの興味や関心、環境とのかかわりについて理解する  
 教員：活動の様子から学生の実態を把握し、授業内容、方法、カリキュラムを振り返る機会とする

#### 7) 活動の流れ

時間	子どもの活動	学生の動き	備考
9:10 10:30	○来校 (10:10園バス発予定) ・学生駐車場に到着 ・排泄（アリーナ）	・学生集合、出席確認 活動の留意事項の確認、環境整備	・身支度確認、手指消毒 ・トイレに踏み台 ・森の入口に消毒設置
	○森の探検（到着順次） ・森を探索し、発見や見立てを楽しんだり、体を動かしたりしながら、森の自然に親しむ	・遊びの動線に留意し、安全に遊べるよう配慮する。 ・見守りを中心としながら、子どもの活動を観察する。 （ ・立ち入り禁止区域の入り口 ・倒木など安全面の配慮が必要な場 ） ・子どもが話しかけてきた際には応じる。 ・子どもの発見や疑問を受け止めつつ、子どもに返す関わりとなるように留意する。	・安全には十分に留意し、体調不良やケガ等は必ず保育者に報告する ・子どもの様子に留意し、適宜水分補給する
11:30	○帰園		

#### 3-2-1 活動の様子



「丸太の下に何かある？」（24日）



葉っぱがたくさん（24日）





「木って柔らかい！」(24日)



「同じの見っけ！」(24日)



葉っぱの音に耳を向けて(25日)



長さの比べっこ(26日)

### 3-2-2 学生の気づき、コメントシートの記述より(抜粋)

- ・1人が見つけるとほかの子もその自然物の周りに集まり、一緒に触れるなどしながら同じ気持ちを共有しているような様子も見られた。
- ・「今、カサカサって言ったね?」「葉っぱが笑ってた!」「ごわごわって怒ってるみたいだった!」しゃがみこんで葉っぱをみているだけなのに様々なイメージを言葉にして伝えあっていって子どもの世界観の面白さを感じた。
- ・森に入ると、どんぐりや栗等の木の実に興味を持ち、それぞれ拾う姿が見られた。
- ・マップを見ながら、自分たちで森を探検していた。リーダー的な存在の子がメンバーを引っ張っていた。年長になると特定の子だけでなく、集団として認識し、各々の役割を担っているように見えた。
- ・はじめは自然活動とも子どもともどう接していけばよいかわからず、戸惑いが大きかった。活動を重ねるうちに、自然へチャレンジすることの大切さや子どもへの接し方がわかってきて、多少危ないことでもサポートしながら挑戦してもらいたいと思うようになった。

## 4 交流保育実践報告 認定しらゆりこども園

### 4-1 第1回交流保育・活動の概要

- 1) 日 時 2021年6月8日(火)、6月15日(火) 1-2限目
- 2) 場 所 宇都宮共和大学こどもの森
- 3) 参加者 認定しらゆりこども園 年少児(85名)、引率保育教諭15名  
子ども生活学部1年生53名(「保育内容総合演習Ⅰ」)
- 4) 担当教員 市川、桂木、田野邊
- 5) テーマ 春の自然に親しむ
- 6) ねらい 園児：大学の森で、春の自然に親しむ  
学生：園児の様子を観察し、子どもの興味や関心、環境とのかかわりについて理解する  
教員：活動の様子から学生の実態を把握し、授業内容、方法、カリキュラムを振り返る機会とする

#### 7) 活動の流れ

時間	子どもの活動	学生の動き	備考
9:10		・学生集合、出席確認 活動の留意事項の確認、環境整備	・身支度確認、手指消毒 ・トイレに踏み台 ・森の入口に消毒設置
10:30	○来校 (10:10園バス発予定) ・排泄(アリーナ)  ○森の探検 ・森を探索し、発見や見立てを楽しんだり、体を動かしたりしながら、森の自然に親しむ	・遊びの動線に留意し、安全に遊べるよう配慮する。 ・見守りを中心としながら、子どもの活動を観察する。 (・立ち入り禁止区域の入り口 ・倒木など安全面の配慮が必要な場) ・子どもが話しかけてきた際には応じる。 ・子どもの発見や疑問を受け止めつつ、子どもに返す関わりとなるように留意する。	・安全には十分に留意し、体調不良やケガ等は必ず保育者に報告する ・子どもの様子に留意し、適宜水分補給する
11:40	○帰園		

#### 4-1-1 活動の経過と日程

##### 1年生

年月日	曜日	時限	科目	担当者	内容
2021. 5. 1	土	1-2	フィールドワークⅠ	桂木	環境整備
2021. 6. 7	月	4	保育内容総合演習Ⅰ	市川・田野邊	交流保育に向けて
2021. 6. 8	火	1-2	保育内容総合演習Ⅰ レクリエーション演習Ⅰ	市川・田野邊・月橋	環境整備 保育観察
2021. 6. 15	火	1-2	保育内容総合演習Ⅰ レクリエーション演習Ⅰ	市川・田野邊 月橋	環境整備 保育観察
2021. 6. 28	月	4	保育内容総合演習Ⅰ	市川・田野邊	振り返り



#### 4-1-2 活動の様子



「お魚いるの？」



「くりの花？」



「いい匂いだよ！」



自分の力で



「何かいるよ！」



「このみどりのなに？」

#### 4-1-3 学生の気づき、コメントシートの記述より（抜粋）

- ・オオバコを使って引っ張り相撲をして遊んでいた。強そうなものを見つけては友だちや保育者と対戦するが、『オオバコ』がどれか見つけられない子もいて、友だち同士教えあう姿もあった。
- ・初めは、森の中を歩くことに不安をみせていた3歳児も、回を重ねるごとに慣れていき、森の中の葉や木の実、虫などに興味をもつようになった。
- ・ダンゴムシが丸くなる様子が不思議だったみたいで何度も「見ててね！」と言ってつんつんして丸めていた。私にとってもその子と同じように初めての体験だと思ったようで何度も見せて



くれたのだと思った。

- ・木の枝で、湿った落ち葉をかきわける姿を見せたところ、素手で触ることに抵抗があった子どもたちも無理なく散策を楽しめた。

## 4-2 第2回交流保育・活動の概要

### 4-2-1 活動の概要

- 1) 日 時 2021年11月30日(火)、12月1日(水) 2限 雨天予備日12月8日
- 2) 場 所 宇都宮共和大学こどもの森
- 3) 参加者 認定しらゆりこども園 年少児(85名)、引率保育教諭15名  
子ども生活学部1年生53名(「保育内容総合演習Ⅰ」)  
子ども生活学部2年生57名(「人間関係」)
- 4) 担当教員 市川、桂木、高柳、杉本、田野邊
- 5) テーマ 秋の自然に親しむ・身体を使って遊ぶ
- 6) ねらい 園児：大学の森で、秋の自然に親しむ  
学生：園児の様子を観察し、子どもの興味や関心、環境とのかかわりについて理解する  
教員：活動の様子から学生の実態を把握し、授業内容、方法、カリキュラムを振り返る機会とする

### 7) 活動の流れ

時間	子どもの活動	学生の動き	備考
10:30	○来校 (10:10園バス発予定) ・排泄(アリーナ)  ○森の探検 ・森を探索し、発見や見立てを楽しんだり、体を動かしたりしながら、森の自然に親しむ	・学生集合、出席確認、健康チェック表の回収 活動の留意事項の確認、環境整備  ・見守りを中心としながら、子どもの活動を観察する。 ・遊びの動線に留意し、安全に遊べるよう配慮する。 ( ・立ち入り禁止区域の入り口 ) ( ・倒木など安全面の配慮が必要な場 ) ・子どもが話しかけてきた際には応じる。 ・子どもの発見や疑問を受け止めつつ、子どもに返す関わりとなるように留意する。	・身支度確認、手指消毒 ・トイレに踏み台 ・森の入口に消毒設置  ・安全には十分に留意し、体調不良やケガ等は必ず保育者に報告する ・子どもの様子に留意し、適宜水分補給する ・お手洗いにいきたい子どもは保育者へ伝達
11:40	○帰園		

### 4-2-2 活動の経過と日程

#### ①1年生

年月日	曜日	時限	科目	担当者	内容
2021. 11. 30	火	2	保育内容総合演習Ⅰ	市川・田野邊	保育観察
2021. 12. 6	月	2-3	保育内容総論	市川	振り返り

② 2年生

年月日	曜日	時限	科目	担当者	内容
2021. 11. 25	木	1	保育内容総合演習Ⅱ	月橋・田野邊	森に親しむ
2021. 12. 8	水	2	保育内容 人間関係	高柳・杉本	保育観察
2021. 12. 16	木	1	保育内容総合演習Ⅱ	月橋	振り返り

4-2-3 活動の様子



木の枝の音を鳴らして



「探検スタート！」



長さを調節して



「虫さん住んでるかな？」



「木の模様はぐるぐる」



「8番みっけ！」



#### 4-2-4 学生の気づき、コメントシートの記述より（抜粋）

- ・はじめはきれいな枯葉や木の実を集めることに一生懸命だった子どもたちだったが、保育者が枯葉を舞い上げると真似をしてシャワーに見立てたり、集めたりするようになった。
- ・切り株が並んでいるのを見て「太鼓みたい」、太鼓のような切り株の上でジャンプをして音を出すことを試していた。木についた蜜を見て「虫たちのレストランだ」、葉っぱのじゅうたんどう？という言葉がけに「気持ちいい！黄色いお風呂！」などたくさんの面白い言葉が子ども達から出てきた。
- ・たくさんの落ち葉の上にジャンプしたり、落ち葉をめがけて斜面を走って下ったりする中で、落ち葉の感触に安心感を覚えたことで、子どもたちの動きがダイナミックになっていった。

### 4-3 第3回交流保育・活動の概要

#### 4-3-1 活動の流れ

時間	子どもの活動	学生の動き	備考
10:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>○来校 (10:10園バス発予定)</li> <li>・排泄（アリーナ）</li> <li>○アリーナで体を動かして</li> <li>・巧技台コース</li> <li>・フラフープ</li> <li>・ボール</li> <li>・段ボール、たらいのそり</li> <li>・ガムテープの芯積み</li> <li>・遊具に関わる中で、体を動かしながら、発見や見立て、イメージをわかせる遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生集合、出席確認、健康チェック表の回収</li> <li>活動の留意事項の確認、環境整備</li> <li>・見守りを中心としながら、子どもの活動を観察する。遊びのモデルとして、遊んでいる姿を示す場合もある。</li> <li>・遊びの動線に留意し、安全に遊べるよう配慮する。</li> <li>・子どもが話しかけてきた際には応じる。</li> <li>・子どもの発見や疑問を受け止めつつ、子どもに返す関わりとなるように留意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身支度確認、手指消毒</li> <li>・トイレに踏み台</li> <li>・アリーナの入口に消毒設置</li> <li>・安全には十分に留意し、体調不良やケガ等は必ず保育者に報告する</li> <li>・子どもの様子に留意し、適宜水分補給する</li> <li>・お手洗いにいきたい子どもは保育者へ伝達</li> </ul>
11:40	○帰園		

#### 4-3-2 活動の様子



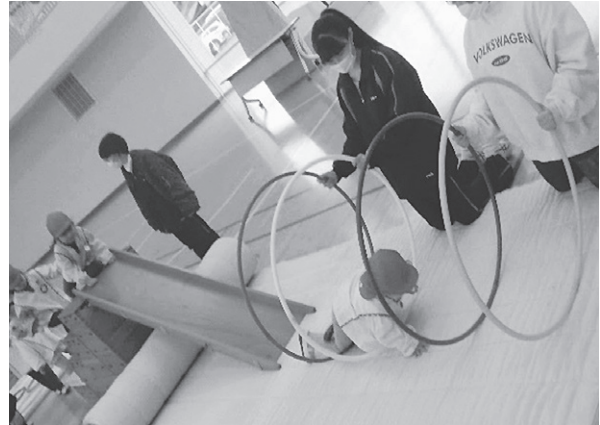
ガムテープの芯を積んで



巧技台コースで



わっかをめがけて



くぐって進む



ボールを集めて



車に見立てて

#### 4-3-3 学生の気づき、コメントシートの記述より（抜粋）

- ・用意されている遊びだけでなく、遊具の使い方を工夫することで遊びが変化し、また新たな遊びが生まれる瞬間を見ることができた。環境構成は子どもの姿に合わせて、再構成してみたが、そのタイミングは難しく、状況判断ができなかった。
- ・保育者の方が遊びの渦を作ることで、子どもたちもその姿を見て、自発的に遊びに向かっていた。
- ・この時期の子どもたちの人間関係が面白かった。一人で自分の世界を楽しむ子、気の合う友達とイメージを共有しながら遊ぶ子、先生を頼りに一緒に遊ぶ子など、新たな環境（アリーナ）だからこそその人間関係もあったのかもしれない。
- ・子どもの行動に対して、一呼吸おいて見守ることができるようになった。先読みして注意し、止めることが保育者として必要と思っていたが、子どもが何をしたいのか、自分の力でやり遂げられるか見守ることの重要性を感じた。

## 5 交流保育実践報告 風と緑の認定こども園

### 5-1 活動の概要

- 1) 日 時 2021年11月1日（月）1-2 限目
- 2) 場 所 宇都宮共和大学こどもの森
- 3) 参加者 風と緑の認定こども園 年長児（87名）、引率保育教諭9名

子ども生活学部1年生52名（「保育内容総合演習Ⅰ」）

4) 担当教員 市川、桂木、田野邊

5) テーマ 秋の自然に親しむ

6) ねらい 園児：大学の森で、秋の自然に親しむ

学生：園児の様子を観察し、子どもの興味や関心、環境とのかかわりについて理解する

教員：活動の様子から学生の実態を把握し、授業内容、方法、カリキュラムを振り返る機会とする

### 7) 活動の流れ

時間	子どもの活動	学生の動き	備考
9:10		・学生集合、出席確認 活動の留意事項の確認、環境整備	・身支度確認、手指消毒
10:45	○来校 ・アリーナ横に到着（バス3台） ・排泄（アリーナ）		・トイレに踏み台 ・森の入口に消毒設置
11:45	○森の探検 ・森を探索し、発見や見立てを楽しんだり、体を動かしたりしながら、森の自然に親しむ	・遊びの動線に留意し、安全に遊べるよう配慮する。 ・見守りを中心としながら、子どもの活動を観察する。 （ ・立ち入り禁止区域の入り口 ・倒木など安全面の配慮が必要な場 ） ・子どもが話しかけてきた際には応じる。 ・子どもの発見や疑問を受け止めつつ、子どもに返す関わりとなるように留意する。	・安全には十分に留意し、体調不良やケガ等は必ず保育者に報告する ・子どもの様子に留意し、適宜水分補給する
12:00	○集まり・グラウンドに移動		
13:00	○昼食 ○帰園		

### 5-2 活動の経過と日程

年月日	曜日	時限	科目	担当者	内容
2021. 10. 23	土	1-3	フィールドワークⅠ	桂木・田野邊	環境整備
2021. 11. 1	月	1	保育内容総合演習Ⅰ	市川・田野邊・月橋	保育観察
		2	レクリエーション演習Ⅱ		
		3	保育内容総論		
2021. 11. 8	月	2-3	保育内容総論	市川	振り返り

### 5-3 活動の様子



森の中を走り回って



「なに見つけたの？」





丸太の上に立って



バッタを見つけて



ザトウムシを見つけて



「工事中です」

#### 5-4 学生の気づき、コメントシートの記述より（抜粋）

- ・探索を繰り返していくごとに気づきを声にすることが多くなり、共感してもらえる喜びを感じることが増えて仲間意識が深まっていったように思う。
- ・子どもたち同士の言葉のやり取りが多かった。小さいバッタを捕まえようとした男児に「お母さんがいないと育てられないから捕まえないであげて」という子がいて、その気持ちをくみ取り逃がしてあげている姿があった。
- ・虫を怖がらない子どもたちとも一緒になって虫に触れて楽しむために、苦手な虫でも触れるようになること、触ると危険な動植物などの知識を身につける必要があると思った。
- ・子どもたちへの気配りや声かけなど、自分ではまだできていない部分が多く、もっと子どもの内面を見られるようになりたい。
- ・小さな子どもが危険な場面にいた時、すぐに手を出してしまいがちだったが、子ども達が自分でやりたいという気持ちを言葉や態度で感じ、少しずつではあるが、子どもの様子を見ながらいつでも助けられる距離にいて、手を出さずに見守ることを意識して関わることができた。それはとても勇気があることであった。

#### 6 今後の課題

学生は「子どもとはこんな感じ」という漠然とした子ども観を持っている。それは、今までの経験や情報によって形成されるのだろう。この漠然とした子ども観は、実際の子どもの関わる中

でより明瞭になったり、具体的な姿として認識されたりする。観察回数を重ねるにつれて子どもたちに近づきその言動を捉え、より子どもの遊びに注目することができた様子があった。

学生たちは子どもと直接関わることを通じて、さまざまな子どもの様子に目を向け、それぞれの子どもの応じた対応を考え、行動していた。緊張しながらも笑顔を心掛け、子どもと一緒に動くなど、受容的な雰囲気をつくって子どもに寄り添うとしていた。また、言葉かけに際しては目線に配慮し、子どもに分かりやすく伝えようと努めていた。

このように学生たちは、子どもと近い環境の中で身体全体を使って、観る、聴く、感じる、など観察を通じて、主体的に見聞きし、発見し、考え、状況に適応していく力、ひいては臨機応変に対応していく力のベースを培うことができたと思われる。

子どもは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持って関りそれらを生活に取り入れていこうとする力を養う」必要がある。「身近な環境」としての「自然」との出会いや触れ合いを通して、その不思議さや関わる喜びの感情を体験し、それが豊かな感情や好奇心を育み、思考力や表現力の基礎を形成していく。その時保育者が適切な関りをすることで、子どもは刺激を受け今まで関心がなかったものや自分とは違う考えや物について目を向け考えることができるようになる。そのため、保育者自身も自分を取り巻く環境に目を向け、変化を敏感に感じ、共感できる豊かな感性をもつことが求められる。保育者養成課程での学修に当たっては、学生自身が体験から問いをもてるような授業が必要である。授業担当者として、学生がどのような体験をしているのか問いかけ、教員の問いを受けて自身の遊びの体験を学生が振り返り、幼児期にふさわしい経験を得られる環境とはどのようなものか、自分の体験と現代の幼児の体験をどう結びつけるか、次の問いへとつなげていくような過程を描く必要がある。こうしたプロセスを授業に取り入れることが、保育実践者としての専門性を育む学修につながると考える。保育者養成は、養成校と保育現場との連携・協働によって成り立つ。今後も地域の就学前施設との交流を取り入れた保育者養成教育について検討を重ねていきたい。

担当教員 子ども生活学部 助 教 田野邊 涼  
准教授 市 川 舞  
教 授 桂 木 奈 巳

## Ⅲ. Tiny (障がいのある子どもと家族の支援)実践報告(11)

子ども生活学部 准教授 土 沢 薫

### 1. 変化と多様性の中でTinyらしく

今年度、Tinyは活動開始10年目の記念すべき時を迎えた。引き続きコロナ禍の状況で、Tinyらしい活動をどのように継続していくか、学生サークルTiny隊の若者たちとともに考



ホームページURL：

<https://www.tinytiny.info/>

図1. シンボルキャラTinyくん

え、動き、立ち止まり、再び動いた1年だった。左図1は、活動当初からシンボルキャラクターとして継続的に使用している「Tinyくん」、右写真1は、動画配信やSNSで活躍中の「たいにーちゃん」である。実際に直接触れ合いながらの実践活動が困難な状況が続き、コロナ禍であろうと止まることない子どもたちの成長に思いを馳せつつ、Tinyが貢献できることを模索した本年度の活動を中心に、以下ご報告する。そして、今後の活動の進むべき方向性を考える機会としたい。

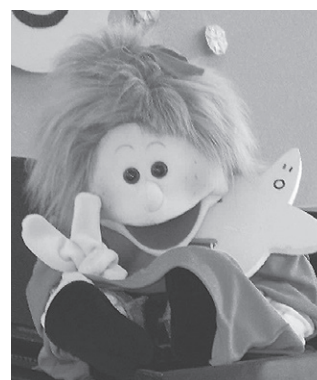


写真1. たいにーちゃん

### 2. Tiny活動の10年間の歩みと継続の危機

#### (1) 今年度の「あそびの集い」の活動について

Tiny活動の大きな柱の一つが、障がいがあってもなくても分け隔てなく親子で参加できる「あそびの集い」の活動である。学生たちが計画段階からかわり、活動を継続してきた(昨年度報告での「あそびの集い」のこれまでの活動内容について、表1に再掲する)。ところが、表1に示されるとおり、感染症対策により2020年明けから「あそびの集い」活動がストップする状況が続いている。そして、何とか対面での活動が実施できるようになることを願い、2021度は感染防止の手立てを工夫しながら、実際に実現可能な方法を模索した。結果として、直接子どもたちと触れ合う集合型活動については実施できないまま1年間が過ぎてしまったのだが、今回は、その試行錯誤の過程を振り返ることを通して、次年度につなげていきたい。

2021年度当初は、感染症予防の観点から、これまでと同じスタイルでの集合型による「あそびの集い」の実施は困難と判断、他の方法を検討した。そして、これまでにつながりのあった障害児関連施設等と連携し、少人数(3~5名)編成の出張Tiny隊を組んで施設訪問することで、密にならない工夫をしながら遊び活動を行う計画を立て、準備を進めた。その後、候補となる施設が決まり、出張Tiny隊の先発メンバーを決定し、実現に向けて前向きに準備をし始めた。ところが、時期を同じくしてSARS-CoV-2のデルタ株が猛威を振るい始め、しばらく様子を見ていたが、勢いは収まらず夏が過ぎ、感染拡大が収まりつつあると思ったところで次のオミクロン株が出現、子どもたちと触れ合う遊びの集いを行うことは見送らざるを得なくなった。こうして、2021年度に計画した出張Tiny隊による訪問でのあそびの集いは、残念ながら実現できないままとなってしまった。



表1. Tinyあそびの集いの実施状況

回	実施日	タイトル・内容	参加数	期
1	2012年8月25日(土)	「子どもと親と一緒に楽しめる音楽&歌あそび」音楽・お絵描き	46名	I期
2	10月28日(日)	「親子でストレス・マネジメント」身体、表現活動で発散・調整	28名	
3	12月2日(日)	「ミュージック・クリスマス」音楽遊び、歌遊び、生演奏鑑賞	29名	
4	2013年3月10日(日)	「お絵描き&工作あそび」のびのび自由な模様でひな人形づくり	29名	
5	4月14日(日)	「春の音楽あそび」手あそび、歌遊び、楽器演奏、ペープサート	30名	
6	6月30日(日)	「絵本で歌おう!リズムでジャンプ!」視覚教材と身体活動	24名	
7	8月25日(日)	「夏の思いっきりお絵かき大会」絵の具と種々の画材で共同制作	26名	II期
8	10月6日(日)	「子どもあそぼう!おとなしゃべろう!!」自由あそびと座談会	33名	
9	12月8日(日)	「ドキドキわくわくクリスマス」クリスマスの歌、ダンス、工作	40名	
10	2014年2月23日(日)	「今日は思いっきりあそび隊!」絵の具お絵かき、ひな人形作り	44名	
12	4月20日(日)	「何してあそぼう!楽しくあそぼう!!」自由あそびと座談会	32名	
13	6月1日(日)	「音♪楽♪感じよう!」楽器あそび、伸縮ボール、歌やダンス	33名	
14	7月13日(日)	「あそびのつどい」音楽あそび、歌遊び、パネルシアター	34名	
15	8月24日(日)	「夏だ!アートだ!楽しもう!!」絵の具で共同お絵かき遊び	33名	
16	10月5日(日)	「音を楽しむ♪リズムで弾む♪♪」打楽器演奏、生演奏鑑賞等	29名	
17	12月14日(日)	「うきうき☆にこにこクリスマス!!」手遊び、クリスマス工作	31名	
18	2015年2月22日(日)	「見たら触れたら感じたらったら〜♪」音階楽器演奏、大型絵本	37名	
19	4月19日(日)	「春の音あそび♪ゆったりあそび♪♪」音楽とからだ遊び	32名	
20	5月31日(日)	「音音おととと♪むずむずリズム」音で身体動・季節感	30名	
21	7月12日(日)	「絵の具でぴっちゃん・ぱたん・ペタペタボン!」作品	23名	
22	8月9日(日)	「音あそび♪リズムあそび♪♪」リズムで身体動、演奏	23名	
23	10月11日(日)	「みんなで楽しくアートの時間!」自由に描き、大変身!	37名	
24	12月6日(日)	「Tinyのクリスマスだよ♪」遊びで雰囲気を味わう	28名	
25	2016年2月7日(日)	「子どもだ!まつりだ!ひなまつり」ひな作りと家族写真	24名	
26	4月17日(日)	「春の音♪るんるんリズムで!」視覚教材、音楽とからだ	24名	
27	6月5日(日)	「ボクじまん、ワタシじまん、うちの子自慢!」親座談会	32名	
28	7月10日(日)	「わくわくアート、あっと、おっと!」感触や多様な表現	24名	
29	8月7日(日)	「音で遊ぼう♪リズムで動こう!」体を動かす自分らしさ	29名	
30	10月11日(日)	「みんなで楽しく、アートの時間!」共同制作を楽しむ	33名	
31	12月4日(日)	「Tinyのるんるんクリスマス♪」音楽・踊り・手遊び	31名	
32	2017年2月5日(日)	「音を楽しむ♪リズムで弾む♪♪」視覚刺激や動きで遊ぶ	24名	III期
33	4月23日(日)	「五感で春を感じよう〜♪」視覚教材や音楽、からだ遊び	22名	
34	6月11日(日)	「最高!自分流アートの時間」絵の具の感触や多様な画材	20名	
35	7月9日(日)	「音であそぼう♪リズムで動こう!」親はお話し会	8名	
36	8月27日(日)	「楽しく創って、みんなアートの大天才!」自由に表現	20名	
37	10月15日(日)	「みる、きく、うごく、あそぶ♪うけとる♪自分らしく!」	9名	
38	12月3日(日)	「Tinyのるんるんクリスマス♪」音楽・ダンス・団欒	9名	
39	2018年2月4日(日)	「音を楽しむ♪リズムで弾む♪♪」視覚刺激や動き楽しく	14名	
40	5月13日(日)	「音楽あそび〜♪」楽器演奏!音やリズムで遊びましょう	31名	
41	7月29日(日)	「思いっきりお絵かき!」画材を楽しみ、自由に表現	22名	IV期
42	12月24日(月・新)	「Tinyのるんるんクリスマス♪」Xmasの歌やダンス	20名	
43	2019年2月3日(日)	「Tinyの福はうち〜♪」季節にちなんだあそび体験	10名	
44	4月28日(日)	「春の音楽あそび〜♪」音やリズムで遊び、楽器演奏!	20名	
45	6月2日(日)	「自由あそび&お話し会」(保護者座談会の実施)	8名	
46	8月4日(日) AM	乳幼児の部:「思いっきりアート体験!」感触や多様な画材	22名	
①②	8月4日(日) PM	青少年の部:「ミュージック&ダンスで思いっきり夏体験!」	18名	
47	12月14日(土)	「Tinyのるんるんクリスマス♪」歌やダンス、創作活動	14名	
48	2020年2月2日(日)	「春よ来い!鬼はそと〜、福はうち〜♪」音遊びや制作活動	17名	
以降		※感染症予防対策により実施せず、再開未定		V

## (2)「あそびの集い」不開催でも継続した学生たちの活動

2021年度のあそびの集いは実施できなかったが、活動を止めることなく、授業の合間を縫って昼休みに集まりをもち、T i n yができることは何か、学生サークルT i n y隊のメンバーと共に話し合いを重ねた。その中で、SNSを利用した発信やお手紙活動などをグループに分かれて継続した。それらの内容について、以下に示す。

### ①HPを利用した情報発信

以前から少しずつ行っていたHP上での情報発信を継続し、ブログで活動の様子などを公開した。内容はT i n y隊の練習や活動の様子、大学からの季節の便りなど、気軽に親しみを感じられるものにした。

### ②お手紙による障害児施設との交流

出張T i n y隊での直接訪問ができなかった施設に、学生たちが書いた手紙を届けて、活動の様子をお知らせした。手書きのお便りこそその温かさや味わい、また、手紙の中に折り紙や張り絵などを添えて作成できるのが利点であった。

### ③フェイスブック、ツイッター、インスタグラムでの情報発信

T i n yの活動の様子や、障害のある子どもでも楽しめるような短い遊び動画など、その時々情報を発信し、継続した。活動が予定通りに進まず情報発信が滞ってしまうこともあったが、学生の主体性を尊重した発信を行った。

### ④サンタdeクリーン&ウォークに実行委員メンバーおよび当日参加者として協力

T i n yの通常の対面での活動が実施できない中でも、子どもたちのために何かできることをしたいとの思いを行動に移し、子どもの貧困問題をなくすためのボランティアに参加した。とちぎボランティアネットワークが中心になって毎年開催している「サンタdeラン（コロナ以降「サンタdeクリーン&ウォーク」に内容変更して実施）」（※<https://tochicomi.org/santa/>参照）の活動に、T i n y隊学生メンバー有志が実行委員として準備段階から参加、イベントを盛り上げた。事前の募金活動や啓発活動動画作成等にも参加、学内でもサンタクロースの仮装で募金活動を実施、教職員や学生の協力を得て合計20,101円の寄付をすることができた。



写真2、3、4 サンタdeクリーン&ウォークの活動の様子とお知らせチラシ

12月19日のイベント当日も、T i n yチームは、T i n y隊メンバー以外の宇都宮共和大学の学生も誘って活動に参加、サンタの恰好をして宇都宮市内のクリーン活動を行い、子どもの貧困撃退についての啓発活動を行った。そして、大会前から地域の子どもの貧困対策のための募金活動に精力的に取り組んだ貢献により、T i n yチームは「ファンレイザー賞」をいただいた（募金その他にご協力くださった方々、ありがとうございました）。



写真5. サンタdeクリーン&ウォーク当日の様子

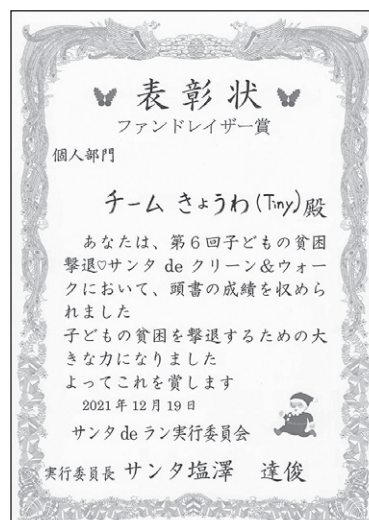


写真6. ファンレイザー賞の賞状

### 3. 2021年度第9回T i n yファミリーコンサート（オンライン配信）

#### (1) これまでのT i n yの音楽イベントの歴史と記念すべき10年目

T i n y活動の二つ目の柱として、例年開催してきた「障がいがあってもなくてもみんなが楽しい音楽の集い（T i n yファミリーコンサート）」がある。障害の有無に関係なく地域住民参加型で、多いときには400名近い参加者を得て実施してきた。この音楽の集いの活動も、「あそびの集い」同様に、昨年度からの感染症予防の観点から集合形式による実施ができなくなっている。そこで、何とか地域の皆様とつながれる方法を考えた結果、昨年度初めてオンライン形式で学生主体の手作りコンサートを配信、動画視聴していただく形に変更した。

そして、2021年度も、長引くコロナ禍により、2度目のオンラインコンサートを実施することになった。今回のオンラインコンサートは、子どもたちが家族と楽しめる内容を中心に、昨年とは趣向を変え、子どもたちが普段接することの少ない和楽器を用いたアンサンブルを取り入れた内容にした。

10年間のスペシャルイベントの開催状況をまとめて表に示す（表2）。



表2. T i n yファミリーコンサートおよびGWスペシャルイベントの実施状況

回	開催日時	内 容	出演者
1	2013年9月22日(日)	第1回T i n yコンサート (スペシャル ジャズコンサート)	豊田チカ(ボーカル)、田中裕士(ピアノ)、 小山太郎(ドラム)、生沼邦夫(ベース)
2	2014年5月4日(日)	第1回GWスペシャルイベント (みんなで踊ろう!アフリカダンス)	西アフリカの太鼓演奏とダンス「パラ ン」の皆さん
3	2014年9月15日(月祝)	第2回T i n yファミリーコンサート (声楽、フラメンコ、朗読など)	吉武まつ子(メゾソプラノ)、吉武大地(バ リトン)、吉武萌(ソプラノ、フラメンコ)
4	2015年5月3日(日)	第2回GWスペシャルイベント (マジックと音楽と絵本パフォーマンス)	大友剛(マジック・ピアノ・鍵盤ハーモ ニカ・絵本朗読)
5	2015年9月20日(日)	第3回T i n yファミリーコンサート (オカリナとギターのアンサンブル)	ねんど:小山京子(フルート・オカリナ)、 吉塚光男(オカリナ)、斎藤浩(ギター)
6	2016年5月7日(土)	第3回GWスペシャルイベント (西アフリカの音楽とダンスと屋外交流)	西アフリカの音楽演奏楽団「コナンカマ」 の皆さん
7	2016年9月22日(木祝)	第4回T i n yファミリーコンサート (歌とピアノとお話、スティールパン演奏)	木村真紀(シンガーソングライター)、 オカピ(スティールパン)
8	2017年5月7日(日)	第4回GWスペシャルイベント (スティールパンのバンド演奏と屋外交流)	スティールパン・バンド「TRINIS TA」の皆さん
9	2017年9月16日(土)	第5回T i n yファミリーコンサート (パフォーマンス・ミュージック・ユニット)	C i e l : 浅沼杏花(バイオリン)、石 川陽介(ピアノ・ボディーパーカッション)
10	2018年10月20日(土)	第6回T i n yファミリーコンサート (打楽器の愉快的演奏とドラム&サクソ)	ふーちん(ドラム・打楽器・鍵盤ハーモ ニカ)、とんちゃん(サクソ)
11	2019年9月16日(月祝)	第7回T i n yファミリーコンサート (ピアノ、歌、パーカッション、マリンバ)	木村真紀(歌ピアノ)、牧野香苗(パーカッ ション・マリンバ)、べんちゃん(歌と絵)
12	2020年9月	第8回T i n yファミリーコンサート ～第1部～	人形パフォーマンス、ユーフォニウム アンサンブル、音楽物語「食いしん坊の ピーと動物たち」 出演:T i n y隊、音楽科学生
13	2020年10月	第8回T i n yファミリーコンサート ～第2部～	カップダンス、ピアノ&打楽器&管楽器 アンサンブル、段ボールパフォーマンス 「スリー・ウンチーズの歌」 出演:T i n y隊
14	2020年10月	第8回T i n yファミリーコンサート ～第3部～	鍵盤ハーモニカアンサンブル、ミュー ジックベル合奏、みんなと歌おう大合唱 出演:T i n y隊
15	2021年12月	第9回T i n yファミリーコンサート	タンバリンダンス、パネルシアター、トーン チャイム演奏、和楽器アンサンブル、大合唱 出演:Tiny隊&Tinyちゃん

## (2) デルタ株の感染拡大により練習中断、再開、2度目のオンラインコンサート配信へ

夏休みに向け学生たちの練習も本格化し始めた頃、デルタ株が猛威を振るい始める。集合練習の継続が困難となり、動画撮影に向けた準備の中断を余儀なくされた。このままではオンライン配信の形ですらコンサートの実現が危ぶまれるとの危機感が募ったが、秋になって徐々に感染状況が落ち着いてきたことから、練習を再開、何とか実現にこぎつけた。当初は秋10月に配信予定であったが、実際の配信スタートは12月15日15:00～からとなった。

## (3) 第9回T i n yファミリーコンサート(オンライン配信)

第9回T i n yファミリーコンサートも、昨年に引き続き学生中心の手作りオンラインコンサートの形で実施することになった。すべての子どもたちや子育て中のご家族に、楽しみや喜び

や周囲との温かな繋がりが欠かせないということは、感染症が拡大しても、いつの時代でも、変わらない大切なことである。そして、非接触やマスク着用が求められ、密接な関わり合いを避けなければならない時代だからこそ、子育て家族の安心と心の健康、子どもたちの豊かな育ちを全力でサポートしたい、そのために少しでもできることをしようとの思いで制作した。

コンサートの内容としては、子どもが家族と一緒に楽しめるよう工夫した。特に今回は、コロナ禍で和太鼓の音楽家を招くはずだった第8回コンサートの対面実施ができなかった経緯や、以前のおそびの集いで和楽器演奏に興味を示す子どもが多かったことなどから、和楽器を取り入れたオリジナルメドレーにも挑戦した。第9回Tinyファミリーコンサートのプログラムを以下に示す。

表3. 2021年度のコンサートプログラム

**♪第9回Tinyファミリーコンサート（オンライン配信）プログラム♪**


1) トーンチャイム演奏  
♪いつも何度でも      作詞：覚和歌子      作曲：木村弓

2) 楽しいパネルシアター  
♪おべんとうばこのうた      作詞・作曲：不詳


3) タンバリンダンス  
♪オブラディオブラダ      作詞・作曲：J.Lennon P.McCartney

4) 和楽器アンサンブル  
♪日本の歌メドレー  
(うさぎ・荒城の月・とおoryんせ・どんぐりころころ・七つの子)


5) 全員で大合唱「虹」:  
♪虹      作詞：新沢としひこ      作曲：中川ひろたか



主催：宇都宮共和大学子育て支援研究センターTiny（タイニー）  
出演：学生サークルTiny隊&Tinyちゃん  
協力：宇都宮共和大学子ども生活学部・宇都宮短期大学音楽科



※YouTubeで  
動画配信中



音楽指導：大島 美知恵  
動画編集：星 順子

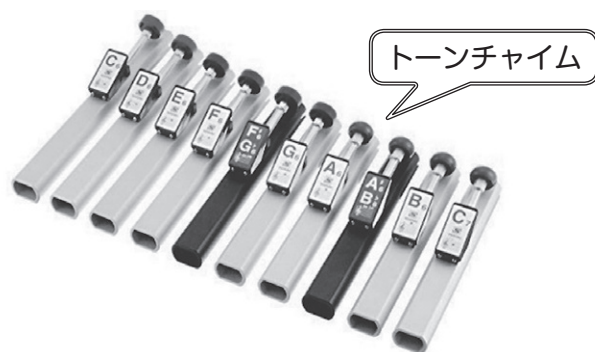
<https://www.youtube.com/watch?v=Ym4aO91wBAc>

#### (4) 練習および演奏風景と使用した楽器等

昨年度に引き続き2度目のオンラインコンサートに向けた練習となった。活動メンバーの多くを占める1、2年生メンバーは、Tinyの接触型イベントが全て中止となってから入学し、障がいのある子どもたちやご家族との対面での活動を経験していないこともあり、受け手である子どもたちやご家族のイメージが持ちにくいことが最初の課題であった。しかし、子ども好きな学生たちが、音楽、ダンス、楽器演奏等それぞれの得意分野で力を発揮し合いながら、子どもとご家族に喜んでいただける音楽やあそびを届けたいとの思いを寄せ合い、学業の合間の練習をスタートさせた。

オンラインコンサートでは、動画を見ながら、視聴中の子どもたちやご家族も一緒に楽しめるような打楽器系の楽器をたくさん使用している。以下に、練習や演奏の様子、コンサートで使用した楽器等を写真で紹介する。

#### ① 「いつも何度でも」のトーンチャイム演奏に使った楽器と練習および演奏風景（写真7、8、9）



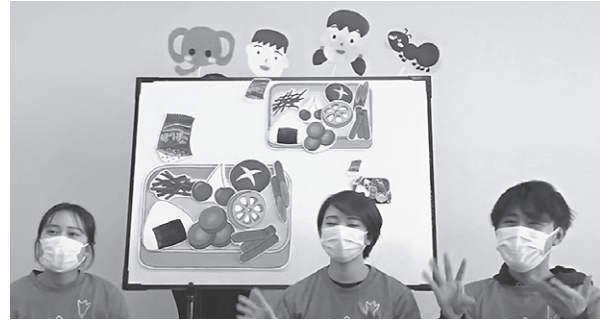
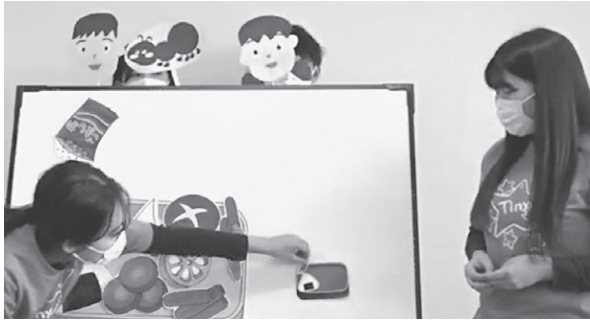
音階の一つ一つが楽器になっています。これらを組み合わせて、仲間と共にメロディーを作り上げてきます。



#### ② ♪ 「お弁当箱のうた」のパネルシアターの練習風景（写真10、11、12、13）







③♪「オブラディオブラダ」のタンバリンダンスの使用楽器と練習風景（写真14、15、16）



モンキー  
タンバリン

カラオケ屋さんなどでもみかける楽器ですが、踊りながら演奏するのに適しています。

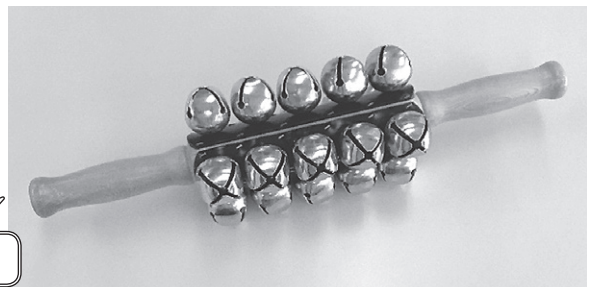


④♪「日本の歌メドレー」の演奏に使った和楽器と練習風景（写真17、18、19、20、21、22、23、24）



たいこくん

軽くて手軽な和太鼓です。



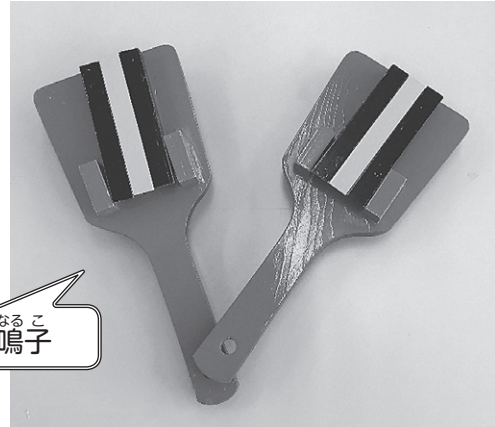
スレイベル

持って振ると、周りについている沢山の鈴が響き合い、「シャーン」と華やかですが神聖な音がします。



わん  
お碗

普段は汁物を入れる器ですが、2つのお碗を打ち合わせたり、こすり合わせたり、様々な音が出る優れた楽器になりました。「どんぐりころころ」の曲で使用しました。



なるこ  
鳴子

よさこいなど、踊りに用いられやすい楽器です。「とおりゃんせ」の曲で使用しました。



手づくり楽器  
スプリング シンバル

くるくるとらせん状に巻いた針金に、ビールの王冠をつぶして穴を開けたものを通して、端を手にとって上下逆転させると、サラサラと心地よい音がします。







⑤♪「虹」をTiny隊メンバーとたいにーちゃんで大合唱（写真25）



## （5）2021年度オンラインコンサートの振り返り

### ①感染症拡大に伴う臨機応変な対応

今年度のオンラインコンサートを共に作り上げた学生たちは、長引くコロナ禍で入学、学生生活を続けてきた1、2年生が多く含まれ、障がいのある子どもやご家族と直接触れ合うチャンスがなかった者が多かった。オンラインコンサートの準備から配信までの活動を通して成長する姿をみせてくれたが、感染拡大による活動中断や見通しの持ちにくさ、画面の向こうの子どもやご



図2. 学生が描いた2021年度オンラインコンサート表紙画

家族のイメージが共有しにくいなど、今年度ならではの課題が生じた。練習を予定していた夏休み期間のサークル活動の停止、その後の練習再開と他の学業・実習等との予定調整をしながら手探りで進めた動画撮影など、臨機応変な取り組みの中で12月の配信に至った。

4年生は、これまでの集大成として出演、後輩の指導等に力を発揮してくれた。サークル長をはじめ中堅学年の学生たちは、責任感をもって活動を牽引する姿をみせていた。1年生は先輩た





図3. 2021年度オンラインコンサートの案内ちらし

を十分活動させること」「主体的に関わる」「喜びや感動を分かち合う」などの体験は、オンライン配信では困難になりがちである。子どもたちが健全に成長する上で欠かせないこのような体験を、Tinyの活動では大切にしている。ICT活用のメリットは上手に活かし、それだけでは補うことが困難なかけがえないものを見失わず、その場の温もりや身体感覚、応答性を大切にする活動を今後もできる範囲で丁寧に進めたい。

また、コロナ禍でやり取りが途絶えがちな各種団体の皆様とのかかわりについて、より一層、意識的、積極的に行うことが大切になる。

課題をより良い活動へのヒントと捉え、今後も柔軟な発想と臨機応変な対応で「障がいがあってもなくても皆が楽しい」活動を実施するための工夫や努力を重ねていきたい。

#### 4. 彩音祭（大学祭）でのワークショップと展示活動

11月13～14日にかけて実施された大学祭では、Tinyの活動展示や手作り楽器などに親しんでいただくと共に、毎年開催してきた音楽ワークショップを2年ぶりに実施することができた。

感染症対策を入念に行いながら、



写真26. 彩音祭での音楽ワークショップの一場面

ちを手本にしながら、それぞれが個性を發揮し活動を楽しんでいた様子がみられた。

対面での活動実施が困難な事態が長引く状況下で、今できる形で活動を生み出し、つながりを途絶えさせず以後につないでいくことの意義は大きい。また、動画配信は、日々視聴回数が増えるため、相手は見えなくてもTinyの活動や思いが長期間誰かに届き続ける可能性が開かれたこと、対面とは違う形で学生たちが活動の充実感や達成感を得ることができることもメリットであることに気づかされた。状況に応じ、活動の形は変化していくが、Tinyの根底にある障害や年代を超えた多様性・包括性を大切にする活動が、次年度以降の活動や後輩たちへとつながっていくことを期待したい。

#### ②今後への課題

Tinyの活動に限らず、「共に感じ」「触れ合う」「やり取りする」「響き合う」「五感

参加されるお子さんとご家族、たまたま来場くださった大人の方々にも楽しんでもらえる活動を行うことができた。なかなか参加者と共に作り上げる活動の機会がない中で、音楽ワークショップを行うことができ、貴重な機会となった。無理のないスタイルで、今後もこのような交流の場が継続できるようにと願っている。

また、これまでの活動の展示や手作り楽器を楽しむコーナーなどにも絶え間なく来場者が訪れ、熱心に見学されていた。Tiny隊の学生メンバーが交代で解説や援助を行い、小さなお子さん連れのご家族や学生の保護者にも好評だった。



写真27、28、29、30、31 彩音楽祭のワークショップおよび展示の様子

## 5. 「宇都宮市民憲章賞」受賞

上述したように、Tinyでは、障がいがあってもなくてもすべての人が共に楽しさを共有できる豊かでインクルーシブな地域社会のための活動を継続してきた。この度、宇都宮市からその功績が認められて、令和3年度市民憲章賞をいただいた。3月末に届いた受賞の知らせは、Tiny活動10年の節目の最後を飾るプレゼントとなった。

多様性と包摂性を大切に活動を実践し、そのことの積

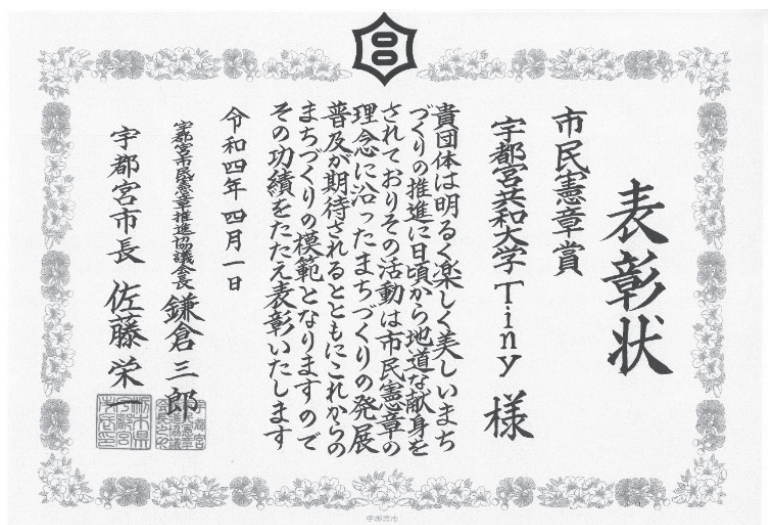


写真32. 宇都宮市民憲章賞の賞状





# 市民憲章賞

## 令和3年度宇都宮市民憲章表彰 受賞者の紹介

宇都宮共和大学 Tiny

活動の様子



### 活動内容

#### 【「遊びの集い」を通じた発達支援活動】

- ・障害者差別解消法の施行前から、「障がいのある子どもと親と一緒に楽しめるあそびの集い」を継続的に開催し、重度障害の子どもから障がいのない子どもまで、地域の多くの子ともと家族が参加して音楽やアートなどの活動を楽しんでいます。
- ・「障がいがあってもなくてもみんなが楽しいTinyファミリーコンサート」を毎年開催し、日頃障がいのある人と触れ合う機会のない方々も含め一緒に本格的な音楽を楽しみながら理解を深め合う場となっています。

### 講評

- ・障がいのある方々を含めて地域の皆さんと交流を深めたり、共に楽しむことは素晴らしい活動であり、活動の輪が少しでも広がることを期待しています。



### 宇都宮市民憲章

宇都宮市は、恵まれた自然と古い歴史に支えられ、  
二荒の森を中心に栄えてきたまちです。  
このふるさとに誇りをもち、みんなの力で豊かな未来を築くため、  
市民の誓いを定めます。

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気ある楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切に、文化の薫る美しいまちをつくります。

図4. 市役所ホールに展示されたTinyの活動紹介用パネル（宇都宮市作成・資料提供Tiny）



み重ねによって地域に貢献できることを公に認めていただいたのは、大変うれしいことである。活動10年目の本年は、感染症拡大などの影響により従来の活動が十分にできない悔しさもあったが、これまでの活動の積み重ね、コロナ禍でも活動を途絶やさずできることを模索した努力の賜物として関係者とともに、今回の受賞を素直に喜び、今後につなげていきたい。



写真33. 市民憲章賞の賞状と盾を持つ学生たち

## 6. 全体の振り返りと今後の展望

一年を振り返って、見通しの持てない状況が長期に続く中でも、Tinyとして今できることを真剣に模索しながら活動を継続したことは、新たな学びや発見にもつながった。その場しのぎでなく、柔軟な発想と豊かな工夫で時代に即した新しい援助や育ち合いの在り方を継続する必要性と、人間社会の枠組みが変化しても変わらぬ人の育ちの本質を大切にし続ける重要性が高まっていることを、今年度の活動を通し改めて強く感じている。

Tiny隊の学生たちにとっても、手探りで継続したTinyの活動経験は、共に成長し合う学びの場、育ち合いの場となると共に、これからの不確実な時代に活躍する保育者や音楽療法士としての成長を促す貴重な経験となったと考える。これからの学生の教育においては、環境の変化や時代の要請に応じて、自ら柔軟に変えていける能力の育成も重要になるだろう。更に、社会の変化に伴い、環境や形が変わるだけでなく、私たち自身の価値観や考え方も変化する。時代の大きなパラダイムシフトに伴う変化の表裏や功罪を注意深く見極めながら、今後の活動を慎重かつ臆することなく展開していきたい。地域の現状やニーズに開かれた「最適な」「心地よい」場や援助を追求し、今後の活動の発展し創造し続けたい。

紙面を借り、日頃からTiny活動を理解し支えてくださるすべての方々に感謝を伝えたい。そして、常に信頼し、共に成長し合えるTinyメンバーへの最大の敬意と感謝を込めて、以下に改めて名前を記し、本稿の結びとする。

### ☆Tinyの活動メンバー

宇都宮共和大学子ども生活学部

教授 土沢 薫

准教授 星 順子

講師 大島美知恵

サークルTiny隊の学生たち

## IV. 「親子遊びの会」 —子育てネットワークづくりプロジェクト— 実践報告

子ども生活学部 准教授 今村麻子  
講師 大島美知恵

### 1. はじめに

「親子遊びの会」は、これまで2. に挙げたようなプロジェクトの目的を持ち活動をしてきた。2021年度は、コロナ感染症流行の影響のため、地域においても幼稚園や保育園の一時休園や登園自粛の期間もあったが、状況を見ながら開催した。感染症予防をしながら子どもたちが楽しく参加できる遊びや子育て支援イベントの形を検討する機会ととらえ活動した。当日の親子の様子や事後のアンケートを通して、幼い子を育てている家庭にとって、閉塞状況にこそ、このような親子を支える会の意義があると感じられた機会となった。また、学生にとっての学びも大きいことが実感された。

また、2021年度は地域企業との連携の試みを進めた。参加される親子はもちろんのこと、学生ボランティアの安全な学外での活動についての経験を増やすことができた。

### 2. プロジェクトの目的

地域に暮らす未就学児をもつ家庭を対象として、父親を含めた親子同士、家族同士、異世代間の交流を目的とし、学生・教員ともに地域における役割について検討する。

活動に際しては、対象者が主体的に参加できることを目指し、親子で遊び、円滑な親子関係、親子同士の繋がりを促せるような援助のあり方について学生と教員ともに学ぶ。

### 3. 親子遊びの会2021年度の活動の計画

#### (1) 参加対象者

地域に在住の未就学児をもつ家庭

#### (2) スタッフ

教員と学生が活動内容について企画、準備を行い、当日の運営、援助等にあたる。

#### (3) 実施期間・場所

本学施設

栃木トヨタ自動車本社会議室

ミナテラスとちぎ（栃木トヨタ自動車運営の地域コミュニティ施設）

#### (4) コロナ感染症対策

本学のコロナ感染症対策を基本として対策を行った。

#### 4. 実施した活動の概要

教員と学生有志ボランティアが検討した計画に沿って、各回のイベントの内容を決定し、当日までの準備を学内で行った。主には昼休みや放課後の時間を利用して、製作物の製作、司会や寸劇、リトミックの練習、絵本や紙芝居の練習を行った。当日は、親子が楽しんで安全に参加できるように、サポート役を務めた。参加の親子は「親子遊びの会」の実施計画に基づき募集した。

コロナ感染予防対策として、あらかじめ三密・接触をできるだけ制限する、構成・計画された活動内容にもとづき、野外・屋内でのソーシャルディスタンスを配慮した環境構成と、活動中のこまめなアルコール消毒の実施、教員・学生・保護者のマスク着用厳守とした。

#### 2021年度開催一覧

回 (通算)	開催日	活動内容	参加者 子ども	参加者 保護者	学 生	教 員	場 所
1回 (40回)	2021年5月8日	ミニミニアスレチック	14人	9人	18人	4人	本学グラウンド
2回 (41回)	2021年7月25日	親子リトミック	8人	9人	7人	3人	栃木トヨタ自動車会議室
3回 (42回)	2021年11月28日	忍者ごっこ	11人	12人	8人	4人	ミナテラス
4回 (43回)	2021年12月19日	お正月遊び	12人	12人	11人	2人	ミナテラス
5回 (44回)	2022年1月23日	親子リトミック	7人	8人	7人	3人	ミナテラス
6回 (45回)	2022年3月6日	親子リトミック	12人	11人	7人	2人	ミナテラス

次頁より各回の実践内容を記述する。



## 第40回親子遊びの会

1. 日 時：5月8日（土）9時30分～11時30分
2. 場 所：本学グラウンド芝生広場
3. 参加者：7家族（5歳児以上6名、3歳児4名、2歳児3名、1歳児1名、子ども計14名、保護者9名 計23名）
4. 実施者：子ども学部1年生4名、2年生8名、3年生5名、4年生1名、計18名（学生）  
杉本、今村、大島、牧野（教員）
5. テーマ：「ミニミニアスレチック！芝生の庭で思いっきり走ろう！」
6. 主活動：芝生の上の巧技台や遊具で自由に遊ぶ。
7. 実施プログラム
  - ①みんなで体操：「ハッピージャムジャム」「サンサン体操」
  - ②トンネル
  - ③巧技台・滑り台・跳び箱
  - ④マット
  - ⑤フラフープ
  - ⑥芝生でのんびり・芝生で駆け回る
  - ⑦落書きコーナー：アスファルトにチョークでお絵描き／ケンケンパ
  - ⑧大型絵本の読み聞かせ「ぞうくんのさんぽ」「ぐりとぐら」「きよだいなきよだいな」
  - ⑨教員と保護者の懇談

## 8. 所感

晴天に恵まれ、子どもたちは芝生の上で巧技台やフラフープなど好きな遊びを見つけて楽しんでいた。保護者と教員の懇談の時間を設け、その間、学生は大型絵本のコーナーで読み聞かせを行った。保護者の方には「コロナ禍でも安心してのびのび遊べる機会がうれしい」と喜んでいただいた。学生達は「親子と触れ合う貴重な体験が勉強になった」と言い、特に上級生のアンケートでは、本学の授業で習ったことと関連させて多くの学びがあったと振り返っていた。主活動に関わらず、学生自身で手作りの名札を手渡ししたり、陽射しの心配をしたりするなど、小さな場面においても子どもへの関与や配慮について学びになっていたと考える。アリーナ2階に収納されている巧技台を芝生広場に設置し、片付けるのは力の要る作業であったが、汗を流しながら声を掛け合う学生達の姿があった。



フラフープ



すべり台

## 第41回親子遊びの会

1. 日 時：7月25日（日）10時30分～11時30分
2. 場 所：栃木トヨタ自動車 本社4階 会議室（宇都宮市横田新町3-47）
3. 参加者：5家族（4歳児2名、3歳児1名、2歳児4名、0歳児1名、保護者9名 計17名）
4. 実施者：子ども学部2年生2名、3年生3名、4年生2名 計7名（学生）  
高柳、今村、大島（教員）
5. テーマ：「海へ行こう！！」
6. 主活動：車に乗って海へ出発し、海にたどりつき、海で遊ぶストーリーの中で、音の強弱、テンポの遅速、ニュアンスなどの表現活動を行った。
7. 実施プログラム
  - ①お返事ハイ！：大きな声、小さな声、短く、長く、様々なニュアンスで「ハイ！」の返事をする。
  - ②バスごっこ：ハンドドラムをハンドルに見立てて、音を出したり、動かしたりして遊ぶ。
  - ③いろんな道：ピアノの遅速に合わせて走る。ストップした時にドラムを身体部位につけるなど。
  - ④森についたよ：ウサギやリス、ゾウの歩き方を表現し、遅速を感じる。
  - ⑤海についたよ：「日焼け止めクリームを塗るよ」と親子間で様々なニュアンスでマッサージする。
  - ⑥海にもぐろう：水色の大布の下に潜ったり、海の道を歩いたり、揺れる布（波）を飛び越えたり。
  - ⑦海の音を聞こう：ペットマラカスに水とビーズが入ったマラカスを耳にあてて海の音を聞く。
  - ⑧みんなで踊ろう：マラカスを持って♪アミーゴサンバの曲に合わせて踊る。
  - ⑨絵本の読み聞かせ、創作活動と遊び（子ども） ミニ講座「リトミックが育むもの」（保護者）

## 8. 所感

本活動では、地域コミュニティ施設（ミナテラスとちぎ）の開設（10月OPEN）前のトライアルセミナーとして行われた。参加した親子のみならず、トヨタ社員、そして学生・講師も産学連携の子育て支援活動は初めてのことで、準備段階から試行錯誤の連続であったが、当日は思いのほかスムーズに進行され、親子共々リトミックの活動を楽しむ姿が見られた。活動の最後に行われたミニ講座では保護者が熱心に耳を傾けられ、その間に学生は子ども達への絵本の読み聞かせや創作活動を行った。創作活動では、子ども達から発案された遊びを取り入れて展開させていく姿も見られ、学生のアンケートには「臨機応変に対応する力が必要と感じた」「活動の幅広さと多様な支援が必要と思った」などの感想があり、多くの学びを得られた様子であった。トヨタ社員の方々からも好評を得て、今回の活動を機に月1回の子育て支援活動がミナテラスで実施されることになった。



海の中



熊に会う

#### 第42回親子遊びの会

1. 日 時：11月28日（日）10時30分～11時30分
2. 場 所：ミナテラスとちぎセミナールーム
3. 参加者：9家族（6歳1名、5歳2名、4歳2名、3歳3名、2歳3名、保護者12名 計23名）
4. 実施者：子ども学部1年生2名、4年生6名 計8名（学生）  
河田、杉本、今村、大島（教員）
5. テーマ：「親子で体を使って遊ぼう～新聞紙を使って忍者ごっこ～」
6. 主活動：子どもたちが忍者になりきって体を使って遊ぶ。保護者も参加。
7. 実施プログラム
  - ①導入：学生による忍者の劇
  - ②修行の始まり：鉢巻をつける。
  - ③走る：左右に刀（新聞紙）を並べた間を往復。新聞紙の岩を置いてジグザグに。
  - ④跳ぶ：年齢ごとの高さ・幅で跳ぶ。片足でケンケンをする。
  - ⑤投げる：刀の位置から学生に向かって手裏剣（新聞紙ボール）を投げる。片付ける。
  - ⑥壁破り：ひとりずつ新聞紙を手刀で破る。
  - ⑦免許皆伝：巻物を受け取る。立派なこども忍者になったことを喜ぶ。
  - ⑧ミニ講座：「子どもたちの運動能力の現状」（河田より保護者向け）
  - ⑨絵本の読み聞かせ：「だるまさんが」「きょだいな きょだいな」（子ども）

#### 8. 所感

地域の企業（栃木トヨタ自動車）と連携し、子育て家庭への支援活動を目的として、新しい地域コミュニティ施設においてイベントを行った。栃木県の子どもの「走・跳・投」の能力向上に繋がる乳幼児期の遊びの紹介もひとつのねらいとして活発な活動を行うことができた。

参加の低年齢児が入室の時に泣き顔だったのが、帰る時には忍者の装束で手を振って帰っていった姿が学生達に共通して深く印象に残っていた。このような子どもの心情理解や活動の意義を同時に同じ空間で感じ、共に振り返ることができるのは大変貴重な機会だと実感することができた。また学外の施設での開催により、協力企業の担当の方とのやり取りも生まれ、学生にとっては社会と関わる良い機会になっていたと考える。



親子遊びの会の活動を地域の親子へ知っていただく機会ととらえ、プログラム参加者以外の見学者や施設内外の家族連れなどに折紙の手裏剣を手渡しして活動を伝えることができた。



刀を跳び越える



壁破り

### 第43回親子遊びの会

1. 日 時：12月19日（日）10時30分～11時30分
2. 場 所：ミナテラスとちぎセミナールーム
3. 参加者：10家族（6歳児2名、4歳児2名、3歳児3名、2歳児4名、0歳児1名、保護者12名 計24名）
4. 実施者：子ども学部1年生1名、2年生4名、3年生5名、4年生1名 計11名（学生）  
高柳、田所（教員）
5. テーマ：「作って遊ぶ～もうすぐお正月～」
6. 主活動：紙皿とペットボトルのふたで作るこま、折紙で作るたこ、お正月の飾りなど身近な素材でお正月にちなんだ玩具を親子で手づくりする。
7. 実施プログラム
  - ①導入：劇（日めくりカレンダー、おせち料理）、お正月の歌
  - ②こまコーナー：紙皿とペットボトルのキャップでこまを作り、シールで飾り付けをする。
  - ③たこコーナー：コピー用紙、折り紙の2種類のたこ
  - ④お正月飾りコーナー：紙皿に好きな飾りを貼り付ける。松、扇、鶴など。
  - ⑤伝承遊びコーナー：あやとり、お手玉
  - ⑥ミニ講座：「『もの』と遊ぶことの大切さ」
  - ⑦絵本の読み聞かせ：「おもちのきもち」
  - ⑧もちつきごっこ：段ボールの臼と杵、でんぐり紙を使ったお餅について遊ぶ。
8. 所感

コロナ感染予防に配慮しつつ、玩具の手作りを親子のペースで自由に行えるように各「コーナー」の環境構成を行った。事前の素材の準備は時間をかけて学生中心で行った。ふりをつけた「おもちの歌」も学生の創作であった。会の最後にサプライズで出した「でんぐり」素材を使ったお餅つきが、子どもたちに大変好評で、ぺったんぺったんと何度もお餅をついて喜んでいた。当日の学生の振り返りからは「身近なもので作れるこまがよかった。親子で作る過程が見られた。」「たこは骨組みのある大きなものより折紙のたこの方が人気があった。」「子どもが喜んでいる姿

を見ている保護者も喜んでいてよかった。」「前日も来た子が今日も来ていて、繋がっていくことの大切さを感じた。」など具体的な気づきや達成感が得られたことが認められた。また、会場での受付方法についても何度も名前を尋ねないで済む方法など改善への提案もあり、学生主体の活動になっていることが感じられた。



紙皿のお正月飾りを手作り



でんぐり素材を使ったおもちつきが好評

#### 第44回親子遊びの会

1. 日 時：1月23日（日）10時30分～11時30分
2. 場 所：ミナテラスとちぎセミナールーム
3. 参加者：親子7家族（4歳児1名、3歳児1名、2歳児5名、保護者8名 計15名）
4. 実施者：子ども生活学部3年生7名（学生）  
河田、今村、大島（教員）
5. テーマ：「親子で触れ合い！あったかリトミック」
6. 主活動：1月にちなんだ餅つきの動作や、氷、雪といった題材のニュアンスから、親子で触れ合う身体遊びを行ったのち、2月の豆まきにちなんだパネルシアターやダンスを行った。
7. 実施プログラム
  - ①お返事ハイ！：大きな声、小さな声、短く、長く、様々なニュアンスで「ハイ！」の返事をする。
  - ②ねばねばもち：音楽に合わせて親子で身体部位の各所をぴったりとくっつけるなど。
  - ③おもちつき：親子で手を合わせ、いろいろな拍子で餅つきの動作を行う。
  - ④こすれこすれ：親子で様々なテンポで背中をこすり合う。フレーズの終止で役割を交代する。
  - ⑤ゆきだるま：音を聞いてウサギ（跳ねる）、トラ（四つ這い）、ゆきだるま（転がる）の動作を行う。
  - ⑥北風小僧の寒太郎：学生扮する寒太郎からスカーフを受け取り、音に合わせてスカーフを振る。
  - ⑦こおっちゃう：ピアノの音の合図に合わせて、身体の動きを止める、開始する。

- ⑧雪遊び：白い布を学生が子どもたちの頭上で揺らしたり、皆で持って揺らす。
- ⑨パネルシアター「豆まき」：豆まきの曲に合わせたパネルシアターを視聴すると共に楽器を鳴らす。
- ⑩ダンス：「鬼のパンツ」の曲に合わせてダンスをする。
- ⑪絵本の読み聞かせ、創作活動と遊び（子ども） ミニ講座「リトミックが育むもの」（保護者）

## 8. 所感

栃木県下でコロナ感染者の増加傾向が著しい時期であったことから、実施者は全員抗原検査を行い、参加者は家族ごとにマットで場所を指定し、他の家族との接触がないようにするなど、より慎重な感染対策を講じて活動を実施した。本来、初めて出会った家族同士の交流を深めることにも意義のあるリトミック活動であるが、厳しい条件と制限の中でも、親子の触れ合いを多く取り入れ、親子の絆を深めて頂くことを主眼として行った。学生たちもパネルシアターや手作り楽器づくり、そして色付きのビニール袋で鬼のパンツを製作するなど、子ども達が楽しめることを準備段階から工夫してくれた。更に感染者増加に対応するための急なプログラム変更にも、即、対応してくれて素晴らしいアシストを務めてくれた。保護者アンケートでは、「子どもが自由に表現している姿を見ることができて嬉しかった」などの満足感、学生アンケートでは「様々な子どもたちの楽しむ姿や、実習では見ることでできない親子の関りを学ぶことができた」などの学習成果が認められた。



スカーフお片付けの歌



鬼のパンツづくり

## 第45回親子遊びの会

1. 日時：3月6日（日）10時30分～11時30分
2. 場所：ミナテラスとちぎセミナールーム
3. 参加者：親子11家族（5歳児1名、4歳児2名、3歳児5名、2歳児4名、保護者11名 計23名）
4. 実施者：子ども生活学部3年生5名、2年生2名 計7名（学生） 高柳、大島（教員）
5. テーマ：「春のリズムでるんるん！親子リトミック」
6. 主活動：「春が来た」のミュージックパネルシアターでストーリー展開しながら、お花、鳥、ちょうちょなど春の風物詩から感じるリズムを、お花紙や折り紙などの様々な素材を使って表現した。
7. 実施プログラム
  - ①お返事ハイ！：大きな声、小さな声、短く、長く、様々なニュアンスで「ハイ！」の返事



をする。

- ②お散歩：パネルシアターを雪山から春の山に変え、様々なテンポでお散歩する。
- ③ちょうちょ：折り紙のちょうちょを持って動かし、フレーズの終わりに身体部位に付けて止める。
- ④手遊び：「あおむしでたよ」の手遊びを行う。
- ⑤からだあそび：保護者の膝上に子どもが乗り、「かえるのうた」に合わせた身体遊びを行う。
- ⑥お花：お花紙を花びらに見立てて上から学生が落とし、子どもがキャッチする。
- ⑦紙遊び：お花紙をまとめて投げる、破く、ビニール袋に入れて息を吹き込み回して遊ぶなど。
- ⑧鳥：パネルシアターで鳥の絵を提示し、バードコールの音を聞かせる。親子に配り鳴らしてもらう。
- ⑨マラカス：お米を中に入れた手作りマラカスを配付し、「マラカスサンバ」に合わせて鳴らす。
- ⑩ダンス：「動物体操1・2・3」に合わせて踊る。
- ⑪絵本の読み聞かせ、創作活動と遊び(子ども) ミニ講座「リトミックが育むもの」(保護者)

## 8. 所感

蔓延防止措置期間中ではあったが、前回に引き続き、抗原検査や参加者の配置等の感染対策を行い、当日は多くの親子が参加された。大人が多い状況にやや緊張気味に入室してきた子どもたちもいたが、親子で音楽に合わせて身体を動かすうちに、心も身体もほぐれたようで笑顔で参加していた。またパネルシアターを合間に使用しながら進行したことで、子ども達の参加意欲が高まっていたように感じられた。一方、パネルに貼ってあるものが欲しくて前に出てきてしまう子どももいたが、学生達はそれに代わる物を渡して一緒に元の位置へ戻るなど、子どもの気持ちを受け止めながら対応していた。保護者アンケートでは「学生たち全員が楽しそうに取り組んでいて素晴らしい」と学生の関与を高く評価いただき、学生アンケートでは「リトミックの計画から実践までを学ぶことができた」とリトミックに関する学習の進展が認められた。



「春が来た」ミュージックパネルシアター



親子でお散歩

## 5. 活動の振り返りと今後に向けて

### 親子にとっての意義

社会の変化によって、家族の子育てに関わる環境も変化し、それにより地域の子育て支援の重要性は高まっている。核家族化による家族内のサポート力の低下、母親への家事の負担の集中、子育てに関する知識や技術の伝承が途切れている現状等が指摘される。これらは母親側由来の問題ではなく、社会的な問題として、母親の孤立や父親を含めた子どもへの関与能力の育ち難さによる、育児困難感への影響も大きいといえる。

親子遊びの会では、様々なプログラムを通して、親子のかかわりがより良くなるような遊び活動、親子で過ごす時間がより充実するような制作・表現活動、子育て家庭同士の繋がりのきっかけになるような交流活動などを、展開・実践してきている。

本会は「様々な繋がりを充実させる、または創り出す」というプロジェクトのねらいをもって地域の子育て支援の活動を継続してきた。過去においては年間の活動テーマにもとづく関連した活動を展開してきたが、コロナ禍での様々な制限の中、現在のプログラムは各回独立した単発のイベントとならざるをえなくなっている。しかしながら、保護者アンケートの結果から一定の効果を見ることができた。例えば「自宅で子どもとどんなことをすれば良いか分からなかったが、参加して遊びのヒントをもらった」、「家で親子でもう一度やりたい」など、特にコロナ禍の現在にあって、家庭での遊びや親子コミュニケーションの充実・向上の一助になったのではないかと考える。

今年度で開催したイベントプログラムでは、リピーターとなって連続して参加した親子も数組あった。「子どもがお姉さんと話すことが好きだから参加した」、「教員との懇談があるので参加した」というアンケート回答があり、回数を重ねる中で、プログラムの内容だけではなく、人と人とを繋ぐ機会になっていることも伺われた。今後も継続的に行うことによって、母親、父親たち同士の連携を作り出すような支援をめざしたい。また、この会にとどまらず、親が他の子育てサロンや子育てサークルへも顔を出してみようかというきっかけになればと願う。家から一歩足を踏み出すきっかけに利用していただきたい。

今年度は、コロナ禍でも大学が子育て支援を続けていることについて、メディアからも取り上げられる機会（日本私立大学協会 教育学術新聞）があり、本会の活動の意義が社会的にも評価を受けることができた。今後も感染拡大防止に努めながら、安心して遊べる会の実践を維持したい。

### 学生にとっての意義

保育を学ぶ大学生にとっても親子と共に過ごす時間の中から多くを学ぶことが期待される。学生は大学の授業で「子育てには仲間が必要である」ことを学んでいて、その実践を経験したいと学生ボランティアの参加希望は多い。親子遊びの会が授業ではなく、学生有志の活動であることは社会的に注目された（朝日新聞2021年12月20日朝刊栃木版）。学生にもこのように取り上げられたことは達成感やさらなる参加意欲の向上に繋がったと思われる。

学生にとっての成果は、学生による振り返り等からいくつかの点を挙げるができる。

第一に、就学前の乳幼児と触れ合う貴重な機会であることである。「見るだけを楽しむ子どももいる」ということに気づいた学生がいた。また、「子ども同士で影響を受けて表現が広がって

いた」という振り返りをした学生もいた。いずれも活動の中で、ひとりまたは複数の子どもの細かな様子を観察できる機会となっていることがわかる。

第二に、親子の自然な関わりを目にすることができる機会になっていることである。学生は、温かな親子の触れ合いの様子、子の親に対する信頼感を実際に近くで見て感じている。また、「親が、自然にゆったりとしているのに、同時に危険がないように気を配っていることがわかった」、「親が同じ遊びをすることで子どもが安心して遊べる」、「保護者自身が遊びを楽しむことで、子どもたちも楽しめてくる」など、親子遊びの重要な点の気づきもあった。

第三に、学生の存在が子どもにとってどのようなものかも感じ取れる機会となっていることである。「親と学生がかかわることで、子どもも心を許していく」「子どもたちから学生に話しかける姿が多い」と学生がコミュニケーションに重要な役割を果たしていることを学生自身も感じることができている。

第四に、複数の学生で同じ場面を見ることができると、振り返って子ども理解をさらに深めることができる点である。「あの子は、来た時は泣いていたのだけど、活動の途中から急に笑顔になったね。」「そうそう、『投げる』ところからだよね、お母さんの膝から離れたの。」「帰る時ずっと手を振ってくれたね。嬉しかった。」等の会話が学生同士で行われていた。これらの自然な振り返りの会話は、子ども理解を深める営みであり、将来の保育者としての同僚性を育むものになると考える。実習では複数の学生が同じ場面を見て振り返る形態にはなりにくいため、このような会の大きな利点と言えるだろう。

最後に、授業で学んだことと関連させた実践の場であることである。「授業で学んだ内容を、実際に子どもの現場で学ぶことができた」「企画、準備から学ぶことができた」「様々な子どもの反応の予測と臨機応変な対応を学べた。」などの振り返りがあった。例えば、「親子リトミック」について、授業では模擬ワークやビデオ視聴で学ぶが、子ども達のいる現場で教員の専門的スキルを直に見て一緒に体験することができる時間となっている。また企画、準備の段階から、どのようなことを考慮しながらプログラムを立案すればよいのかを学ぶ機会になっている。

#### 今年度の試み「地域企業との連携」について等

今年度は市内に新設された地域コミュニティ施設を利用して複数回開催した。学外の施設に出張して行う試みを行い、参加者・学生ともに、事故怪我無く行うことができた。学生達の現地集合・現地解散や備品搬入も問題はなく、学内でこれまで行ってきたプログラムを応用することで実践できた。学外の施設を利用することにより、親子遊びの会の「交流」の拠点を増やすことができたと感じる。施設側には、毎回の参加者募集からプログラム内容への協力もいただき、地域の子育て支援についての連携を作っていた。学生も現地での設営や受付を通して学外の担当者の方と交流し、社会との繋がりを経験した。産学連携の試みとして有意義だったと考える。

親子遊びの方法や子育て支援について、またコロナ禍における取り組み等について学び、必要な方に届くような子育て支援の形を学生たちと共に引き続き考えていきたい。

#### 参考文献

松本園子・永田洋子・福川須美・森和子（2019）「実践子ども家庭支援論」ななみ書房



(親子遊びの会 子育てネットワークづくり事業メンバー)

	代 表	教 授	杉本 太平
	子ども生活学部 学部長	教 授	河田 隆
		准 教 授	今村 麻子
		講 師	大島美知恵
子育て支援研究センター客員研究員		非常勤講師	田所 順子
子育て支援研究センター客員研究員		非常勤講師	丸橋 亮子

## V. 自然遊びの会・行事实践報告 ～親子ふれあいネイチャー事業～

子ども生活学部 教授 桂 木 奈 巳

### 1 はじめに

自然遊びの会バーベナでは、2014年より、宇都宮市の「みやの環境創造提案実践事業」において提案した事業の一環として、年に2～4回の頻度で大学内の子どもの森において、「自然遊びの会」を実施してきた。各回ともに何らかの形で生物多様性を取り上げ、その季節に合う形でプログラムを検討し、親子を対象に実践を行っている。

2021年度は、昨年につきNPOうつのみや環境行動フォーラム・生物多様性部会（以下、環境行動フォーラムと略す）、「親子ふれあいネイチャー事業」として行事の合同開催を行なった。




### 2 本活動とSDGs

本グループの活動は表1に示すSDGsの以下項目と関連付けて実施している。まず「15：陸の豊かさを守ろう」のターゲットに関しては「教材開発・行事の実施を通して、人々に生物多様性の理解と普及啓発を行う。生物多様性の損失阻止に貢献できる」ことを期待した。虫をテーマに取り上げる際に、虫を取り巻く環境や豊富な種類、人との生活のつながりを強調することで、生物多様性の重要さを伝えることが出来たと感じる。しかし、行事への参加者にはこれらが達成できたが、それ以外に発信することが今年では出来なかった。よって、普及啓発という点においては、やや不足である。来年度の課題としたい。

「17：パートナーシップで目標を達成しよう」に関しては「行事開催においては近隣の保育施設や市・地域の関係者とのパートナーシップにより本取組みを推進する」ことを目標とした。環境学習センターやNPO法人と共に行事を開催することができた。参加者においては、個人（家族単位）参加以外に地域の子育てサークルからの団体参加もあり、目標達成できたと言える。他団体と協同することにより活動内容の質が深まったり、参加者の幅が増えるなど、良い効果を感じた。

「4：質の高い教育をみんなに」では「『持続可能な自然』を視野に入れた行動やライフスタイルの構築ができる人材育成を行う。本提案に参加する学生や行事参加者においては、主体的な行動者となることが期待される」ことを目的とした。実際に教材を検討した学生においては、虫の世界を通して持続可能な自然に思いを馳せたり、興味関心をもって自身の生活に取り入れる様子がみられた。行事の参加者においては、限られた時間内での体験であったが、我々の意図は伝わっていると感じた。いずれにしても、一度きりの体験等では、「行動を起こす」「ライフスタイルの転換」にはつながらないが、何度も行事へ参加することも負担と思われ、継続につながらない。生活の中であれば繰り返し触れる機会が得やすいと考え、本活動では「生活の中の虫」をキーワードにした教材も検討した。後述する環境学習センター事業においては、身近で使いやすい小型のバスケット（コチニールで染めた糸を使ったもの）を作成した。この効果は現時点では図れていないが、別のタイプの教材も併用して検討を進めたい。

表1 SDGsと本活動のつながり

ゴール	ターゲット番号と内容
 15 陸の豊かさも守ろう	15, 5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。
 17 パートナリプで目標を達成しよう	17, 17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。
 4 質の高い教育をみんなに	4, 7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

### 3 「親子ふれあいネイチャー事業11月」の実施

#### 3-1 実施の概要

昨年度の活動の際に作成したガイドラインの更新を行い、これを元にコロナウイルス感染症対策を講じたが、2年目ともなり、参加者も学生もコロナ対応に慣れてきた。実施の概要を表2に示す。環境行動フォーラム側は集客と参加者への連絡及び当日の受付や救急関係、バーベナ側はプログラムの検討を含めた行事の実施を担当した。

表2 行事実施の概要

実施日時	2021年11月27日（土） 10：00～12：00
実施場所	宇都宮共和大学内 子どもの森・アリーナ
学生スタッフ	4年：檜山 幹弥、佐藤 優輝、市丸 玲菜（統括） 3年：建 優寧、大槻 友里 2年：海野 史帆、立川 ひかり、生出 梨紗 1年：山口 桂汰、根本 桃華、仲山 日菜、坂本 有偉
プログラムの内容	①虫くいをさがせ ②むしむしびんご ③木の実で虫づくり
参加者数	参加者 25名（保護者13名、子ども12名）

#### 3-2 活動の様子

この回は、初参加の1年生にも活動を担当してもらった。上級生による補助は的確であり、下級生も安心して活動できた様子である。今回は子育てサークルによる参加であったため、雰囲気は通常と異なる面があり、学生も戸惑う面があった様子であった。資料1に活動の様子を示す。



資料1 活動の概要（バーベナのサイトより抜粋）

**「親子自然ふれあいネイチャー事業（秋の自然遊び）」を実施しました**

大学内で、定例イベントを実施しました。

最初に「虫くいを探せ!」。「虫くい」された葉っぱや木の実をたくさん探します。一番多く探せた子が「虫くいキング」になります。すでに虫食い木の実や葉っぱは隠れていました。

次は「むしむしビンゴ」。「みどりのむし」「8ほんあし」「ぬけがら」など、色々な「虫」を探します。虫たちはすでに冬越しの準備に入っていました。丸太の下にはかわいい「ヒメフナムシ」やムカデが隠れていました。

最後に、木の実を使って「虫」づくりをしていただきました。個性豊かな作品がたくさん生まれました。今年の私たちのテーマは「虫」ですので、今回の行事も虫づくしとしました。虫や葉っぱ、植物などなど、豊かな自然があるおかげで私たちの暮らしも成り立っています。こんなことを感じていただきたいという願いを込めて行事を行いました。

晴れていましたが、途中急に「あられ」が降ってきて、その後はグンと冷え込みました。行事は無事終了することができました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



**○はじまり**

コロナ対策で、微かな距離をとってご挨拶です。



**○虫くいをさがせ!**

学生さんが「こんな虫くいをみつけたよ」と紹介しています。



初代「虫くいキング」誕生!



**○むしむしビンゴ**

「むしむしビンゴカード」を使って、森の中で虫探し。



### ○木の実で虫づくり

あられが降った直後。とにかく寒くなりましたが、クラフト開始です。



真剣！寒いので、グルーガンが温まりにくいです。

### 3-3 参加者の反応

資料2に環境行動フォーラムによる総括・評価、および参加者（保護者）に依頼したアンケート結果の一部を示す。概ね良好である評価をいただき、さらに参加者の満足度も高いといえる。スタッフ学生の子ともよく遊んだり丁寧な対応が印象的であった様子であり、保育を学ぶ学生ならではの利点が現れているといえよう。

#### 資料2 アンケート分析および評価

参加者の反応・アンケート結果より	Q1) 講座内容はいかがでしたか？	Q2) スタッフ対応はいかがでしたか？
	<p>満足 100%</p>	<p>満足 87%</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 普段こわがる虫を近くで見られた。虫の説明がおもしろかった。色んな虫に会えて楽しかった。</li> <li>• むしむしビンゴがおもしろかった。ユニークなゲームで身近な葉っぱでも楽しめるんだと感じた。</li> <li>• スタッフの皆さんが優しく子どもに声をかけていただきありがとうございます。</li> <li>• とても楽しかったです。クイズ・ゲーム・工作など子供が楽しめた。スタッフからもう少し誘導があったら、もっと良かった。</li> <li>• 親切に接してもらえた。虫のことを教えてもらえた。やさしく教えていただけて、子供も安心して楽しんでいました。くわしく教えてくださいました。</li> <li>• 自然の中の活動をぜひ増やしてほしい。また、今日の工作をやってほしい。季節を比べられるような工作をしてみたい。グルーガンが使いにくかった。ありがとうございました。親子とも楽しく過ごせました。</li> </ul>		

### 3-4 学生の感想

表3には、行事にスタッフとして参加した学生の感想を示す。今年度は「虫と生物多様性」をテーマにした活動を展開したこともあり、虫に関する感想が多くみられた。また、4年生は学内においては最後の活動であったため、下級生は来年度以降の自分の役割について考える様子も見られた。

自然や自然物を対象としているため、「人の思い通りにならない」という点が最も苦労したようである。たとえば、「以前観察できた虫が見つからずに、検討対象を変更せざるを得ない」「天候不順等のため、ある植物が育たない・希望していた虫がつかまらない」等で、時間の制約がある中ではややストレスとなった。

表3 参加学生の感想（抜粋）

<p>○行事の内容について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・虫嫌いの子の反応を観察できた。虫が嫌いな子も参加しているのだと知った。興味がわくきっかけを検討したい。</li><li>・普段は見るできない生き物も見つけるという経験はよかった。この森だからこそその発見がある。自然体験の意味を今回の活動で感じられた。</li><li>・なかなか虫が見つからなかったが、時間をかけて探すことで達成感を参加者と感ずることができた。</li></ul> <p>○行事の進行について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・4年生がいなくても自分たちで運営できるようにしたい。</li><li>・保護者との関わり方が勉強になった。今後に生かしたい。</li><li>・初めての進行に戸惑いが大きかったが、先輩方のサポートがあり無事にできた。参加者とコミュニケーションをとれなかったのが、うまくつないで、受け答えができるよう事前の準備をしっかり行いたいと思った。</li></ul>
---

## 4 おわりに

本活動は「みやの環境創造提案実践事業」の取り組みの一つであり、テーマを決めて検討した教材を行事を通して参加者に体験いただく形で、目的の達成を図るスタイルとしている。ここ数年のコロナ禍の影響で行事開催が困難な状況であったが、学生のアイデアを取り入れながら工夫を凝らしている。

この行事は学内の森で実施しているが、日ごろから学生が森の整備を行っていることもあり、何がどこにあるか、面白い・不思議なもの等に詳しく、自然な形で参加者に紹介をしている。今後も整備と行事を連携させた活動を継続したい。



## VI. 地域産学官連携活動報告

### 1. 大学地域連携活動支援事業「地域の就学前施設との交流活動」

子ども生活学部 准教授 市川 舞

#### 1. 活動の趣旨

本活動は、交流保育の計画・実践を通して、地域における大学・就学前施設・家庭とが連携・協働して地域全体で学びあい、育ちあう教育環境づくりのいちモデルのありようを探求することを目的としている。活動主体は、学生有志で組織した「きょうわ×こどもプロジェクト」である。本活動が栃木県大学地域連携活動支援事業に採択され、3年目を迎えた。

昨年度は、コロナ禍における感染症対策を踏まえた地域連携の方法を模索した。前半は非接触型の交流としてICTを活用した「教材研究動画の配信」を、後半は教材提案型の交流として「教材提案」「手紙による交流」「訪問型の交流」など状況に応じて交流方法を調整して実践、コロナ禍における保育現場との連携・協働の糸口をつかむことができた。

3年目となる今年度は、今後も続くと予想されるコロナ禍において、引き続き感染症対策を踏まえた交流保育の実施をはじめ地域連携の方法を探ることを通して、大学・就学前施設・家庭とが連携・協働して地域全体で学び合い、育ちあう教育環境づくりに取り組んでいきたい。

#### 2. 活動の概要

今年度の交流保育および報告会の活動実績を表1に示す。「(1) 来校型交流保育」の詳細については、「Ⅱ 地域の就学前施設との交流を取り入れた保育者養成教育 実践報告」を参照されたい。ここでは、「(2) 教材提案型交流保育」および「(3) 報告会の実施・参加」について、報告する。

##### 2-1. 教材提案型交流保育

教材提案型の交流保育は、夏と冬に計画した。

夏の教材提案は、令和3年8月2日(月)～6日(金)の5日間、認定みどりこども園において花紙を用いた色水遊びの実践を行った。夏季保育の期間にあわせて、5日間連続で実践させていただき、年少児から年長児までの園児が参加した。

日を重ねるごとに、「花紙に親しむ→感触・色の変化を楽しむ→混色を試す→濾過する→紙に再生する」と、花紙とのかかわりを深め、花紙の感触や色の変化に気づき、自分なりのめあてを持って創意工夫しながら取り組む姿がみられた。子どもの関心が広がったり深まったりするに応じて、環境構成の工夫をしたが、その過程において、ウォータージャグやロウト、ザル、霧吹きなどのさまざまな道具と出会い、使うことも子どもにとっては「楽しみの1つ」となっており、日に日にスムーズに使いこなす姿がみられた。

表1 令和3（2021）年度 交流保育の活動実績

(1) 来校型交流保育		場所：宇都宮共和大学長坂キャンパス	
認定みどりこども園			
第1回交流保育	2021年6月1日（火）	年長52名	こどもの森
第2回交流保育	2021年11月24日（水）	年中48名	こどもの森
第3回交流保育	2021年11月25日（木）	年少50名	こどもの森
第4回交流保育	2021年11月26日（金）	年長51名	こどもの森
認定しらゆりこども園			
第1回交流保育	2021年6月8日（火）	年少45名	こどもの森
第2回交流保育	2021年6月15日（火）	年少45名	こどもの森
第3回交流保育	2021年12月7日（火）	年少45名	こどもの森
第4回交流保育	2021年12月14日（火）	年少45名	アリーナ（雨天のため）
風と緑の認定こども園	2021年11月1日（月）	年長児90名	こどもの森
つるた保育園	2021年12月22日（水）	年長児30名	グラウンド
(2) 教材提案型交流保育			
1) 訪問型交流保育（花紙を用いた色水遊びの実践）			
認定みどりこども園	2021年8月2日（月） ～6日（金） 5日間	年少～年長児 150人/日	認定みどりこども園 テラス
2) 非接触型（お手紙）交流保育「ぬくもり素材で遊ぼう」「とんとんすもう」 （まん延防止措置により、訪問型交流保育から教材提案、お手紙、動画による交流に代替え）			
認定みどりこども園	2022年2月～3月	年中～年長児	
3) あそびでちゃれんじ ぷろぐらむ			
①教材研究動画の配信		Youtube	10動画アップ
②教材研究リーフレット配布		2500部配布	宇都宮市内11園
③地域交流イベント	2021年12月6日（月）・9日（木）		宇都宮共和大学シティキャンパス
④交流保育つるた保育園	4・5歳児80名	2022年1月18日（水）	感染症の状況により中止
(3) 報告会の実施・参加			
第1回学内報告会	2021年6月29日（火）	対象： 子ども生活学部1年	講師： 認定しらゆりこども園保育教諭
第2回学内報告会	2021年10月7日（木）	対象： 子ども生活学部2年	講師： 認定みどりこども園保育教諭
第1回地域報告会	2021年11月13日（土）～14日（日）		
第2回地域報告会	2022年3月19日（土）		
栃木県主催中間報告会	2021年10月14日（木）	10：00～12：00	オンライン
栃木県主催年度末報告会	2022年2月4日（金）	10：00～12：00	Zoom
令和3年度大学コンソーシアムとちぎ学生&企業研究発表会 投稿			

この様子は、活動の写真と子どもの経験内容、また「幼児期の終わりまでに育てたい姿」との関連から「お手紙」にまとめ、保護者に配布、園・保護者とともに本実践における保育内容を共有した（図1）。

表2 色水遊びの計画

8月2日（月）	3日（火）	4日（水）	5日（木）	6日（金）
花紙に親しむ	感触・色の変化を楽しむ	ろ過に挑戦	紙づくりに挑戦	紙づくり
●花紙に親しむ	●色水作り	●ろ過・色水・感触	●紙づくり・ろ過・感触	●紙づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な親しみ方（ちぎる、さく）</li> <li>・色水を楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感触、色の変化・混色</li> <li>・色水の移し替え</li> <li>・混色</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ろ過を楽しむ</li> <li>・濾過した紙の感触を楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙漉きを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・張り子を楽しむ</li> </ul>



花紙を千切る



色水の沈殿



色水を濾過する



色水で紙漉き



図1 令和3（2021）年度 教材提案—花紙であそぼう「おたより」—

### 8月2日（1日目）花紙に親しむ

ちぎったり丸めたり、  
感触や音を確かめる

新しい道具の経験

いろいろな色が  
ぞっぞっぞっぞと  
できました！

いろいろな色が入れると  
鮮やかな色が  
できました！

トローリ、ひんやり！  
あれ？  
手に色がつかない！？

きれい！

水に混ぜて感触を楽しむ。  
色が手につかないことに驚！

たくさんやりたい！

### 8月3日（2日目）色や感触の変化を楽しむ

「昨日のつづき」  
自分なりのめあてをもつ

昨日の続き！

今日は何色にし  
ようかな？

いっぱい  
作りたい！

感触を楽しみ、  
友達と伝え合う

ひんやり！

とろとろ～  
べたべた！

全部混ぜたら  
黒になっ  
ちゃった！

やっぱりね～

あけうつつそうしたら...  
お水しか出ない！  
不思議？

ろうとを試す

### 2021.10.7 認定みどりこども園 保護者のみなさま 花紙で遊ぼう！

認定みどりこども園の保護者のみなさま、こんにちは！  
宇都宮県立大学子ども生活学部が「きょうわく×こどもプロジェクト」です。  
「遊びを通して子どもの育ち」をテーマに交流保育を企画し、実践しています。

わたしたちは緊急事態宣言前の8月2日～6日の5日間、認定みどりこども園さんで  
「花紙」をつかった「色水あそび」を実践させていただきました。

こども園のプールの横に遊ぶ場を用意すると、子どもたちは「やってみよう！」と  
目を輝かせて遊びはじめました。

**色とりどりの花紙をみて「きれい！」とワクワクしたり、  
はじめてつかう「ジャグ」でこぼさないように集中して水を汲んだり、  
混色を楽しんだり、ろ過をしたり、  
ろ過した色水がまた紙に変身することを発見したり！**

と、たくさんのご意見をいただきました。その子どもたちの様子をご報告いたします。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、1) 常に換気の良い状態で活動できるよう屋外で活  
動し、密を避ける、2) なるべく個々の子どもたちの活動として行えるようにテーブル・教材等の配置、  
数に配慮する、3) 参加学生の事前の健康調査・消毒、マスク着用の徹底を行っています。

### 花紙で遊ぼう！の1週間の計画

いつもは飾りなどで使うことが多い「お花紙」。  
今回は、夏ということで  
「水に親しんで楽しんで欲しい」とねがひ、  
＜お花紙＋水→色水遊び＞を通して、  
お花紙という1つの教材を、  
1週間かけて探求しました。

8月2日（月）	3日（火）	4日（水）	5日（木）	6日（金）
花紙に親しむ	紙の変化を楽しむ	ろ過に挑戦	紙づくりに挑戦	紙づくりに挑戦
●花紙の準備	●色水作り	●ろ過・色水・感触	●紙づくり・ろ過・感触	●紙づくり
●花紙の準備 （ちぎる、丸く）	●色水を楽しむ （混ぜ、色の変化・混色）	●ろ過を楽しむ （ろ過）	●ろ過を楽しむ （ろ過）	●紙づくりを楽しむ （紙づくり）

8月4日（3日目）ろ過に挑戦（色水・感触・ろ過）

長ーい！長ーい！  
見て！  
お水と色に分かれた！



花紙が沈殿する様子を発見

サラサラのお水  
になった！

色の濃さが違うよ？

網でろ過

お水が透明になった

コーヒーフィルターでろ過  
透んだ色水になることを発見

8月5日（4日目）紙づくり（感触・ろ過・紙づくり）

ゆらゆら透明なお水が  
おかわりできる！



濾過の様子を観察

色水が形に  
なった！

トローリだと  
難しい・・・  
ドロドロでも  
できる！

花紙の繊維の動きに気づく

ゆらゆらお水が動く！  
これってお花紙？

あふれないように  
ゆっくりお水の  
下へ入れてお花紙の  
お水がでてくるように  
紙すきに挑戦。  
こっちはトローリが  
ちょうどいい

濾過した繊維で遊ぶ

8月6日（5日目）紙づくり（感触・ろ過・紙づくり・風船）

昨日のつづき  
手つきがスムーズに

ぎゅーっと押して  
透明の水を押し出す

角を使うと  
上手くいく！

道具を使いこなす  
角を使ってあげよう

昨日のつづき  
自分なりのめあてをもって

大きい瓶を  
つくりたい！

ぎゅーっぎゅーっ！！  
胸まで入れて  
水を押し出す

お花紙を風船に  
貼って

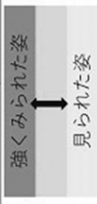
ペンペタ  
シタペタ  
紙が強く  
ぬいだら  
どうなるか  
な？

張り子に挑戦

この活動を通して子どもたちの経験内容から  
「生きる力の基礎となる資質・能力」として  
どのような力が発揮されたのか

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から考察しました

健康な 心と体	自立心	協同性	道徳性・ 規範意識の 芽生え	社会生活 との 関わり
思考力の 芽生え	自然との 関わり・ 生命尊重	数量や図形、 標識や文字 などへの 関心・感覚	言葉による 伝え合い	豊かな 感性と 表現





**自立心**



自分の力で考えたり工夫してやり遂げる  
はじめてつかうジャグに「どうやるの？」

**言葉による伝え合い**



思いや感じたことを言葉で伝え合う楽しさを味わう

**言葉による伝え合い**



思いや感じたことを言葉で伝え合う楽しさを味わう

**道徳性・規範意識の芽生え**



みんなで一緒に使うには？自分たちで考えて自発的に並ぶ列ができました

していいことやいけないことが分かったり、友達の間持ちを考えたルールを作ったり、守ったりする

**言葉による伝え合い**



思いや感じたことを言葉で伝え合う楽しさを味わう

**数量や図形、文字等への関心・感覚**



「どうしたらこぼさずにペットボトルに移せるか」考え、試す  
考えたり、工夫することを楽しむ

**数量や図形、文字等への関心・感覚**



数量や形に親しみ、興味や関心、感覚をもつようになる

**五感を通じて感触を味わう**



ひんやりと〜！  
素材の感触を味わい、自分なりに表現する

**思考力の芽生え**



考えたり、工夫することを楽しむ

**豊かな感性と表現**



素材の感触を味わい、自分なりに表現する

**社会生活との関わり**



地域の身近な人＝大学生と触れ合う  
・人との様々な関わり方に気づき、地域に親しみをもち



このように5日間連続して活動することで、子どもたちは、お花紙との関わりを深め【お花紙→色水→漉し紙→紙に再生】とお花紙が変身するプロセスを体験しました。また、ジャグやろうと、漉し紙、現、紙漉き機など、さまざまな道具を使いこなし体験を重ねました。目を涼やうことと自分の「やりたいたい」が重なり、思考錯誤しながら自分のしたい遊びに取り組み子どもたち。とても「盛況」に満ちあふれていました。

今回、遊びを提案させていただき、毎回「昨日の続きやりたい！」と目を輝かせながらやってく子ども達の姿に出会い、「子ども達の経験は、昨日から今日までの繋がりにある」とことを改めて実感し、保護者を自指す私たちがとらなくても、大きな学びになりました。

認定こども園の先生方、子どもたち、保護者の方々、また、保護者実践の場を与えて下さり、ありがとうございます。

きょうわ×こどもプロジェクト 学生一同

**アンケートのご協力をお願い**

お読みいただき、ありがとうございます。今回の花紙の活動以外にも、大学の森に遊びにきていただいたり、さまざまな場面で交流させていただいておりますが、今後の活動の充実のために、保護者のみなさまにアンケートのご協力をお願い申し上げます。以下のQRコードからご回答をお願いします。

\* 所要時間は、1〜2分程度です  
\* アンケートの内容は統計的に処理し、個人が特定されることはありません。  
\* アンケート結果は、本実践に関する調査・研究・教育にのみ使用いたします。



・この活動は、「令和3年度 栃木県立大学地域連携推進活動助成事業」の助成を受けて実施しております。  
・本活動実施およびアンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします

きょうわ×こどもプロジェクト 担当教員 宇都宮県立大学子ども生活学部 准教授 市川 舞  
emad@kwasbkyo-u.ac.jp TEL. 028-669-6311 (代)



冬の教材提案は、少人数の学生グループによる訪問型交流保育を予定したが、令和4年1月に県内に発出された「新型コロナウイルス感染症まん延防止措置」のため、「訪問」から「お手紙」および「動画のお手紙」による交流に代えて実施した。



毛筆のお手紙に興味津々



動画のお手紙



けいとをまいて



ストローあみ



とんとんすもうのコマづくり



とんとんすもうで勝負！

教材のテーマは、「ぬくもり素材であそぼう&とんとん相撲」である。後述する「あそびでちゃれんじぷろぐらむ」における教材研究を生かしたものであり、①一人でもみんなでも取り組むことができる、②（とんとん相撲の「土俵」などにより）ソーシャルディスタンスを保ちながら友達と遊ぶことができる、③（毛糸の組み合わせや相撲のコマのアレンジなど）自分なりの創意工夫ができることから、この教材を選定した。

学生による教材提案は園で実施いただき、子どもたちの活動の様子を学生にフィードバックしていただいた。「お手紙」は大きな紙に毛筆で書いたものを送った。保育教諭によると、年長児が1月に書道に親しむ経験をしたところで、偶然にも子どもの興味に合致した「お手紙」となった。また、続くコロナ禍の健康・安全対策から個々でじっくり取り組むことができる活動を提案したことも、園として保育に取り入れやすかった、とのことであった。

## 2-2. あそびでちゃれんじ ぷろぐらむ

今年度の新しい試みとして、「あそびでちゃれんじ ぷろぐらむ」を企画した。概要を表3に示す。YouTubeにおける教材研究動画の配信、教材提案リーフレットの配布、地域イベント、交流保育の実施など複数の実践方法を組み合わせて計画し、その都度の新型コロナウイルス感染症の状況に応じて実践できるよう考案した。

交流保育は、感染拡大の影響で中止したものの、「①教材研究動画」は10種類の遊びを配信、その紹介として「②リーフレット」を市内11園に2500部配布するなど、活動の範囲を広げることができた。はじめて取り組んだ「③地域交流イベント」は、シティキャンパスで行われた「まちなかクリスマスフェスト」において「こうさく」コーナーを担当、実践した。新型コロナウイルス第6波の影響により「④交流保育」は中止となった。その代替えとして「⑤オンライン交流」を企画したが、第6波は乳幼児の罹患率が高く、就学前施設の負担が増大したことから実施困難と判断し、中止した。

表3 「あそびでちゃれんじ ぷろぐらむ」企画の概要

①教材研究動画の配信	Youtube 10動画アップ ・なわ遊び ・ごむとび ・まり ・こま ・とんとんすもう ・布ほん ・凧 ・編む ・空気砲 ・ひっくりかえしげーむ	
②教材研究リーフレット配布 宇都宮市内11園 2500部配布	認定みどりこども園 宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園 認定こども園釜井台幼稚園 つながるほいくえん釜井台 つながるほいくえん御幸ヶ原 ナーサリースクールとまつり	認定しらゆりこども園 さくら認定こども園 つるた保育園 こぼと保育園 風と緑の認定こども園
③地域交流イベント	2021年12月6日(月) 16:30~18:30 9日(木) 16:30~18:30	宇都宮共和大学シティキャンパス
④交流保育 つるた保育園 年長・年中80名	2022年1月18日(水)	新型コロナウイルス感染症につき中止
⑤オンライン交流	交流保育が困難な場合の代替え手段として	中止



「あそびでちゃれんじ！」リーフレット



とんとんすもう↑ ↓ひっくりかえしげーむ



Youtube動画



地域交流イベントちらし



地域交流イベントの様子



## 2-3. 報告会

報告会の実施参加実績一覧を表4に示す。(1)学内報告会では、第1回・第2回報告会ともに、連携園の保育教諭に講師として参加いただき、保育教諭の目からみた交流保育の様子および帰園後の子どもの活動の様子について講和いただいた。学生からは、交流保育の経験が日常の保育に生かされていることへの驚きと感激の声が聞かれた。第1回地域報告会では、今年度の実践の中間報告に加え、後半の活動「あそびちゃれんじぷろじえくと」の活動に関するアンケートを実施し、報告会参加者も計画に参画する機会を設けた。

(2)栃木県主催の報告会は、中間報告会・成果報告会ともにオンラインでの実施となり、大学の教室から参加した。

さらに、3年間の実践を研究的にまとめ、「大学コンソーシアムとちぎ」が主催する「第18回学生&企業研究発表会」にて発表した。「コロナ禍における社会環境に応じながら交流方法を工夫し、学生や子どもなど次世代の育ちを支え、栃木を元気にする教育環境を形成する役割を果たしている」と評価され、「栃木銀行賞」を受賞した。

表4 報告会の実施・参加実績一覧

(1) 学内報告会・地域報告会			
第1回学内報告会	2021年6月29日(火)	対象： 子ども生活学部 1年・2年	講師：認定しらゆりこども園保育教諭 保育教諭 吉田麻美先生 保育教諭 釜井梨恵先生
第2回学内報告会	2021年10月7日(木)	対象： 子ども生活学部 1年・2年	講師：認定みどりこども園 園長 岩本眞砂枝先生 保育教諭 飯塚美貴先生
第1回地域報告会	2021年11月13日(土)～14日(日)		長坂キャンパス5-501教室 田島愛、笹島朱音、飯島万葉、 佐藤実紗希、柴田菜々子、 網野有紗、小松友香
第2回地域報告会	2022年3月19日(土)		長坂キャンパス3-204教室 黒須彩夏、田野井悠莉
(2) 栃木県主催報告会			
中間報告会	2021年10月14日(木)	10:00～12:00	田島愛、笹島朱音、 飯島万葉、柴田菜々子、 網野有紗
年度末報告会	2022年2月4日(金)	10:00～12:00	田島愛、笹島朱音、 飯島万葉、佐藤実紗希、 柴田菜々子、網野有紗、 小松友香、大下千鶴、 黒須彩夏、田野井悠莉
(3) 大学コンソーシアムとちぎ 学生&企業研究発表会 栃木銀行賞受賞			



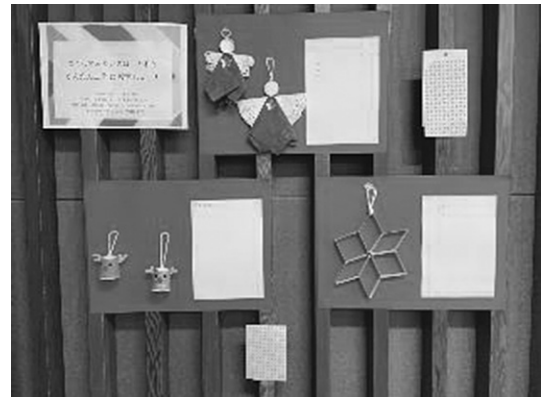
第1回学内報告会の様子



第2回学内報告会の様子



講師からの助言（学内報告会）



地域報告会におけるアンケート



第1回地域報告会 ポスター報告



オンラインにて実施した県の報告会



### 3. おわりに

令和3（2021）年度は、「こどもの森」を活用した交流保育の実施回数が年間10回と大幅に増加、さらに、新たに2園の参加があった。続くコロナ禍のため、就学前施設は園外保育の実施が困難であるという。「学生の見守りにより、安心して活動できる場」として、本学の教育資源に対する地域の就学前施設のニーズの高まりがみられた。

教材提案型の交流保育では、夏の花紙を用いた「色水遊び」の実践、冬の「ぬくもり素材で遊ぼう&とんとんすもう」、「あそびちゃれんじ ぷろじえくと」を企画・実践した。今年度の教材研究の趣旨として、コロナ禍の状況を見通し、「一人で／友達と／きょうだいと／おうちの方と」「園でも／家庭でも」挑戦できる、「生活に身近な素材を用いた遊び」や「伝承遊び」を中心に行った。また、交流の方法として、オンライン、リーフレット・おたより、訪問型の交流と、複数の方法を組み合わせて、状況に応じて臨機応変に調整することで、交流を止めずに実施できた。

さらに、夏の色水遊びの「おたより」は、遊びにおける子どもの経験内容＝学びを園・家庭と共有する媒体となり、乳幼児期における遊びの意義を園・家庭と共有する重要な機会となった。

「栃木県大学地域連携活動支援事業」の助成による活動は今年度で終了となるが、今年度の実践を振り返ると、地域の就学前施設の本学の教育資源に対するニーズの高まりと有用性を確認することができた。

今後も続くと予想されるコロナ禍である。地域の保育者養成校として、本学の教育資源を地域に還元し、大学・就学前施設・家庭とが連携・協働して地域全体で学び合い、育ちあう教育環境づくりの模索を継続していきたい。

#### 令和3年度 きょうわ×こどもプロジェクト

宇都宮共和大学子ども生活学部	4年	田 島 愛
		笹 島 朱 音
		飯 島 万 葉
		佐 藤 実紗希
	3年	柴 田 菜々子
		小 松 友 香
		網 野 有 紗
		田野井 悠 莉
		大 下 千 鶴
黒 須 彩 夏		



## 2. 大学コンソーシアムとちぎ第18回学生&企業研究発表報告 地域の就学前施設との交流保育

宇都宮共和大学子ども生活学部 きょうわ×こどもプロジェクト  
4年 田島愛、笹島朱音、飯島万葉、佐藤実紗希、  
柴田菜々子、小松友香、網野有紗

**【概要】** 宇都宮共和大学子ども生活学部「きょうわ×こどもプロジェクト」による「地域の就学前施設との交流保育」について報告し、本活動の意義について検討した。その結果、大学・就学前施設・家庭が連携・協働して地域全体で学び合い育ちあう教育環境モデルを提示した。さらに、コロナ禍において子どもが安心して活動できる場や世代間交流の機会として機能から、地域の就学前施設および子ども・子育て家庭支援として機能する可能性を見出した。

**【栃木を元気にするには】** <学生による交流保育の計画立案・実践→園での遊びの充実→家庭での親子の会話や遊び→園と家庭の話題→学生へのフィードバック→学生の保育の理解の深まりややりがいの自覚化→実践力を身に付けて保育者として現場へ>という循環が、コロナ禍においても大学・就学前施設・家庭が連携・協働して学び合い育ちあう教育環境として機能し、学生や子どもといった次世代の育ちを支え、栃木を元気にすると考えられる。

### 1. 研究の背景および目的

2011年の宇都宮共和大学子ども生活学部開設以来、恵まれた校地一芝のグラウンド、アリーナ、子どもの森などを活かして、地域の就学前施設との交流保育を授業に位置づけ、実践してきた。「きょうわ×こどもプロジェクト」は、授業での取り組みの枠を超えてこの交流活動の充実を図り、「遊びで子どもの育ちを支えたい」とのねがいから、2019年に学生有志で立ち上げたものである。筆者らは2021年1月から先輩方の活動を引き継いできた。本稿では、これまでに組んできた交流保育の活動を振り返り、地域における本活動の意義とコロナ禍における役割について考察する。

### 2. 活動の概要

2019年度から今年度までの交流保育の実績を表1に示す。2019年度は来校型の交流保育を実施した(①～⑦)。しかし、2020年度はそのほとんどが緊急事態宣言発出につき中止、園外保育の場として校地貸与に変更となった(⑧～⑯)。また、唯一実施した⑩は感染拡大防止の観点から学生との交流をなくし見守りのみとなった。このようにcovid-19の影響により従来の交流の在り方を大きく見直す必要に迫られ、⑫YouTube配信による教材の提供を試みた。2020年11月に実施した地域報告会において試演会及びアンケート調査を実施した。その結果、動画配信よりリアルかつアナログな方法での交流を求める声が多く、状況に応じた段階的な交流方法を検討した。具体的には、教材提供を土台に<教材提案→+手紙による交流→+訪問型>とその都度の感染状況に応じて実践できるよう計画し、⑰～⑳にみるように、交流の度合いを随時調整して実践できた。この実績を受け、2021年度は感染拡大防止に配慮した来校型の交流保育と段階的な交流方法を想

表1 令和元（2019）年度～令和3（2021）年度の交流保育の実績一覧

年度	回	月日	連携園	参加園児	テーマ	備考1	備考2
2019年度	①	2019/6/1	認定みどりこども園	年長50名	思い切り体を動かそう	来校型	
	②	2019/6/8	認定しらゆりこども園	年少87名	森に親しもうー春	来校型	
	③	2019/10/30	認定しらゆりこども園	年少87名	森に親しもうー秋	来校型	
	④	2020/1/20	認定みどりこども園	年長・年中95名	色々な遊びをしよう	来校型	
	⑤	2020/1/25	認定みどりこども園	年長・年中95名	色々な遊びをしよう	来校型	
	⑥	2020/1/26	認定みどりこども園	年長・年中95名	色々な遊びをしよう	来校型	
	⑦	2020/1/26	認定しらゆりこども園	年少87名	森に親しもうー冬	来校型	
2020年度	⑧	2020/6/1	認定みどりこども園	年長50名、年中45名	思い切り体を動かそう	来校型	緊急事態宣言発出→校地貸与
	⑨	2020/6/8	認定みどりこども園	年少・満3歳・2歳	思い切り体を動かそう	来校型	緊急事態宣言発出→校地貸与
	⑩	2020/5/1	認定しらゆりこども園	年少89名	森に親しもうー春	来校型	緊急事態宣言発出→中止
	⑪	2020/11/18	認定しらゆりこども園	年少90名	森に親しもうー秋	来校型	学生との交流→見守りに変更
	⑫				色々な遊びをしよう	一般配信	youtubeにて教材動画配信
	⑬	2021/1/13	認定みどりこども園	年長・年中95名	色々な遊びをしよう	来校型	緊急事態宣言発出→校地貸与
	⑭	2021/1/14	認定みどりこども園	年長・年中95名	色々な遊びをしよう	来校型	緊急事態宣言発出→校地貸与
	⑮	2021/1/15	認定みどりこども園	年少・満3歳・2歳	色々な遊びをしよう	来校型	緊急事態宣言発出→校地貸与
	⑯	2021/1/27	認定しらゆりこども園	年少90名	森に親しもうー冬	来校型	緊急事態宣言発出→中止
	⑰	2021/2/1	宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園	年中	ぬくもり素材で遊ぼう	教材提案	緊急事態宣言発出
	⑱	2021/2/10	認定みどりこども園	年長・年中	ぬくもり素材で遊ぼう	教材提案、訪問型	
	⑲	2021/2/17	認定みどりこども園	年長・年中	ぬくもり素材で遊ぼう	教材提案、訪問型	
	⑳	2021/3/15	さくら認定こども園	年長	ぬくもり素材で遊ぼう	訪問型	
	㉑	2021/3/16	さくら認定こども園	年長	ぬくもり素材で遊ぼう	訪問型	
2021年度	㉒	2021/6/1	認定みどりこども園	年長	森に親しもうー春	来校型	学生の関わりー見守り中心
	㉓	2021/6/8	認定しらゆりこども園	年少45名	森に親しもうー春	来校型	学生の関わりー見守り中心
	㉔	2021/6/15	認定しらゆりこども園	年少45名	森に親しもうー春	来校型	学生の関わりー見守り中心
	㉕	2021/8/2	認定みどりこども園	年長・年中・年少	花紙に親しもう	訪問型	
	㉖	2021/8/3	認定みどりこども園	年長・年中・年少	花紙に親しもう	訪問型	
	㉗	2021/8/4	認定みどりこども園	年長・年中・年少	花紙に親しもう	訪問型	
	㉘	2021/8/5	認定みどりこども園	年長・年中・年少	花紙に親しもう	訪問型	
	㉙	2021/8/6	認定みどりこども園	年長・年中・年少	花紙に親しもう	訪問型	

※令和3（2021）年度は10月1日現在実施分のみ記載

定した教材提案型の交流保育に取り組んでいる（㉒～㉙）。

### 3. 地域における交流保育の意義

交流保育に際して筆者らは、教材研究－計画立案－実践を行い、子どもが主体的に取り組み、その子なりの試行錯誤や創意工夫が可能な魅力的な教材研究と環境構成に注力してきた。実践後は学生・教員ともに反省－評価を行い、連携園の先生方から講評をいただき、次の実践に活かした。私たち学生にとっては、この一連の活動が保育の学びを深めるものとなり、実践力の向上ややりがいに繋がるものとなった。また、卒業した先輩方からは「就職前にいろいろな園で実践できて勉強になった」「自分の課題だった臨機応変に動く力を少しでも身に付けることができた」等のコメントがあげられた。

連携園の先生方からの講評では、「子どもが繰り返し挑戦する姿から、学生さんが提供した教材や環境が子どもにぴったりだと感じた」と、子どもの活動の充実について語られた。また、「学生との関わりで園とはまた違う子どもの姿がみられ、子ども理解が深まるきっかけとなった」「教材や関わりなど、自分の保育を見つめ直す機会となった」など、先生方自身の今後の実践につな

がるコメントをいただいた。

さらに、園児の保護者からは「大学生とした遊びを家でも試しています」「様々な活動体験や日常あまり関わることの少ない年代（大学生）との交流は、子どもの心身の成長にとっても良い刺激（学び）の時間だと思う」「大学生にとっても保育活動を学べる機会が増えるので今後もぜひ継続してほしい」「大学生の目線で子どもたちの成長をお伝え頂いたことは保護者としても良い勉強になりました」など、本実践が地域の子育て家庭に親しまれ、学生の存在を身近に認識していることが分かった。

以上から、交流保育を契機にともに子どもの育ちを支え合う大学・就学前施設・家庭の連携・協働のありようを見出すことができた（図1）。

#### 4. コロナ禍における本活動の役割

2020年度のcovid-19の流行以降、年間の活動回数が増加した（表1）。連携園に聞き取りを行ったところ、来校型の活動について「感染拡大防止の観点からこれまで園外保育に行っていた地域の遊び場に行くことを控えている」「共和大なら学生さんの見守りの下、安心して遊ぶことができる」などの回答が得られた。また、訪問型の活動について「園内での活動も制限せざるを得ない中、子どもたちは学生が来てくれることを楽しみにしている」「子どもたちは『昨日の続き』を楽しみにしている。続けて来てくれることで活動が充実した」などの回答が寄せられた。つまり、園内の活動も制限されるコロナ禍において、地域の就学前施設にとって本学が「安心して活動できる場」として機能し、また、学生との「世代間交流」が子どもの生活に潤いを与え、園内の活動の充実にも繋がっていると考えられる。

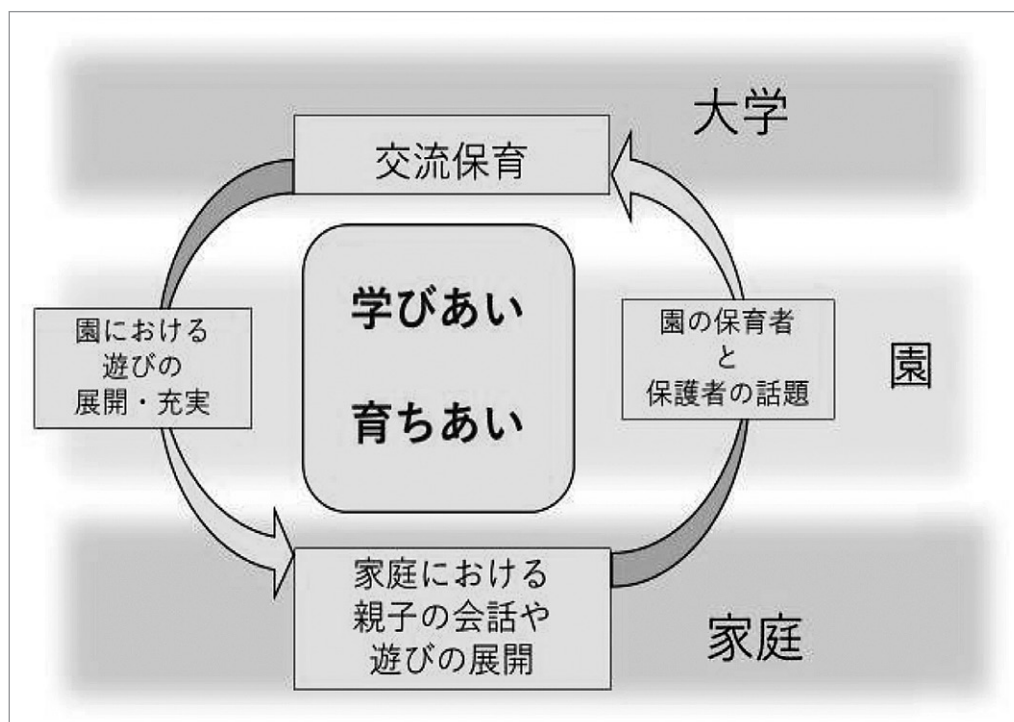


図1 交流保育を通した大学・就学前施設・家庭の連携・協働モデル



## 5. 今後の課題

今夏の変異株出現による未就学児への感染拡大を受け、本活動を安心・安全に実施するための方法の工夫・検討が必要である。今後も続くと予測されるコロナ禍だが、人との交流が困難な時代だからこそ、遊びを通して子どもの育ちを支え、地域全体で学び合い育ちあう教育環境づくりに取り組んでいきたい。

※本研究の実践の一部は、令和元～3年度栃木県大学地域連携活動支援事業の助成によるものである。

### 3. 宇都宮市環境学習センター事業報告

子ども生活学部 教授 桂 木 奈 巳

#### 1 はじめに

自然遊びの会バーベナでは、2020年度より「環境学習センター事業」として、宇都宮市環境学習センターにおいて自然遊びの行事を受託している。環境学習センターでの行事の実施は、宇都宮市環境出前講座として受託していた頃を含めると5年目になる。スタッフとなる学生は卒業年度まで継続して関わるのが通例で、毎年新たな学生も加わり運営している。行事の開催は毎年同じ場所であるが、学生が入れ替わると視点が異なる利点を活かし、毎年、プログラムに小さな改良を加えて継続している。2021年度は7月と1月の2回の行事を実施した。

#### 2 「親子で楽しく自然体験 in 環境学習センター7月」の実施

##### 2-1 実施の概要

実施の概要を表1に示す。学外での実施にあたり、事前に行った下見では、参加者の動線等の確認を行い、感染防止対策を強化した。さらに、危険生物を確認し、これに伴う立ち入り禁止区域の確認、採取可能な生物の確認を行った。今回は本行事に初参加の学生が多く、下見の際にリハーサルを行い、当日の動きや動線を確認した。

行事の周知は「市報うつのみや」にて行い、受付は環境学習センターが対応した。

表1 行事实施の概要

実施日時	2021年7月31日（土） 10：00～12：00
実施場所	クリーンパーク茂原東側林地
学生スタッフ	4年：檜山 幹弥（統括）、佐藤 優輝、市丸 玲菜 3年：建 優寧、大槻 友里 2年：海野 史帆、立川 ひかり、安藤 茜、小池 佑佳、生出 梨紗 1年：根本 桃華
プログラムの内容	ノーズ ②昆虫採集 ③生き物美術館 ④葉っぱで虫作り
下見	7月10日（土）（土）10：00～11：30、学生11名参加
参加者数	33名（保護者15名、子ども18名）

##### 2-2 活動の様子

当日の活動の様子を資料1に示す。本行事とコロナウイルス感染者増加に伴う警戒度レベルの上昇の時期が重なり、行事の翌日から環境学習センターの閉館という状況の実施であった。行事の直前まで開催が確定せず、不安な中での準備となった。当日は予想通り厳しい暑さの中での開催となったが、熱中症等はなかった。今年はサイズの大きいショウリョウバッタが多く、これらを捕まえた子どもたちが両手にバッタを握りしめ、嬉しそうに見せて回る様子が印象的であった。今年は学生が偶然捕まえたスズメバチを参加者に見せることができた。実物を見ることは少ないようで、貴重な経験でありがたいとの感想をいただいた。後半の制作は屋外で休憩も兼ねつつ行い、ゆったりとした時間になった。

環境学習センターにおける行事については、NPO宇都宮環境行動フォーラムとの協働で実施しているが、市の環境課題の一つである「生物多様性」を前面に出すことが求められている。昨年に続き今回の行事でもコロナ対策のため、採取した昆虫類は離して展示として密集を避けた。そのため、希望するプログラムを実施できずに生き物同士のつながりを意識することが困難であった。数年は同様の状況が予想されることから、コロナ渦に対応できるプログラムを検討したい。

#### 資料1 活動の概要（バーベナのサイトより）

宇都宮市の環境学習センターで夏の行事を実施しました。

最初は「ノーズ」で、カブトムシ・セミ・ヘビのクイズをしました。次は昆虫採集でした。捕まった虫たちは、バッタやコオロギが中心でしたが、中には大きなコガネグモ、ツマグロヒョウモン、シオカラトンボもいました。今年も密回避のため、採取した虫たちは「虫の美術館」（ネイチャーゲーム・森の美術館）として、家族単位で「お気に入り」を展示いただき、それを皆で見て回るスタイルとしました。

後半は「葉っぱで虫をつくろう」。プリザーブド加工した葉を組み合わせて、自由な発想で虫を作っていました。

コロナ渦のため、この行事の開催も危ういところでした。プログラムにも制限があり、なかなか希望している事ができませんが、環境学習センターさまのご協力のもと、行事自体は無事終了いたしました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。



#### ○ごあいさつ

学生スタッフ11名でした。今回は猛暑のため、室内でご挨拶しました。



#### ○ノーズ

このフィールドで見られる生き物のクイズです。2年生たちが、がんばってくれました。





### ○虫取り開始

お待ちかねの虫取り。トマトパックや捕虫網を配り、虫取り開始。



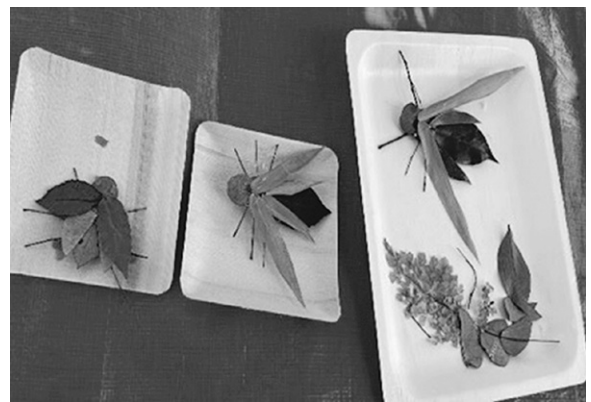
### ○虫の美術館

今年は(も)捕まえた虫たちは「虫の美術館」として、展示します。



### ○虫を作ろう！

家族毎に、葉っぱで虫作り。



乾燥して作品がすぐに壊れてしまわないように、プリザーブド加工した葉を使っています。

## 2-3 活動を終えて

### 2-3-1 参加者の反応

資料2に環境学習センターによる総括・評価、および参加者（保護者）に依頼したアンケート結果の一部を示す。概ね良い評価をいただいた。

### 2-3-2 学生の様子

表2に参加した学生の感想等を示す。コロナ対策のため、やや離れた位置から参加者への補助を行ったが、その距離の取り方が難しいようであった。昆虫採集は大学内の森でも実施しているが、環境の違いにより生じる課題も異なり、それに対する学生の反応が興味深い。たとえば「日向に置いた捕虫網の持ち手が熱くなる」現象があった。これに対して「次回からは日陰に置いてすぐに使えるようにしたほうが良い」と言う学生や、「金属に熱が当たって熱くなる事を経験できて、良かったのでは」という感想を出すなどして、お互いの考えの違いを共有し、育ちあう場面が多々見られた。

上級生の存在が大きく、教員が学生に伝える事柄とは異なる印象や効果があるようである。下級生においては年齢が近い上級生はお手本にしやすいようである。上級生は、自分自身が先輩に

助けてもらった経験があるためか、当然のように下級生を助けている。いずれにしても貴重な実践の場になっていることがわかる。

資料2 親子で楽しく自然体験 in 環境学習センター アンケート分析および評価

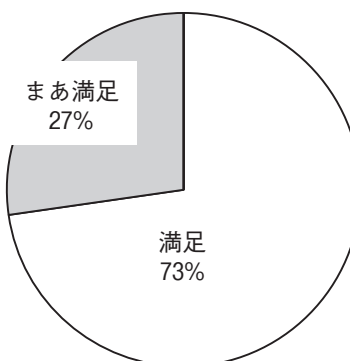
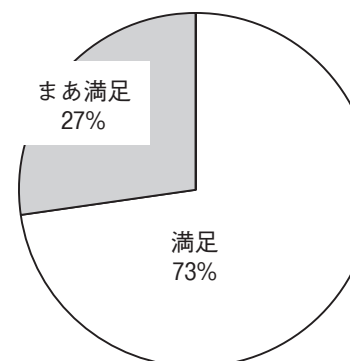
<p>総括・評価</p>	<p>暑い中、木陰をうまく利用しながら、屋外での活動を約2時間実施しました。虫取りはその年その年によって、つかまえられる虫の種類や数が異なるなど、その時々環境により大きく影響を受けるようです。毎回、最初は子どもたちが夢中になって虫取りをはじめますが、途中からは、親が本気になって網を片手に探す姿があちこちで見受けられました。虫取りは大人も童心に返ることのできるすばらしいプログラム（遊び）です。</p>
<p>参加者の反応・アンケート結果より</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="279 560 734 985"> <p>Q1) 講座内容はいかがでしたか？</p>  </div> <div data-bbox="750 560 1372 985"> <p>Q2) スタッフ対応はいかがでしたか？</p>  </div> </div> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 子どもにとって良い経験、思い出になった。ありがとうございました。</li> <li>• 子どもの自然とのふれ合いの機会をもっと増やしたいと思った。</li> <li>• 虫を大事にしたい。</li> <li>• 子どもと虫取りをする機会が減っているなかで、今回このような講座に参加できて良かった。</li> <li>• 観察を子どもと一緒にやる。興味を合わせると子どもも楽しそう。</li> <li>• 虫が大好きなので、色々教えて頂きながら見られたのが良かった。共和大学の皆様もとてもやさしく接してくれてうれしかったです。</li> </ul>

表2 参加学生の感想（抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 直前の練習まで緊張していたが、子どもも保護者も応答があったのでやりやすかった。</li> <li>• 不安があったが先輩の優しい声かけがあっただけで良かった。見守ってくれる先輩方の存在が大きかった。</li> <li>• 雰囲気作りがとてもよかった。</li> <li>• この場ならではの難しさを感じた（環境が良すぎた）。保護者の方が楽しんでくれたので、その姿があっただけで子どもたちも活動に目が向いた。</li> <li>• 子どもにとっていいモデル。コロナ渦で学生も近距離でかかわることができないからこそ、保護者の存在が大きかった。</li> <li>• 虫採りではお父さんが、クラフトではお母さんがそれぞれ夢中になって取り組んでいたのも印象に残った。</li> <li>• 今回の経験を活かし、次の行事でも多くの子どもたちが生き物に興味をもってもらえるように頑張りたい。</li> <li>• 両手にバツ、誇らしげな姿が印象的だった。</li> <li>• 保護者の活動への参加が積極的だった。保護者がいいモデルとして子どもたちの活動への興味関心を引き出していたように感じる。</li> </ul>
--

### 3 「親子で楽しく自然体験 in 環境学習センター1月」の実施

#### 3-1 実施の概要

実施の概要を表3に示す。昨年度の同時期の行事が中止となり、今回はその時のプログラムをそのまま使用した。よって、現地の下見は学生の引率が行わなかった。集客は7月と同様に行ったが、キャンセルを見込み定員より多く受け入れたが、予想以上にキャンセルが目立った。

表3 行事実施の概要

実施日時	2022年1月22日（土） 10：00-12：00
実施場所	クリーンパーク茂原東側林地、環境学習センター4階
学生スタッフ	4年：檜山 幹弥、佐藤 優輝 3年：建 優寧、大槻 友里、長野 あゆみ、河又 未来 2年：海野 史帆、立川 ひかり（統括）、生出 梨紗、海野 史帆 1年：根本 桃華
プログラムの内容	①トトロをつくろう ②生き物発見ラリー ③虫の生活への利用
下見	1月13日（木） 10：00~11：30
参加者数	35名（保護者16名、子ども19名）

#### 3-2 活動の様子

活動の様子を資料3に示す。この回は「生物の冬越し（屋外）」と「虫の生活への利用（屋内）」をテーマに活動を組み立てた。毎年恒例となっている「動物発見ラリー」（ネイチャーゲーム）では、手持ちのパターン12種のうちから5種を選んでプログラムを組み立てた。「虫の生活への利用」については、カイガラムシを観察したつながり、コチニールカイガラムシの色素を用いた2種の活動を行った。「コチニールで染めた毛糸を使ったカゴ作り」では、厚紙で作成した土台に毛糸を交互にまきつけて仕上げた。参加者はカイガラムシから得られる特徴ある「えんじ色」に驚いた様子であった。また、「コチニールを使用した食品の紹介」では、食品添加物でもあるコチニール色素を使った市販の食材を展示した。知らずに「虫」を口にしていたという感想も聞かれ、印象に残った様子であった。後半の室内での活動は休憩も兼ねている。各家族が自分達のペースで制作を行い、ゆったりした雰囲気が印象的であった。

#### 資料3 活動の概要（バーベナのサイトより）

宇都宮市の環境学習センターで冬の行事を実施しました。

まずは「トトロを作ろう!」。たくさんの落ち葉をつかって、家族毎に「トトロ」をつくっていただきました。材料は同じですが、個性豊かなトトロたちができました。

次は「動物発見ラリー」で、冬を越している生き物を紹介しました。ドンダリの穴（ゾウムシ）、ジョロウグモ、ウメノキゴケ、ヤママユ、カイガラムシを紹介しました。

休憩をはさんで、屋内では「木の実のフォトフレーム」づくり。屋外でトトロと一緒に撮影した写真を使用しました。もう一つは「コチニールカイガラムシ（えんじ虫）」で染めた毛糸を使ったカゴづくり。土台に糸をかけていだけでカゴができ上がります。コチニールは食品にもよく使われる色素で知らずに口にしています。「生活の中の身近な虫」を知っていただければ!と企画しました。4年生も最後の行事。4年間お疲れさまでした。

ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。環境学習センターの皆様にもお世話になり、ありがとうございました。





○ごあいさつ

学生スタッフ10名でした。寒さは覚悟！



○トトロを作ろう！

レジ袋と落ち葉でトトロをつくります！



○冬越しの生き物さがし

「あなあき」のドングリ探し。ゾウムシの幼虫が「ゾウに似ている」と話しています。



○木のフレームづくり

トトロと一緒に撮った写真をつかい、木のフレーム作りをしました。



○コチニール毛糸のかご作り

毛糸を巻いています。真剣です。



○コチニール色素を使った食品コーナー

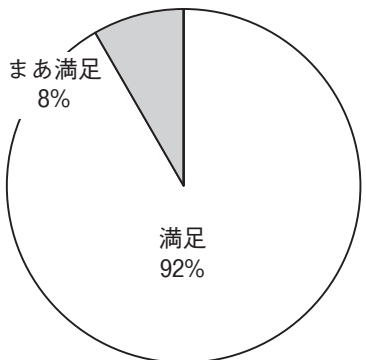
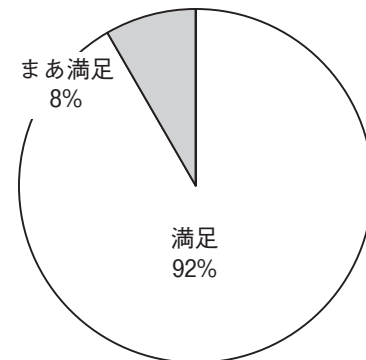
「え?! 虫を食べていたの?」とびっくりする参加者も。そうですね。

### 3-3 活動を終えて

#### 3-3-1 参加者の反応

資料4に環境学習センターによる総括・評価、および参加者（保護者）に依頼したアンケート結果の一部を示す。概ね良い評価をいただいた。

資料4 親子で楽しく自然体験 in 環境学習センター アンケート分析および評価

<p>総括・評価</p>	<p>生きもの発見ラリーでは、「ゾウムシ」「ジョロウグモ」「ウメノキゴケ」「カイガラムシ」「ヤマユガ」など5種類の生きものについて、親子で冬越しの様子や生態などについて、見たり、触れたり、学生から詳しい説明を聞いたりしながら学びました。また、集めた落ち葉の中に頭まで埋もれて遊ぶ子どももいて楽しいひと時を過ごしました。</p>	
<p>参加者の反応・アンケート結果より</p>	<p>Q1) 講座内容はいかがでしたか？</p>  <p>満足 92% まあ満足 8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 木に住んでいる虫が分かっておもしろかった。</li> <li>• 楽しく受講できた。勉強になった。</li> <li>• 自然に親しむ内容で興味深かった。</li> <li>• 色々な内容で楽しかった。</li> <li>• 野外と工作と両方でできて楽しかった。</li> </ul>	<p>Q2) スタッフ対応はいかがでしたか？</p>  <p>満足 92% まあ満足 8%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学生さんたちがとてもよく見てくださり、対応していただいた。</li> <li>• みなさん優しく声掛けしてくれた。</li> <li>• とても親切。説明も上手だった。</li> <li>• 学生さんも親切だった。</li> <li>• 若い人がよかった。</li> </ul>

#### 3-3-2 学生の様子

屋外で実施した活動では、学生自らが遊んで楽しむ様子がみられた。特にこの時期の行事を数回経験している学生は、積極的に落ち葉で遊んだり、ゲームに参加しており、この様子に下級生も触発されたようであった。

表4は行事に参加した学生の感想（抜粋）である。コロナ対策に配慮する感想があったり、自分自身の担当についての改善点を挙げる内容もあった。

表4 参加学生の感想

<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運営側のペースではなくゆとりがあって参加者の方々も楽しんで活動に参加していたように思う。</li> <li>• 先輩の誘導の仕方や声掛け、後輩や同級生、参加していた親子への接し方など、勉強になった。</li> <li>• バーベナの皆で楽しく活動できたと思った。子どもたちだけでなく、保護者の方々まで楽しそうに活動をしている姿が印象的で、今回参加できて良かった。</li> <li>• 今回活動をして外の活動でも密集してしまう場所があったので、コロナが収束するまではそのことも活動を決めるときや活動実施中に考えて行動するべきだったと感じた。</li> <li>• 寒い中「今虫いないよ。」と言っていた子どもがラリーをしてカイガラムシやゾウムシなどを発見し、興味津々に説明を聞いているのを見ることができた。ただ見るだけでなく、触れたり、実物を見たりしながら説明を聞くことでさらに関心が高まるのだと感じた。</li> <li>• 大人の手を借りず子どもが一生懸命作っていた。保護者は見ているだけではなく、声を掛けていてバーベナの活動を行う意味を感じられた。</li> </ul>
--

#### 4 おわりに

今年度は「みやの環境創造提案・実践事業」の関係で考案したプログラムを、行事の中で実践する形となり、その内容を多く取り入れた内容になった。学生自身も準備や当日の行事での参加者の反応から興味を持った様子で、次年度への事業のつなぎになり、望ましい形となった。

これらの行事を開催するにあたり、最大の課題は「集客」である。以前は関係する保育施設でチラシ配布、自然体験活動関連サイトへの登録等により集客をしていたが、これにかなりの労力を費やした。さらにこの方式であるとリピーターが大半となり、マンネリ化防止のためにプログラムの内容を変えることが負担であった。

しかし、学生と共に市や県の学生提案に応募するうちに、我々の活動の認知度が上がってきたようである。特に「みやの環境創造提案・実践事業」は今年度で7年目の応募となり、4種の提案をおこなっている。この過程で市や市の関連団体と行事を共催させていただけるようになり、集客は市報により行うことができるようになった。この利点には行事の周知が広範囲に行うことができたことが挙げられる。自然体験の場へのニーズは高いようで、募集受付後にすぐに満席となる。リピーターは非常に少なく、過去のプログラムを再利用でき、教員側の負担も減った。なにより、我々のグループの願いである「多くの人たちと自然を楽しむ」ことが可能となった。

コロナ禍の影響により子どもにおいても園や学校行事の中止や遊びの制約が多く、昨年に続き「体験不足」が指摘されている。これにより、子どもの心身の健康の基盤が損なわれる懸念が生じている。本活動がその解消の一助となるよう、可能な範囲で続けたい。



## Ⅶ. 宇都宮共和大学子ども生活学部 卒業研究

### 1. 2021年度卒業研究一覧

氏名	タイトル
網野 有紗	絵本の読み聞かせの効果と絵本選びについて
飯野 珠乃	気候変動問題と保育者にできること
糸井川杏佳	子どもとうた
遠藤 桃奈	子どもの絵からみえる心理
大出 理奈	子どもの好き嫌いについて
小野澤未桜	錯視と色彩
小松 友香	栄養バランスを考えたキャラクター弁当について
笹島 朱音	子どもの世界
佐藤実紗希	子どもの主体性や自立性を育む家庭で行うお手伝い活動
柴田菜々子	子どもの好む音について
末次 友美	お金に関しての親の教育について
直井 千咲	子どもが遊び意欲の出る手作り玩具
野村 咲花	乳幼児期の食体験を豊かにするためには
福田 有里	子どもの居場所における大学生の役割
増山 歩美	障害のある子どもの歯科治療の困難さについて
山川 夏実	母子間のスキンシップが子どもに与える影響
吉田 恵実	園庭環境と運動能力の関係性
渡邊 菜奈	大学生のストレスに対する香りの効果
飯島 万葉	保育教材としての紙
市丸 玲菜	どんぐりの活用
伊藤美沙希	子ども食堂と地域の繋がり
岩崎 七海	一人ひとりを大切にする保育
大森 未奈	ディズニーランドから学ぶ環境構成について
國嶋さゆり	いないいないばあの魅力
齋藤 真哉	父親と母親の育児の役割
佐藤 優輝	子どもたちの運動能力とACPの関係性について
塩田 泉	子どもの発達とおもちゃの特性
澁谷 愛	外国につながる子どもの母語と母文化の重要性
田島 愛	音楽療法とリトミックの相互性について
栃木 菜里	プロジェクト型保育の一考察
中山 祥花	名前の流行と傾向
半田 栞	仕掛け絵本と五感について
檜山 幹弥	ピタゴラ装置の制作を通して
福田 玲嘉	保育士不足の現状と課題
小川 百絵	ごっこ遊びの研究
矢口 綾音	キャラクターを禁止する園の意図
米沢 葉月	音楽が人間に与える心理的効果
中務 智也	ひとり親家庭の現状と心理に関する研究
松嶋 瑠璃	アサーティブコミュニケーションについての研究

## 2. 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会 第35回学生研究発表報告

主催：全国保育士養成協議会関東ブロック協議会

日程：2022年2月18日（金）

会場：植草学園大学（オンライン配信拠点）

### 1. 「幼児期における金銭教育について」

宇都宮共和大学 子ども生活学部4年 末次 友美

指導教員：蟹江 教子

### 2. 「外国につながる子どもの母語の重要性

—外国で子育てをする保護者の語りを通して—

宇都宮共和大学 子ども生活学部4年 澁谷 愛

指導教員：星 順子

## 2-1. 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会 第35回学生研究発表報告

### 外国につながる子どもの母語の重要性

—外国で子育てをする保護者の語りを通して—

澁谷 愛

(宇都宮共和大学 子ども生活学部 子ども生活学科4年)

#### 1. はじめに

本研究のテーマを選択した背景には、私自身が「外国につながる子ども」であり、3歳まで台湾で暮らしていたことが関係している。来日後、言語面や文化面で葛藤を感じ「ちがいに戸惑うこともあったが、成長した今では「自分にしかないルーツを楽しみながら大切にしていこう」と前向きな思いへと変化している。自分のルーツを受け止めながら成長できたことは、母語や母文化を大切にできた乳幼児期の環境が大きく影響しているのではないかと感じている。家庭内では母語である北京語を使用し、食事や習慣等台湾の文化に触れながら育ってきた。

「母語」とは、子どもが会う「初めてのことば」と言われている<sup>1</sup>。かつては、二言語を同時に教えると子どもが混乱する、情緒不安定、学力低下に繋がると思われていた時代もあった<sup>2</sup>。しかし、世界的に見ればひとつの言語だけで生きる人よりも複数の言語を使う人の方が多く、言語形成期といわれる生まれてから15歳ごろまでの子どもには、複数の言語を自然に習得する高い能力が備わっていることもわかっている<sup>3</sup>。ジム・カミンズは、「母語」がしっかりと育つと、もうひとつの言語も伸びるという「冰山説（二言語相互依存説）」を唱えている。表層面に現れる言語は別々であっても、深層にある見えない部分（認知・学力面の言語力）は共通し、ひとつの言語で学んだものはふたつ目の言語でも使えるという説である<sup>4</sup>。母語を土台にして、もうひとつの言語を伸ばしていくということは、日本で育つ外国につながる子どもの「母語」を大切にすることが、もうひとつの言語である日本語を習得する上でも重要と考える。また、中島は「母語」を大事にすることは、家族の一員としてのアイデンティティがしっかりと育つためにも必要不可欠と述べている<sup>5</sup>。自分のことを振り返ってみると、乳幼児期に自分の感情を表現しやすかったのは母語の北京語であ

った。成長とともに他者とのコミュニケーションの機会が広がり、柱となる言語は日本語に変化していったが、北京語も保持している。家庭で母語を使用し、母文化に触れられる生活環境があったからこそ、もう一つの言語である日本語も困難なく習得でき、現在は、どちらの言語・文化も大切にしたいと感じている。

#### 2. 目的

本研究の目的は、外国につながる子どもにとって「母語」はどのような意味を持つのかを保護者の語りから明らかにすることと、インタビュー結果を踏まえて、外国につながる子どもを含めた全ての子どもたちが生活しやすい保育環境を整えるために必要な配慮を考察することである。

#### 3. 研究方法

研究対象者は、母国を離れ外国で子育てをしている保護者二人である。スロバキアで子育てをする日本人と日本で子育てをするシリア人を対象とした。調査は、zoomを使用し、オンラインで半構造化インタビューを行った。質問内容は、子どもの「言語に関する状況」や「言語に関する思いや願い」等である。分析方法は、インタビューの録音記録から逐語録を作成し、何度も読み返しながらかコーディング作業を行った。カテゴリーや見出しを作成する際には、できるだけインタビューを行った保護者の語りにある表現を生かすようにした。

#### 4. 倫理的配慮

メールで研究協力依頼書を送り、調査内容を説明するとともに、インタビューを始める前に口頭で調査結果を研究目的以外では使用しないことを説明し、調査の同意を得た。



## 5. 結果と考察

### (1) インタビュー結果と考察

二人の保護者は、住んでいる環境や置かれている状況、家族構成等は全く異なっている。しかし、共通してどのように母語を維持していくのかを心配する声や、子どもが母語を聞く機会が少ないことを不安に思う語りが見られた。その背景には、「母語・母文化を保持したい」という願いがあり、それらを意識した子育てを行っていた。本研究では、保護者が母語を保持したい理由を、外国につながる子どもの母語の重要性と考え、次の5つのカテゴリーに整理した。

#### 【① 将来の選択肢を増やす】

母語が使用できると、子どもが母国へ帰国しても生活に困らないこと、国籍選択等の人生の選択肢が増えることに繋がると考えていた。子どもの幸せのために将来の選択肢は多い方が良くと考えていた。

#### 【②宗教の継承】

「母語を失うと宗教的な習慣も無くなります」という語りがあった。母語を守ることは、宗教という母文化の継承にも繋がることがわかる。

#### 【③アイデンティティの確立と子どもの精神的安定】

「母語、習慣、自分のルーツね。早い段階からそのようなことを守ったら、大きくなって精神的に安定できるし普通の人として生活できます」や、「母語を失うと、私たちは何人ですか」という語りからは、保護者は母語とアイデンティティに深い関係があることを理解していることがわかる。自分のルーツを肯定的にとらえる環境やアイデンティティの確立につながる関わりを考える必要があるだろう。

#### 【④保護者の精神的安定】

保護者の「私を一人にしないでじゃないけど…娘がいるから仲間がいるから癒されるというか…」という語りからは、母国を離れて子育てをする孤独感や不安が感じられた。子どもが保護者の母語を話すことは、保護者の精神的安定にもつながっている。

#### 【⑤家族とのコミュニケーション】

母国にいる家族と母語で会話ができないことの寂しさや、流暢に現地語が話せないことから、将来我が子と会話ができなくなることの不安が語られていた。母

語での会話は、家族の繋がりを深めるものであることがわかる。

### (2) 保育者として必要な配慮

保育への配慮としては、まず保育者が母語の意味や役割を理解することが必要だと考える。保護者の語りに見られたように、母語とアイデンティティの関係や保護者の母語保持への願い、外国生活における生活の不安等を理解することも子どもの育ちを支えることに役に立つと思う。さらに、自分のルーツを肯定的にとらえる環境構成として、世界地図や国旗、母国の絵本等を用意したい。また、全ての子どものアイデンティティの確立につながるように、一人一人の母語やそれぞれの家庭の文化を認めることを心掛けたい。

その上で、子どもや保護者と積極的にコミュニケーションを図り、共に生活する方法を一緒に考えたい。

日本の園のルールに合わせてもらうのではなく、子どもの育ちの背景を踏まえて生活環境を考え、一人一人の最善の利益を考慮した保育を行いたい。まずは、互いの「ちがいを」「知る」ことが、共生の社会へと変わっていくきっかけになるのではないかと思う。

## 6. おわりに

本研究では、保護者の視点から外国につながる子どもの母語の意味を検討し、保護者の母語保持への願いや母語の役割の一部を知ることができた。今後、保育者になった際には、子どもの視点からも、母語の役割を考えてみたい。今回のインタビュー調査は、これまでの自分の経験や記憶と照らし合わせる機会にもなり、点と点が繋がったように感じている。

インタビューに、ご協力いただいた保護者のお二人に深く感謝申し上げます。

## 7. 引用・参考文献

1. 中島和子 (1998) 『言葉と教育』 海外子女教育振興 財団、p.13
2. 前掲書、p.61
3. 咲間まり子 (2020) 『保育者のための外国人保護者支援の本』 かもがわ出版 p.16 (中島和子氏へのインタビュー内容)
4. 前掲書、p.17
5. 前掲書、pp.20-21

## 2-2. 全国保育士養成協議会関東ブロック協議会 第35回学生研究発表報告

### 幼児期における金銭教育について

末次友美

(宇都宮共和大学子ども生活学部子ども生活学科4年)

#### 1. 研究の背景と目的

保育実習や教育実習の自由遊びの時間に、子どもたちがおままごとをしている様子をしばしば目にした。子どもたちは買い物場面で、現金ではなくバーコード支払いやクレジットカード支払い、電子マネー支払いの動作をしていた。また、アルバイトをしていて、親子で買い物に来ている子どもがいた。お小遣いを親から貰ったり、自分でお小遣いが入った財布を持って、親に教えてもらいながら現金を使って買い物をしている姿が見られた。

このような子どもたちの様子から、今の子どもたちは現金の存在や使い方を知ってるのか、お金の価値観を理解しているのか疑問を持つようになった。

子どもは、小学校前のお金に関する教育の多くは家庭で行われている。そこで、保護者は家庭でどのような教育を行っているのかを本研究で明らかにしたい。

#### 2. 幼児期の金銭教育

貨幣(=お金)は、交換手段(物の購入)、価値尺度(物の価値を測る)、価値貯蔵(貯金する)という3つの機能がある。金融教育とは、これらのお金の機能や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育であり(金融広報中央委員会)、金銭教育の対象には児童も含まれる(村上, 2009)。しかし、小学校に入学する前の子どもの場合、発達段階を考慮して内容を単純に平易にする必要がある。

『保育所保育指針』と『幼稚園教育要領』を調べた結果「遊びや生活の中で、数や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気づいたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味

や関心、感覚を持つようになる」「幼児期は直接的な体験が重要であることをふまえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には、幼稚園生活では得難い体験を補完するなど、幼児の体験との関連を考慮すること」が書かれている。また「日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ」と書かれている。

金融広報中央委員会の資料(2002)によると、幼稚園で実施できる金融教育カリキュラムとして、「ものを大切にすることを学ぶ」「自分のものと他人のものとの区別を学ぶ」「欲しいものをすべて手に入れることはできないことを学ぶ」「約束を守ることを学ぶ」「労働の価値に気付かせる」「貨幣の基本的な機能を理解する」の6点をあげている。

#### 3. 調査の方法

本研究では、幼稚園の協力を得て、子どものお金に対する知識と家庭での金銭教育の状況について明らかにするために、アンケート調査を行った。アンケートは年中クラスと年長クラスの保護者を対象に、2021年10月に行った。アンケート調査票は〇〇票配布し、〇〇票回収できた。回収率は64.3%であった。

#### 4. 調査結果

##### (1) 対象者の属性

アンケート調査の回答者は、母親95.0%、父親3.1%、祖母1.3%であり、母親が非常に多かった。子どもの年齢は、年中44.4%、年長55%であり、性別は男児56.3%、女児が43.8%であった。

##### (2) お金についての子どもの理解度

子どもたちはお金の役割や機能についてどの程度の知識を持っているか、保護者の視点から尋ねた。

「価格の認知(モノや商品に値段があることを知っている)」という子どもの割合は、年中が90%、年長が97.7%であった。「交換機能の認知(お金と交換するこ

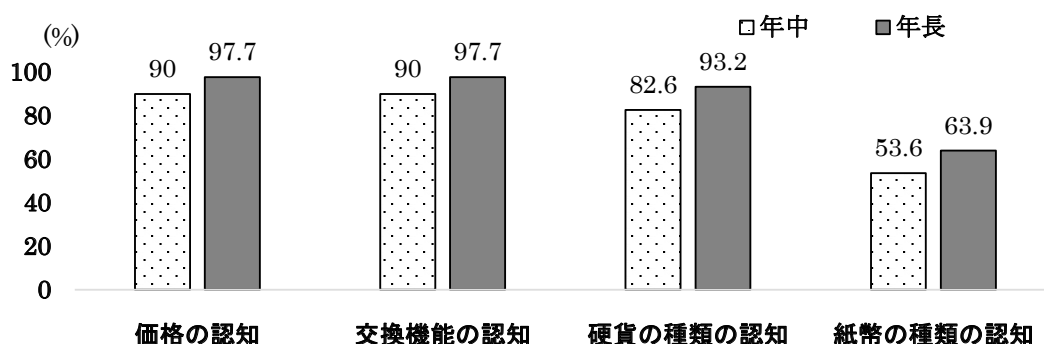


図1 お金についての子どもの理解の程度（理解している子どもの割合）

とでモノが自分のモノになることを知っている)」は、年中が90%、年長が97.7%、「硬貨種類の認知（貨幣には種類があることを知っている）」は年中82.6%、年長93.2%、「紙幣の種類認知（紙幣には種類があることを知っている）」は粘稠53.6%、年長63.9%であった。

親のキャッシュレス化と子どものお金についての理解の程度を検討したところ、違いは見られなかった。

### (3) 家庭での金銭教育

「お小遣いの有無」「買い物でお釣りを受け取ること」「買い物で支払うこと」「現金に触れる機会」について尋ねたところ、年中では約4割、年長では約5割が子どもにお小遣いを渡しており、多くの家庭で子どもが現金に触れる機会を作っていた。しかし、年中、年長ともに約2割の子どもが現金に触れる機会は少なかった。

### (4) 買い物での我慢

「買い物に行ったとき我慢すること」は、年中で49.3%、年長で40.9%が「よくある」と答えており、「時々ある」を含めるとほぼすべての保護者が子どもに我慢することを経験させていた。

### (5) 子どものお金に関する興味・関心

子どものお金に関する興味・関心は「よく示す」「時々示す」をあわせると、年中で75.0%、年長で80.7%となり、多くの子どもたちがお金に興味・関心を示していた。

### (6) 自由記述欄のまとめ

どのような金銭教育を子どもにしたいと考えているか保護者に尋ねたところ、73.7%の保護者が自由記述欄に意見を書いてくれており、保護者の関心も高い

高いことが明らかになった。自由記述の内容としては、

- ・買うもの、欲しいモノの値段を見せたりしながら、持っているお金で買えるか、買えない時はどうすればいいのか、少しずつ学んでもらえればいい。
- ・モノの大体の値段を感覚的に理解してもらいたい。

「100円でできること」「1000円でできること」「10000円得る苦労」等を身につけさせたい。

- ・お金は働かないと貰えないもの。親（将来は自分）が頑張るもので、大切にしなければいけない。
- ・生きていくうえでのお金に必要性和どう使うか。お金を使えばなくなるし、お金を得るにはどうすればいいか。それが全てではないが、自分にプラスになる使い方、価値のある使い方をして欲しい。

などであった。保護者もお金の価値、重要性、使い方等を、遊びや生活の中で学んでもらいたいと考えていた。

### 5. さいごに

家庭でもキャッシュレス化は進んでいるが、多くの保護者が家庭で意識して子どもへの金銭教育を行っていた。子どもが現金に触れる機会をつくり、家庭でお金について話しあったりして、お金を使うことの意味、大切さを感じてもらうことが大切である。親が教えることも大切であるが、子ども自身がお金で買えるものには限度があり、我慢することやものを大切にすることも学んでほしい。

今回の調査は、お金についての認知度や経験は保護者に回答してもらった。子どもたちがお金について本当に理解しているのか、子どもを対象に確認が必要である。また、調査は1園（幼稚園）の保護者を対象としているため、対象者を増やしての調査が必要である。





# 資料





# I. 2021年度子育て支援研究センター事業報告

## 1. 主催事業

### (1) 子育て支援研究センター公開講座

第35回 6月26日(土)

「子どもの主体性を育み子どもによりそう保育」

参加者63名

第36回 10月30日(土)

「乳幼児の危機管理を考える」

参加者37名

### (2) 地域の就学前施設との交流を取り入れた保育者養成事業

#### 1) 来校型交流保育

認定みどりこども園

第1回 6月1日(火) 年長52名

第2回 11月24日(水) 年中48名

第3回 11月25日(木) 年少50名

第4回 11月26日(金) 年長51名

認定しらゆりこども園

第1回 6月8日(火) 年少45名

第2回 6月15日(火) 年少45名

第3回 12月7日(火) 年少45名

第4回 12月14日(火) 年少45名

風と緑の認定こども園

11月1日(月) 年長児90名

つるた保育園

12月22日(水) 5歳児30名

#### 2) 教材提案型交流保育

##### ①訪問型交流保育

認定みどりこども園

8月2日(月)～6日(金) 年少～年長児 150人/日

##### ②非接触型交流保育

蔓延防止措置により、訪問型交流保育から教材提案、お手紙、動画による交流に代替

2月～3月 年中～年長児

③あそびでちゃれんじ ふろぐらむ

- ・教材研究動画の発信 Youtube 10動画アップ
- ・教材研究リーフレット配布 2,500部配布 宇都宮市内11園
- ・地域交流イベント（宇都宮共和大学シティキャンパス）  
12月6日（月）・9日（木）
- ・交流保育つるた保育園 1月18日（水） 4・5歳児 感染症状況により中止

(3) T i n y（障がいのある子どもと家族の支援）

1) HPを利用した情報発信

2) お手紙による障害児施設との交流

3) SNSを活用した情報発信

4) サンタdeクリーン&ウォーク（実行委員、当日参加）

12月19日（日） ファンドレイザー賞受賞

5) 第9回T i n yファミリーコンサート（オンライン配信）

配信：12月～

- ①トーンチャイム演奏
- ②楽しいパネルシアター
- ③タンバリンダンス
- ④和楽器アンサンブル
- ⑤全員で大合唱「虹」

6) 彩音祭でのワークショップと展示活動

令和3年度宇都宮市民憲章賞受賞（宇都宮市）

(4) 親子遊びの会 ―子育てネットワークづくり―

第1回（第40回） 5月8日（土） 本学グラウンド

「ミニミニアスレチック」 参加者 子ども14名 保護者9名

第2回（第41回） 7月25日（日） 栃木トヨタ自動車会議室

「親子リトミック」 参加者 子ども8名 保護者9名

第3回（第42回） 11月28日（日） ミナテラスとちぎ

「忍者ごっこ」 参加者 子ども11名 保護者12名

第4回（第43回） 12月19日（日） ミナテラスとちぎ  
「お正月遊び」 参加者 子ども12名 保護者12名

第5回（第44回） 1月23日（日） ミナテラスとちぎ  
「親子リトミック」 参加者 子ども7名 保護者8名

第6回（第45回） 3月6日（日） ミナテラスとちぎ  
「親子リトミック」 参加者 子ども12名 保護者11名

(5) 卒業生のためのリカレント教育  
中止

## 2. 地域貢献事業

(1) 那須塩原市民大学 地域いきいき学部

「何だろくに答える、やさしい入門講座（後期）（宇都宮共和大学連携講座）  
中止

(2) とちぎ子どもの未来創造大学

「アイ（藍）でマイ箸袋を染めよう！」  
7月24日（土） 参加者28名 見学者35名

(3) 大学地域連携活動支援事業

地域の就学前施設との交流プロジェクト

1) 学内報告会

第1回 6月29日（火） 子ども生活学部1・2年生  
講師：認定しらゆりこども園 保教諭2名  
第2回 10月7日（木） 子ども生活学部1・2年生  
講師：認定みどりこども園 園長 保育教諭1名

2) 地域報告会

第1回 11月13日（土）～14日（日） 学生7名  
第2回 3月19日（土） 学生2名

3) 栃木県主催報告会

中間報告会（オンラインZoom）  
10月14日（木） 学生5名

4) 年度末成果報告会（オンラインZoom）

2月4日（金） 学生10名

(4) 令和3年度大学コンソーシアムとちぎ学生&企業研究発表会

大学地域連携活動支援事業「地域の就学前施設との交流活動」栃木銀行賞受賞

(5) 宇都宮市環境学習センター事業

「親子で楽しく自然体験 in 環境学習センター7月」

7月31日(土) クリーンパーク茂原東側林地

参加者33名(保護者15名、子ども18名) 学生11名

「親子で楽しく自然体験 in 環境学習センター1月」

1月22日(土) クリーンパーク茂原東側林地、環境学習センター4階

参加者35名(保護者16名、子ども19名)

(6) 親子ふれあいネイチャー事業 NPOうつのみや環境行動フォーラム

11月27日(土) 宇都宮共和大学内 子どもの森・アリーナ

参加者25名(保護者13名、子ども12名) 学生12名



## Ⅱ. 2021年度専任教員の社会貢献活動（子ども生活学部）

職 位	教員氏名	委嘱の内容		
		名称	職位	設置者
学長	須賀 英之	[各種審議会・委員会委員等]		
		栃木県私立学校審議会	会長代理	栃木県
		栃木県公私立高等学校協議会	委員	栃木県
		栃木県文化振興審議会	会長	栃木県
		栃木県文化功労者選考委員会	委員長	栃木県
		とちぎの元気な森づくり県民会議	会長	栃木県
		栃木県信用保証協会外部評価委員会	委員長	栃木信用保証協会
		うつのみや産業振興協議会	会長	宇都宮市
		那須塩原市社会教育委員	委員	那須塩原市教育委員会
		栃木県私立中学高等学校連合会	副会長	
		[団体兼職]		
		大学コンソーシアムとちぎ	副理事長	
		栃木県交響楽団	会長	
		栃木県楽友協会	会長	
		栃木県オペラ協会	理事	
		栃木県文化協会	常任理事	
		うつのみや文化創造財団	理事	
		宇都宮まちづくり推進機構	理事長	
		「よみがえれ！宇都宮城」市民の会	会長	
		宇都宮市中心市街地活性化協議会	会長	宇都宮市総合政策部
		全国音楽療法士養成協議会	理事	
		栃木銀行	社外監査役	栃木銀行
		あしぎん国際交流財団	理事	足利銀行
		宇都宮みずほ研修会	会長	みずほ銀行

学科	職 位	教員氏名	名 称	職 位	設 置 者
子ども生活学科	教授	河田 隆	栃木県子どもの体力向上推進検討委員会	副委員長	栃木県教育委員会
			幼児の体力に関する検討部会	部会長	栃木県教育委員会
			栃木県レクリエーション協会	副理事長	栃木県レクリエーション協会
			公益財団法人宇都宮市スポーツ振興財団	評議員 (議長)	公益財団法人宇都宮市スポーツ振興財団
			宇都宮市社会教育委員会	委員長	宇都宮市
			宇都宮市子ども子育て会議	委員	宇都宮市
			栃木県社会教育委員協議会	理事	栃木県教育委員会
			公益財団法人栃木県民公園福祉協会	評議員	公益財団法人栃木県民公園福祉協会
			那須塩原市民大学運営委員会	委員長	那須塩原市
			幼少期の体力向上サポート研修会 (県央・県南・県北、3回)	講師	栃木県教育委員会
			栃木県幼稚園連合会保育テクニカル 保育テクニカル講座	講師	栃木県幼稚園連合会
			壬生町保育研究会「運動遊びの指導・展 開法」研修	講師	壬生町保育研究会
			親子体操指導(2保育園)	講師	栃木県教育委員会
			那須町保育士研修会(3保育園)	講師	那須町こども未来課
子ども生活学科	教授	高柳 恭子	次期栃木県教育振興基本計画懇談会	委員	栃木県教育委員会
			那須町立保育園民営化に係る事業者選定 委員会	委員	那須町
			鹿沼市子ども・子育て会議	会長	鹿沼市
			那須塩原市公立保育園民営化応募事業者 の評価委員	委員	那須塩原市
			鹿沼市公立保育園民営化に係る事業者選 定委員会	委員長	鹿沼市
			全国健康保険協会栃木支部健康づくり推 進協議会	委員	全国健康保険協会栃 木支部
			社団法人全国幼児教育研究協会	支部理事	(社)全国幼児教育研究協会
			宇都宮大学教育学部附属幼稚園学校評議 員会	評議員	宇都宮大学
			教員免許状更新講習	講師	文科省委託/宇都宮 共和大学
			栃木県保育士部会研修会	講師	栃木県保育協議会
			栃木県幼稚園連合会教育研究大会	講師	(社)栃木県幼稚園連合会
			関東地区 地域活性化研修会	講師	全国認定こども園協会

			全国認定こども園協会ステップアップ研修会 鹿沼市保育士研修会 芳賀地区研修委員会研修会	講師 講師 講師	全国認定こども園協会 鹿沼市子ども未来部 芳賀地区幼稚園連合会
子ども生活学科	教授	田淵 光与	教員免許状更新講習 那須町保育所主任研修会 令和3年度「とちぎの幼小カリキュラム接続プロジェクト」 栃木地区幼稚園連合会教員研修会 さくら市幼保小連絡協議会 栃木県幼稚園連合会資質向上研修(ECEQ)	講師 講師 講師 講師 講師 講師	文科省委託／宇都宮共和大学 那須町子ども未来課 栃木県教育委員会 栃木市幼稚園連合会 さくら市 (社)栃木県幼稚園連合会
子ども生活学科	教授	蟹江 教子	宇都宮市男女共同参画審議会 宇都宮市都市計画審議会 栃木県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 運営協議会 栃木県職業能力開発審議会	委員 委員 委員 委員	宇都宮市 宇都宮市 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 栃木県
子ども生活学科	教授	土沢 薫	栃木県障害者施策推進審議会 栃木県障害者差別解消推進委員会 栃木県いじめ問題対策委員会 宇都宮市社会福祉施設事業者選考専門委員会 宇都宮市学校問題等対策専門委員会 栃木県公認心理師協会 栃木県公認心理師協会産業委員会 栃木県公認心理師協会被害者支援委員会 栃木県スクールカウンセラー活用事業 日光地区小学校現職教育教員研修会 児童向け心理教育授業 栃木県立特別支援青葉高等学園 教員研修 中堅養護教諭資質向上研修 家庭教育支援プログラム指導者研修 中堅幼稚園教諭等資質向上研修 栃木県幼稚園教育研究大会	委員 委員 委員 専門委員 委員 理事 委員 委員 SC、スーパーバイザー 講師 講師 講師 講師 講師 講師	栃木県 栃木県 栃木県 宇都宮市 宇都宮市 栃木県公認心理士協会 栃木県公認心理士協会 栃木県公認心理士協会 栃木県教育委員会 日光市立大沢、南原、猪倉小 日光市立猪倉小、大沢小 栃木県立青葉高等学園 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県教育委員会 栃木県幼稚園連合会

			栃木県保育協議会職員研修会 教員免許状更新講習  保育士等キャリアアップ研修 大田区保育実践力強化研修 宇都宮市民大学 さくら市民大学 家庭生活支援員養成研修	講師 講師  講師 講師 講師 講師 講師	栃木県保育協議会 文科省委託／宇都宮 共和大学  東京都大田区、茨城県 東京都大田区 宇都宮市 さくら市 栃木県ひとり親家庭 福祉連合会
子ども生 活学科	教授	杉本 太平	日本関係学会 日本関係学会研修委員会 埼玉県家庭教育アドバイザー養成研修 那須塩原市市民大学講座 那須塩原市子ども未来部養成研修 日本子育てアドバイザー養成研修  宇都宮市民大学 人間関係HRST研究会 教員免許状更新講習	運営委員 委員長 講師 講師 講師 講師  講師 会長 講師	日本関係学会 日本関係学会 埼玉県教育局 那須塩原市教育委員会 那須塩原市子ども未来部 日本子育てアドバイザー協 会 宇都宮市 人間関係HRST研究会 文科省委託／宇都宮 共和大学
子ども生 活学科	教授	月橋 春美	栃木県キャンプ協会 栃木県レクリエーション協会  宇都宮市冒険活動運営協議会 教員免許状更新講習  教員免許状更新講習	理事 理事  委員 講師  講師	栃木県キャンプ協会 栃木県レクリエー ション協会 宇都宮市 文科省委託／宇都宮 共和大学 文科省委託／公益財 団法人日本レクリ エーション協会
子ども生 活学科	教授	桂木 奈巳	教員免許状更新講習  宇都宮市環境審議会 宇都宮市環境大学 宇都宮市民大学	講師  委員 講師 講師	文科省委託／宇都宮 共和大学 宇都宮市 宇都宮市 宇都宮市
子ども生 活学科	准教授	今村 麻子	宇都宮市民大学 保育実習担当者研修会	講師 講師	宇都宮市 宇都宮市



子ども生活学科	准教授	星 順子	ファミリー・サポート事業会員養成講座 教員免許状更新講習  宇都宮市民大学 家庭教育オピニオンリーダー研修 幼児教育ネットワークセミナー  鹿沼市子ども・子育て会議	講師 講師 講師 講師 運営・講師 委員 委員長	中野区社会福祉協議会 文科省委託／宇都宮 共和大学 宇都宮市 栃木県総合教育センター JICA海外協力隊幼児 教育ネットワーク 鹿沼市
子ども生活学科	准教授	石本 真紀	月の家（要支援児童放課後応援事業）  栃木県家庭教育・子育て支援者広域ネット ワーク  栃木県スクールソーシャルワーカー 養成研修会	生活支援 講師 講師	特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会  栃木県  栃木県教育委員会
子ども生活学科	准教授	市川 舞	教員免許状更新講習  宇都宮大学教育学部附属幼稚園保育を語る 会	講師 講師	文科省委託／宇都宮 共和大学 宇都宮大学教育学部 附属幼稚園
子ども生活学科	専任講師	大島美知恵	日本音楽療法学会関東支部  リトミック研究センタ第一支局、第二支局  教員免許状更新講習  那須町千振保育園保育士研修（リトミック）  那須町黒田原第二保育園保育士研修 （音楽療法）  日本音楽療法学会スーパーバイザー 養成講座	幹事 指導スタッフ 講師 講師 講師 ファシリテーター	日本音楽療法学会関東 支部 リトミック研究センター 第一支局・第二支局 文科省委託／宇都宮 共和大学 那須町こども未来課 那須町こども未来課 日本音楽療法学会
子ども生活学科	専任講師	坪山 恵子	一般社団法人全日本ピアノ指導者協会 （ピティナ）  NPO法人くるみの会音楽振興会  宇都宮市文化協会	正会員 評議員 会員	一般社団法人全日本 ピアノ指導者協会 NPO法人くるみの会 音楽振興会 宇都宮市文化協会

## Ⅲ. 宇都宮共和大学子育て支援研究センター規程

(設置)

第1条 宇都宮共和大学内に宇都宮共和大学子育て支援研究センター（以下、「研究センター」という）を置く。

(目的)

第2条 研究センターは保育・幼児教育・子育て支援分野を中心にした学際的、実証的な調査・研究を行うとともに、地域福祉の向上に資する政策提言を行う。

2 前項の調査・研究の推進によりわが国の保育・幼児教育・子育て支援分野を中心にした理論、政策の発展・向上に貢献するとともに、その成果を本学の教育内容に反映させることにより、本学の教育の充実、高度化を図る。

3 研究成果を地域社会に還元するとともに、地域社会との積極的な交流を図ることにより、地域福祉の向上に貢献する。

(事業)

第3条 研究センターは第2条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業をおこなう。

- 一 保育・幼児教育・子育て支援分野を中心にした自主研究、共同研究
- 二 保育・幼児教育・子育て支援等にかかわる受託調査・研究
- 三 保育・幼児教育・子育て支援関連資料、データの収集、整備
- 四 保育・幼児教育・子育て支援等にかかわる政策提言
- 五 保育・幼児教育・子育て支援の人材育成を目的としたセミナー、講座等の開講
- 六 講演会、シンポジウム、公開講座、研究会等の開催
- 七 経営等診断、研修、コンサルティング活動
- 八 大学、研究機関、企業、行政等との交流、連携活動
- 九 研究年報、研究レポート、A研究成果等の発刊
- 十 その他第2条の目的達成のために必要な事業

2 前項に規定する自主研究、共同研究及び受託調査・研究は、次の各号に定めるところによる。

- 一 自主研究 当該研究に携わる研究者の過半数を研究員が占める研究で研究センターの研究費を用いて実施する研究
- 二 共同研究 研究費の全部または一部を研究センター以外の諸組織、機関等の研究助成を受けて実施する研究
- 三 受託調査・研究 研究センター以外の諸組織、機関からの委託等を受けて行う調査・研究

(組織)

第4条 研究センターは、子育て支援研究センター長（以下、「センター長」という。）及び教授会から選出された研究員並びに本学学長（以下、「学長」という）が任命する事務職員によって組織する。ただし、事務職員は必要に応じて置くものとする。

2 センター長は、本学専任教員の中から、学長が任命する。ただし、学長が必要と認める場合は、本学専任教員以外の者を任命することができる。

3 研究センターに、副センター長及び運営委員長を置く。副センター長及び運営委員長は、研究員の中から学長が任命する。ただし、副センター長は置かないことができる。

- 4 センター長，副センター長，運営委員長及び研究員の任期は2年（年度基準）とし，再任は妨げない。
- 5 学長，副学長および学部長は，研究センターの事業に関し，指導，助言を行うことができる。
- 6 研究センターにおける研究に必要な場合，専任教員以外の研究者を客員研究員として研究に参加させることができる。客員研究員は，センター長が任命し，任期は対象となった研究等の完了時を上限とする。
- 7 研究センターの発展のため，学外の研究者，経営者等に名誉顧問，研究顧問を委嘱することができる。名誉顧問，研究顧問の委嘱は学長が行い，任期は2年とし，再任は妨げない。
- 8 前項の顧問は研究センター長の求めに応じて，研究センターの事業に関し助言，指導等を行う。

（運営）

第5条 センター長は研究センターを統括し，副センター長はこれを補佐する。

- 2 研究センターを運営し，諸事業を遂行するため，運営委員会を置く。運営委員会は運営委員長が主宰し，運営委員長が指名する数名の研究員を運営委員とする。運営委員長は運営委員の中から，必要に応じて副運営委員長を指名することができる。
- 3 研究センターの事業や活動を検討するため，全研究員参加の研究員会議を必要に応じて開催することができる。研究員会議はセンター長が召集し，主宰する。

（運営委員会の業務）

第6条 運営委員会は，研究センターの円滑な運営を図るため，次の業務を行う。

- 一 各年度の事業計画の策定及び予算原案の作成
- 二 研究員から提出される自主研究，共同研究及び受託調査・研究の企画書，予算案査定
- 三 保育・幼児教育・子育て支援等にかかわる政策提言の検討
- 四 第3条第1項第五号から七号までに掲げる事業の企画，運営，実施
- 五 研究年報，研究レポート，研究成果等の刊行，発表
- 六 研究センターの施設・設備，資料等の整備及び管理
- 七 その他研究センター運営に必要な業務

（予算及び会計処理）

第7条 研究センターの予算は次の収入による。

- 一 各年度の本学予算に定められた研究センター経費
  - 二 第3条に定められた受託調査・研究等の諸事業による収入
  - 三 寄付金
  - 四 その他の収入
- 2 受託調査・研究等に関する予算配分・原稿料等の基準については別に定める細則によるものとする。

第8条 予算執行にかかわる会計処理は本学の同規程を準用する。ただし，出張旅費等については，名誉顧問，研究顧問及び客員研究員にも適用されるものとする。

## 附 則

この規程は平成31年4月1日から施行する。

## IV. 宇都宮共和大学客員研究員に関する要領

(趣旨)

第1条 この要領は、宇都宮共和大学都市経済研究センター規程第5条2及び子育て支援研究センター規程第5条2における客員研究員の取扱い等に関し、必要な事項について定めるものとする。

(称号の付与)

第2条 宇都宮共和大学都市経済研究センター及び子育て支援研究センター（以下「センター」という。）は、優れた知識、技術及び経験を有し、本学の研究・教育の充実発展に資すると認められる者に客員研究員の称号を付与することができる。

(指名)

第3条 客員研究員は、センター長が指名し、教授会に報告するものとする。

(付与期間)

第4条 客員研究員の称号は、年度ごとに付与する。ただし、年度途中の場合は、当該年度内の付与とする。

2 客員研究員の称号の付与期間は1年とし、再任を妨げない。

(施設の利用)

第5条 客員研究員は、学長の許可を受けて本学の施設等を利用することができる。

(遵守事項)

第6条 客員研究員が、本学において研究・教育に従事する場合は、本学の諸規則等を遵守するものとする。

2 客員研究員が、故意又は重大な過失によって本学に損害が生じたときは、客員研究員はその責めを負うものとする。

(謝金)

第7条 本学は、必要と認める場合、客員研究員に謝金を支給することができる。

2 前項に規定する謝金については、別に定める。

(交通費)

第8条 本学の依頼に基づき出張する場合は、交通費の全部又は一部を支給することができるものとする。

(称号の取消)

第9条 客員研究員が、本学の名誉を著しく傷つける行為をした場合は、センター長は客員研究員の称号を取り消すことができるものとする。この場合、教授会に報告するものとする。

(雑則)

第10条 この要領に定めるもののほか、客員研究員の取扱いに関し必要な事項は、センター長が別に定めるものとする。

### 附 則

この要領は、平成25年11月1日から施行する。



子育て支援研究センター運営委員会（2021年度）

センター長 高柳恭子  
副センター長 田淵光与  
運営委員長 石本真紀  
運営委員 土沢薫 杉本太平 星順子 大島美知恵  
客員研究員 田所順子 丸橋亮子  
名誉センター長 牧野カツコ

第12号編集担当 星順子  
表紙デザイン 近江智子

研究センター年報 第12号

発行日 2022年3月31日  
編集・発行 宇都宮共和大学子育て支援研究センター  
〒321-0346  
宇都宮市下荒針町長坂3829  
TEL 028-649-0511(代)  
FAX 028-649-0660  
e-mail : kosodate@kyowa-u.ac.jp  
Website : <http://www.kyowa-u.ac.jp>  
印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷  
定価 1,000円（消費税込み）



# 宇都宮共和国子ども生活学部 子育て支援研究センター公開講座の記録が 装いを新たに、金子書房から出版されました。

## 目 次

### I部 子どもの育つ社会・環境を 考える

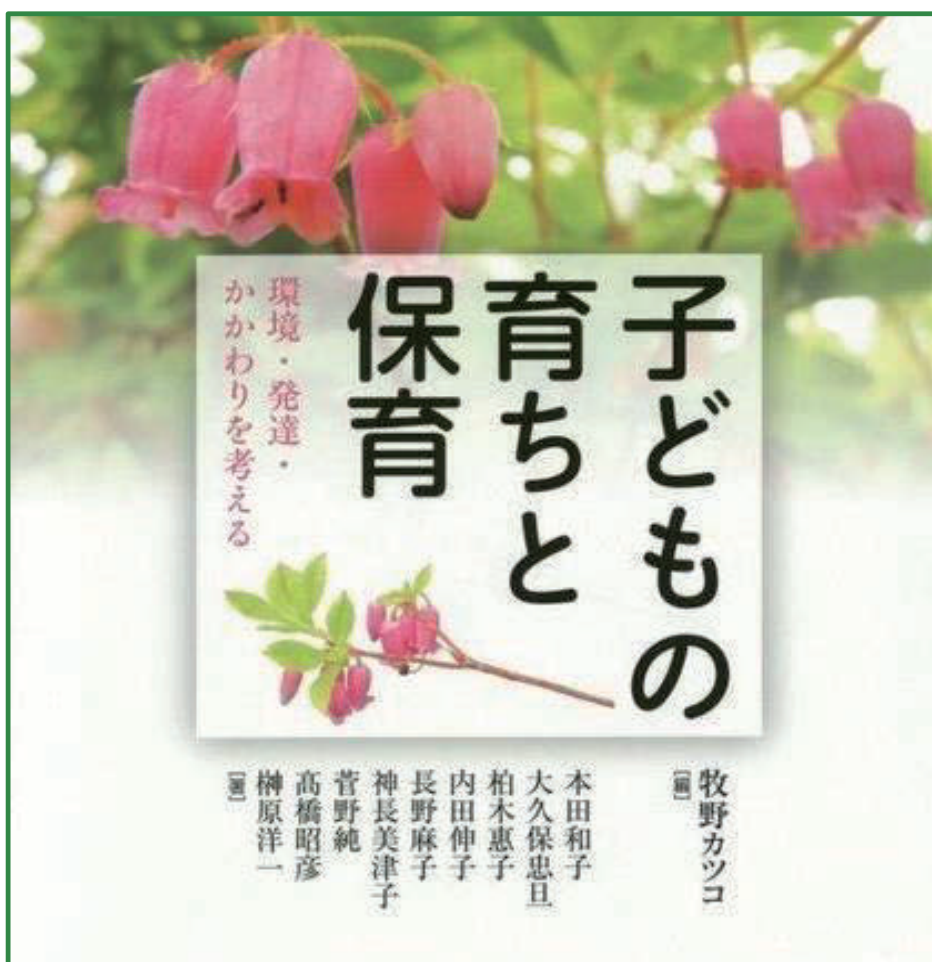
1. 子どもへのまなざし
2. 子どもの成長と自然
3. 子どもが育つ条件

### II部 子どもを育むかかわり方 を考える

4. 子どもの創造的想像力を育む親の役割
5. ことばと呼吸と音楽
6. 幼児期から児童期への教育

### III部 気になる子どものケアを 考える

7. 生涯発達の心の基礎づくり
8. 医療的ケアが必要な子どものレスパイトケア
9. 気になる子どもと脳科学



## 人とのかかわりや自然から学ぶことの大切さ

子どもが安心して育つために必要なことを子育て支援の専門家らが提言。

お母さんにまかせきりにしない子育て、幼児期から児童期へのなめらかな接続、発達障害について知っておきたいことなど、いま、保育に求められる子どもの見方・かかわり方がわかる。

金子書房

定価 本体 2300 円 + 税

表紙の写真は、栃木県那須高原で絶滅が危惧されているウラジロヨウラクというつつじの仲間です。本学名誉教授・元副学長 大久保忠旦先生が花の開花時期を見計らって那須高原に4回も足を運んで撮影されたものです。(本文 35 頁参照)

